

取スルヲ以テ告訴シ又ハ前ニ寺院區ヲ記載セサリシ場合ニ於テ前ニ記載シタル寺院區ト記シ又ハ爲換券ヲ偽造スル告訴狀ニ其署名カ偽造セラル、ト辨セラレタリシ人ノ署名シタル爲替券ト之ヲ記ルス等ノ如シ若シ矛盾スル事カ大切ナラサル部分中ニアラハ是ハ一般ニ贋物トシテ拋棄セラル、ト得斷定ノ後ハ特ニ然リ故ニ第四世ジョージ帝即位第一年ニ當テ第四世ジョージ帝ノ治世ノ第四年ニ於テ我當時ノ皇帝陛下ノ治安ニ反シテ牝馬ヲ竊取シタル云々ノ告訴狀ニ付テハ「ノ第四年」ナル言語ハ贋物トシテ拋棄サル、ト得然レト辨論ニ於ケル告白カ其存スル場所ニ於テ意味貫徹シ成立シ而テ前文ノ事情ニ矛盾セサルモノハ假令ヘ即チノ如キ説明文中ニ記シ且後文ノ告白ト矛盾スルコトアルヘシト雖モ贋物トシテ之ヲ拋棄スルヲ得サルハ今尙一般ノ規則ナリ告訴狀ノ一告示ニ乙ヨリ拂渡金手形ヲ竊取スルコトヲ以

テ甲ヲ告訴シ第二ノ告示ニハ乙ヨリ銀行紙幣ヲ竊取スルコトヲ以テシ而テ第三ノ告示ニハ前文ニ記シタル惡意ヲ以テ竊取セシ如キ物品ヲ收受スルコトヲ以テ甲ヲ告訴セリ此告訴狀ハ重複ノ理由ヲ以テ故障スヘキモノニアラスト斷定ノ後ニ認ラレタリキ如何トナレハ先ツ第一ニ第三ノ告示中ノ關係ノ言語ハ必スシモ甲カ物品ヲ竊取スルコトヲ表サ、リキ而テ第二ニハ若シ此言語カ果シテ之ヲ表シタリセハ此告示ハ頗ル證明シ能フヘキモノナリセハナリ

而テ上文所陳ノ陪審員ハ其上文所陳ノ宣誓ノ上尙云々ノ事ヲ訴フ、或ハ若シ證言カ直ニ上文ト連續サルレハ簡單ニ左ノ如シ文ヲ起スヲ得

而テ云々ノ事ヲ

ト書シ進ンテ證言ノ事件ヲ記ルス然レモ若シ證言ノ事件カ只上文ノ人又ハ物ノ附記ニ過キサルモノナル時ハ是ヲ始ムルノ右ノ如ク正式ヲ要セサルナリ故ニ甲ハ官吏タルヲ以テ云々ノハ甲カ官吏タリシ充分ナル證言ナリ甲ハ乙カ偽造罪ノ爲ニ告訴サレシヲ知リテ乙ニ對スル證人ヲ隱匿セシヲハ乙カ告訴サレシヲ充分ナル證言ナリ又偽誓ノ告訴狀ニ該訴訟ノ審問ニ於テ被告人カ云々ヲ陳述セリト記シタル場合ニ於テ是ハ訴訟カ審問サレシヲ充分ナル證言ト認ラレタリキ

第三 告訴狀ノ結文

習慣法ニ於ル罪ノ爲ノ結文、一習慣法ニ於ル罪ノ告訴狀ハ左ノ如ク文ヲ結フ

我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ

妨害ノ告訴狀ハ通例左ノ如ク文ヲ結フ

我女帝陛下ノ總テノ臣民ノ大害及普通ノ妨害ニマテ并治安等ニ反

シテ

然レモアドコンミューン、ノキユメンナム(普通ノ損害ナリマ)ナル結文ハ

緊要ニアラサルカ如シ

下文ニ記載スル條例法頒布前ハ我女帝陛下ノ治安ニ反シテナル言語ハ蓋シ總テノ事件ニ於テ緊要ナリキ尤モ義務懈怠ノ告訴狀ハ此限ニ在ラスト雖モ然レモ此等ノ告訴狀ニ於テモ亦此言語カ一樣ニ用サラレタリ

然レモ第四世シヨリシ帝即位第七年ノ條例法第六十四章第二十條ニ依テ何レノ重罪又ハ輕罪ノ何レノ告訴狀又ハ告發書ニ係ル裁判ハ斷定又ハ法外刑ノ後ニテモ又ハ白狀、闕席又ハ其他ニ依テニモ拘ハラヌ

治安ニ反シテナル言語ノ欠乏ノ爲ニ停止サレ又ハ廢棄サレサルヘシ
 此條例法ノ効果ハ斯ノ如キ故障ハ只止訴答辨ヲ以テ之ヲ爲シ得シノ
 ミニアリキ現今ハゾキトリヤ女帝即位第十四年及第十五ノ條例
 法第百章第二十四條ニ依テ治安ニ反シテナル言語ノ遺漏ハ告訴狀ニ
 對スル故障ヲ成サ、ルナリ
 女帝陛下ノ帝權及威權ナル言語ハ常ニ用サレタリト雖モ決シテ必
 要ニアラサリキ

條例法ニ依ル罪ノ爲ノ結文——條例法ニ依テ創定サレタル罪ノ告訴狀
 ハ左ノ如ク文ヲ結フ

斯ノ如キ場合ニ於テ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ反シ而テ
 我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ

條例法カ全ク罪ヲ創定シ又ハ習慣法ニ於ル罪ヲ尙重キ性質ノ罪ト爲

ス(例ヘハ一輕罪ヲ條例法ハ一重罪トナス場合ノ如キ)場合ニ於テハ其
 罪ノ告訴狀ハ條例法^{コソトラ、フカルマム、スダナユナ}ノ制定ニ反シテナル言語ヲ以テ文ヲ結ハサル可
 ラス若シ條例法カ罪ヲ尙重キ性質ノ罪ト爲サスシテ只刑罰等ヲ増加
 シ又ハ否ヲサレハ之ヲ變スル(例ヘハエリザベス女帝即位第五年ノ條
 例法第九章ニ於ル偽誓罪ノ如キ)ノミナレハ告訴狀ハ其罪ヲ條例法ノ
 範圍内ニ入レンカ爲ニ條例法ノ制定ニ反シテト文ヲ結ハサル可ラス
 但シ若シ是レカ斯ク文ヲ結ハスト雖モ尙習慣法ニ於ケル罪ノ告訴狀
 ノ爲ニハ可ナルトヲ得ト云ハレタリキ然レモ此ロルドヘール^(名人)ノ定
 說ハ現今法律トシテ認メラレヘキモノナラサルカ如シ若シ條例法カ
 刑罰等ヲ増加シ又ハ變スルトナク只習慣法ニ於ル罪(例ヘハ大反逆ノ
 如キ)ヲ表明スルニ止ラハ其罪ノ告訴狀ハ條例法ノ制定ニ反シテト文
 ヲ結ヒ又ハ習慣法ニ於ル罪ニ於ルカ如ク文ヲ結フヲ得

然レモ條例法カ特別ノ狀況ヲ以テ習慣法ノ罪ヲ犯ス者ノ習慣法上ニテハ得ルノ權利アリタルヘキ或ル特許又ハ恩惠ヲ奪ヒタル(例ヘハ習慣法ノ重罪ヨリ僧徒ノ恩惠ヲ奪タル場合ニ於ルカ如ク)ノミナル場合ニ於テハ其罪ノ告訴狀ハ假令ヘ條例法ニ記載ノ狀況ヲ以テ之ヲ犯シタリト告訴スルト雖モ條例法ノ制定ニ反シテト文ヲ結フ可ラス故ニ謀殺、故殺、強盜、夜盜、家屋內ノ闖入、住居家屋內ノ竊盜、馬竊盜及其種類ノ告訴狀ハ條例法ノ制定ニ反シテト文ヲ結フヘカラス尤モ末ノ二三例ニ於ケル竊盜カ習慣法ニ於ケル竊盜ノ主物ヲサリシ物件ニ係リテ犯サレタレハ此限ニアラサルナリ海上ニ於テ犯シタル罪ニ對シテクトリヤ女帝即位第七年及第八年ノ條例法第二章ニ依リ巡回裁判期ニ於テ出サレタル告訴狀ハ條例法ノ制定ニ反シテト文ヲ結フヲ要セサルナリ重罪ノ爲ニ最前ノ決罪後ノ竊盜罪ニ係ル告訴狀ヲ以テ終身

徒刑ノ刑ノ言渡ヲ保證センカ爲ニハ其告訴狀ハ條例法ノ制定ニ反シテト文ヲ結フヲ要セサルナリ
 一條例法カ罪ヲ制定シ而テ他ノ一條例法カ罰ヲ定ムル場合ノ如ク一條例法カ他ノ一條例法ニ關係スル場合ニ於テハ其罪ノ告訴狀ハ數條例法ノ制定ニ反シテト文ヲ結ハサル可ラス又一條例法カ罪ヲ告示シテ刑ヲ該テ而ルニ後ノ條例法ニ依テ其刑變セラレタル場合ニ於テハ告訴狀ハ數條例法ノ制定ニ反シテト文ヲ結ハサル可ラス然レモ若シ一條例法カ一罪ヲ罰金ニ該テ而ルニ後ノ條例法カ之ヲ重罪ト爲サハ其重罪ノ告訴狀ハ條例法ノ制定ニ反シテト文ヲ結ハサル可ラス罪カ數個ノ獨立ナル條例法ニ依テ禁セラレタル場合ニ於テハ其告訴狀ハ數條例法又ハ條例法ノ制定ニ反シテト文ヲ結フヲ得若シ罪ヲ制定スル條例法カ臨時ノモノニシテ而テ他ノ條例法ニ依テ繼續サレ又ハ永

續ノモノト爲サルレハ其罪ノ告訴狀ハ條例法ノ制定ニ反シテト文ヲ
 結フヲ得然レモ前ノ條例法カ廢セラレ而テ後ノ一條例法ニ依テ再
 生シタル場合ニ於テハ假令ヘ正説家ノ言ニ從ヘハ條例法ノ制定ニ反
 シテナル結文ニテ充分ナルヘシト云フト雖モ斯ノ如キ場合ハ數條例
 法ニ反シテト文ヲ結ヘハ尙穩當ナリトロルドヘール(名入)ハ云ヘリ海外
 ニ於テ犯サレタル然レモ條例法ニ依テ英國ニ於テ訊問スヘキモノト
 爲サレタル習慣法ノ重罪ノ告訴狀ハ條例法ノ制定ニ反シテト文ヲ結
 フヲ要セサルナリ

條例法ノ制定ニ反シテト文ヲ結フノ必要タル時之ヲ遺漏スルハ止テ訴
 答辨ノ旨意ト爲スヲ得假令ヘザキクトリヤ女帝即位第十四年及第
 十五年ノ條例法第百章第二十五條頒布以來之ヲ裁判停止ノ請願又ハ
 誤審狀ノ旨意ト爲スヲ得スト雖モ如何トナレハ是レハ第四世ジョー

ジョ帝即位第七年ノ條例法第六十四章第二十條ニ依テ補ハレサレハナ
 リ又ザキクトリヤ女帝即位第十四年及第十五ノ條例法第百章頒布
 前ハ數條例法ト云ハスシテ條例法ノ制定ニ反シテト文ヲ結ヒ又ハ其
 反對ニ文ヲ結フハ止訴答辨ノ旨意ト爲スヲ得タリキ然レモ何レノ
 重罪又ハ輕罪ノ告訴狀又ハ告發書ニ係ル裁判ハ斷定又ハ法外刑ノ後
 ニテモ又ハ白狀闕席又ハ其他ニ依ルモ之ニ拘ハラズ數條例法ノ制定
 ニ反シテナル言語ノ代リニ條例法ノ制定ニ反シテナル言語又ハ其反
 對ノ挿入ノ爲ニ停止サレ又ハ廢棄サレサルヘシ(第四世ジョー)帝即
 位第七年ノ條例法第六十四章第二十條現今ハザキクトリヤ女帝即位
 第十四年及第十五ノ條例法第百章第二十四條ニ依テ何レノ告訴狀
 ト雖モ此缺乏ノ爲ニ無効トナサレサルヘシ故ニ現今此缺乏ハ全ク大
 切ニアラサルナリ亦同條ハ何レノ告訴狀ト雖モ適當ナル又ハ正式ノ

結文ノ缺乏ノ爲ニ無効トナサレサルヘシトノヲモ定ム若シ告訴狀ニ習慣法ニ於ルカ如ク文ヲ結ハサル可ラサル時ニ條例法ノ制定ニ反シテト文ヲ結ハ、此錯誤ハ大切ナルモノニアラサルナリ而テ條例法ノ制定ニ反シテナル言語ハ贅物トシテ抛棄セラル、ヲチ得

第四節 一通ノ告訴狀ニ二人又ハ以上ノ被告人ノ聯合

數人一個ノ罪ヲ共ニ犯ス場合ニ於テハ其總數又ハ何レノ數ヲ其犯罪ノ爲ニ共ニ告訴スルヲ得又ハ其各ヲ別々ニ告訴スルヲ得故ニ若シ數人一個ノ強盜夜盜又ハ謀殺ヲ犯サハ其數人ハ其犯罪ノ爲ニ共ニ又ハ別々ニ告訴サル、ヲチ得二人又ハ以上ノ人カ一個ノ毆打ヲ犯シ又ハ虐待等ノ罪アル場合モ亦同シ假令ヘ其數人ハ各別ニ所業ヲ爲シタリト雖モ然レモ若シ被害カ總員共犯ノ所業ノ結果タレハ其數人ハ總テ其罪ノ爲ニ共ニ告訴セラル、ヲチ得詐僞ヲ以テ金員ヲ得タル場

合ニ於テ其詐僞ハ一名ノ被告人カ總テ共同一致シテ所業ヲ爲シタル他ノ數人ノ目前ニ於テ發言シタル言語ニ依テ行ハレタレハ其數人ハ總テ共ニ告訴セラル、ヲチ得タリト爲サレタリ又二人カ譏謗ノ歌ヲ共ニ唱タル場合ニ於テハ二人共ニ告訴セラル、ヲチ得タリト爲サレタリ二人又ハ以上ノ人カ共ニ一譏謗書ノ發行ヲ爲シタル場合モ亦同シ然レモ若シ其二人ノ發行各殊ナレハ即チ若シ組合人ニアラサル二人ノ書買カ各其店頭ニ於テ譏謗書ヲ販賣セハ其二人ハ別々ニ告訴サレサル可カラス又二人又ハ以上ノ人ハ偽誓又ハ煽惑ノ言語又ハ神聖ヲ瀆ス言語等ノ爲ニ共ニ告訴サル、ヲチ得ス如何トナレハ斯ノ如キ罪ハ其性質上各別ナレハナリ數人共ニ一所業ヲ爲シ然レモ其所業ハ自ラ不正ノモノニアラスト雖モ只各個人ニ別々ニ及連帶セスニ適用スヘキ狀況ノ理由ニ依テ不正ノモノトナル場合ニ於テモ尙其數人ハ

別々ニ告訴サレサル可ヲ又故ニ數名ノ商業組合人ハ曾テアップレンナシツテ商業修業人ノ勤務ニ従事セシトナクシテ其商業ヲ營ム爲ニ共ニ告訴セラル、トテ得ス然レモ第一等第二等正犯及事實前後ノ從犯ハ總テ同一ノ告訴狀中ニ共ニ告訴セラル、トテ得又ハ正犯カ最初ニ告訴サレ而テ從犯ハ正犯決罪ノ後ニ或ハ主タル罪ニ對シテハ其前ニ告訴セラル、トテ得事實前ノ從犯ノ部及ヴヰクトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第九十四章第二條第三條ヲ參看スヘシ(數人ハ各別ニ普通ノ妨害ニマテ普通ノ旅舎ヲ建設シタルトニ對シ若シ其數人カ別々ニ建設スル云々ト云ハル、ト雖モ皆共ニ告訴サル、トテ得ルト云フ猥褻ノ家ヲ保持スルトニ付テモ亦同シ然レモ各家ノ所有者ヲ別々ニ告訴スルハ尙好シ且實際尙通例ナリ

告訴狀中ニ被告人數名ノ不正ノ聯合ハ止訴答辨、裁判停止ノ請願又ハ

誤審狀ノ旨意ト爲サル、トテ得否ヲサレハ裁判所ハ一般ニ告訴狀ヲ廢棄スヘシ然レモ同一ノ告訴狀中ニ數種ノ人ニ對スル數種ノ告示アル場合ニ於テハ是ハ假令ヘ其告訴狀ヲ廢棄スル請願ヲ爲スノ理由タルトテ得ルト雖モ若シ其告示ハ數種ノ人ニ對スルニアラサレハ其實質上聯合セラル、トテ得ル如キモノナレハ蓋シ止訴答辨ノ源因タラサルナリ

二人ニ對シテ住居家屋内ノ竊盜ノ如キ共犯ニシテ單一ノ罪ヲ以テ之ヲ告訴スル告訴狀ニ付テハ其二人又ハ其各ヲ有罪ト斷定スルトテ得然レモ其二人ハ告訴ノ各別ナル部分ニ付テ有罪ト斷定セラル、トテ得ス而テ若シ其二人カ別々ニ有罪ト斷定サルレハ裁判ハ其一人ニ付テ赦免カ得ラレ又ハノルレ、プロセーシクハイ(訴訟ヲ停)カ記入サル、ニアラサレハ他ノ一人ニ對シテ言渡サル、トテ得スヴヰクトリヤ女

帝即位第十四年及第十五ノ條例法第百章頒布前ハ若シ二人カ贓物
 収受ノ罪ヲ以テ連帶シテ告訴サレタリセハ収受ノ連帶ノ所業ヲ證セ
 サル可ラサリキ其一人カ他ノ一人ノ不在中ニ之ヲ収受シ而テ后之ヲ
 交付セシ證據ハ無効ナルヘシ然レモ是ハ該條例法第十四條ヲ以テ脩
 正サレタリ其條ニ制定シテ云ク若シ或ル財産ヲ連帶シテ収受シタル
 爲ニ告訴サレタル二人又ハ以上ノ人ノ訊問上其人ノ一人又ハ以上カ
 別々ニ該財産ノ部分ヲ収受シタルトテ證セラルレハ斯ノ如キ財産ノ
 部分ヲ収受シタリト證セラレタル如キ者ヲ斯ノ如キ告訴狀ニ依テ決
 罪スルハ陪審官ニ於テ正當ナルヘシト現今ハ同一ノ明文アルゾ其ク
 トリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第九十六章第九十
 四章ヲ看ルヘシ數人ノ受贓者ハ同一ノ告訴狀中ニ各別々ナル収受所
 業ヲ以テ告訴セララル、トテ得數人カ夜盜罪及竊盜罪ノ爲ニ告訴サレ

タル場合ニ於テ一人ハ夜盜罪及竊盜罪ニ付テ有罪ト斷定サレ而テ他
 ノ數人ハ只竊盜罪ノ爲ニ付テ有罪ト斷定セララル、トテ得一告示中ニ
 ハ甲及乙ニ對シテ竊盜ノ爲ニ告訴シ而テ他ノ告示中ニハ乙ニ對シテ
 受贓ノ爲ニ告訴シタル告訴狀ニ付テ甲ハ放免サレ乙ハ竊盜ノ事實前
 ノ從犯ニシテ受贓者タリシトテ證明セシ證據ニ依リ有罪ト斷定サレ
 而テ乙ニ對スル斷定ハ一般ニ記入サレタリキ乙ハ(ゾ)キクトリヤ女帝
 即位第十一年及第十二年ノ條例法第四十六章第一條頒布以來竊盜罪
 ニ付テ放免ヲ得ヘキ者ナラスト認ラレタリキ

第五節 一通ノ告訴狀ニ告示ヲ各別ニスル數罪ノ聯合

若シ一被告人カ告訴狀ノ同一ノ告示中ニ二個又ハ以上ノ罪ヲ以テ告
 訴サルレハ其告示ハ一二ノ例外ノ場合ノ外ハ重複ノ爲ニ不正ナルヘ
 キハ既ニ前文(告訴ハ重複タル可ラスノ部)ニ於テ之ヲ視タリ數種ノ告

示中ニ數種ノ罪ヲ以テ一被告人ヲ告訴スルコトニ關シテハ異ナル考説
 ナ容ルスモノナリ
 大反逆ノ告訴狀ニ於テハ數種ノ告示アリテ各ニ女帝ノ死亡ヲ謀リ、兵
 ナ起シ、女帝ノ敵ニ附從シ(第三世エドワード帝即位第二十五年ノ條例
 法第二章中ノ)及女帝ヲ禁錮シ又ハ之ニ身體上ノ傷害ヲ爲ス(第三世ジ
 ヨーヰ帝即位第三十六年ノ條例法第七章第一條中ノ)ノ如キ女帝及其
 政府ニ對スル反逆ノ數種ヲ以テ被告人ヲ告訴スルコトヲ得
 被告人ハ一般ニ告訴狀ノ數種ノ告示中ニ數種ノ重罪ヲ以テ告訴セラ
 ル可ラス即チ例ヘハ一告示中ニ謀殺他ノ告示中ニ夜盜又ハ一告示中
 ニ甲ノ家ニ於テ夜盜他ノ告示中ニ乙ノ家ニ於テ別ナル夜盜又ハ一告
 示中ニ甲ノ物品ノ竊盜他ノ告示中ニ異ナル時ニ於テ乙ノ物品ノ別ナ
 ル竊盜ノ如シ若シ斯ノ如キ場合ニ於テ被告人カ辨論シタル前又ハ陪

審官カ斷定ヲ爲スヲ命セラレタル前ニ故障カ爲サルレハ判事ハ其裁
 量ヲ以テ告訴狀ヲ廢棄スルコトヲ得或ハ若シ陪審官カ斷定ヲ爲スヲ命
 セラレタル後ニ至ルマテ故障カ爲サレサレハ判事ハ告訴人ヲシテ何
 レノ告訴ニ付テ手續ヲ爲スヘキ乎ヲ選定セシムルコトヲ得然レモ是レ
 ハ裁判停止ノ故障ニアラサルナリ重罪ノ告示ト輕罪ノ告示ノ聯合ハ
 不正ニシテ止^{テマラ}訴答辨^ルノ旨意トナサレ又ハ一般ノ斷定ノ後ニハ裁判停
 止ノ請願ノ旨意トナサレヘキカ如シ贓物收受ノ告訴狀上若シ其物品
 カ異ナル時ニ於テ收受サレシコト顯著ナレハ告訴人ハ何レノ物品ノ収
 受ニ付テ告訴スヘキ乎ヲ選定セサルヘカラス然レモ竈ニ物品カ異ナ
 ル時ニ於テ收受サレシトノプロペービリテ^{ト實ラフシキ}ト云フ義^トノミコテハ
 告訴人ヲシテ選定セシムルノ理由アラサルナリ異ナル告示中ニ強盜
 及強奪センカ爲ノ意ヲ以テノ攻撃ノ告訴狀ニ付テハ告訴人ハ何レニ付

テ手續ヲ爲スヘキ乎ヲ選定セサル可ラスト爲サレタリ然レモ現今ハ強盜ノ告訴狀ノ訊問上陪審官ハ強奪セントスル意ヲ以テノ攻撃ニ付テ決罪スルコトヲ得ル事(ゾキクトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第九十六章第四十一條)ヲ茲ニ記サ、ル可ラス故ニ斯ノ如キ場合ニ於テ數種ノ告示ノ緊要ハ除却セラル、ナリ第四世ウキリヤム帝即位第七年及ゾキクトリヤ女帝即位第一年ノ條例法廢止サレタル(第八十五章第二條及第四條)ニ依リ數種ノ告示中ニ被告人カ謀殺スル意ヲ以テ、不具不能ニ爲ス意ヲ以テ及ヒ重キ身體上ノ創傷ヲ爲ス意ヲ以テ刺シタル罪ヲ告訴セラレタル場合ニ於テ假令ヘ裁判ハ第一告示ハ死刑他ハ徒刑ナルヲ以テ條例法ニ依テ異ナリト雖モ之ニ拘ハラズ告訴人ハ何レノ告示ニ付テ手續ヲ爲スヘキ乎ヲ選定スルノ義務アラサル者トナサレタリ而テ此等ノ告示ニ普通ノ攻撃ノ一告示ヲ加ヘ

ラレ而テ其被告人ハ惡意ノ攻撃ノ罪アリト見出サレ而テ斷定ハ第四世ウキリヤム帝即位第七年及ゾキクトリヤ女帝即位第一年ノ條例法第八十五章第十一條ニ從ヒ重キ身體上ノ創傷ヲ爲ス意ヲ以テ刺シタルノ告示ニ付テ記入サレシ場合ニ於テ其決罪ハ正當ト爲サレタリキ放火ノ事件ニ於テ告訴狀ニ異ナル所有主ノ家ニ放火スルコト各告訴スル五個ノ告示ヲ含有セリ然ルニ五軒ノ家ハ一列ニ立シモノニシテ同一ノ火ヲ以テ悉ク之ヲ燒キシト顯ハレタルヲ以テ是ハ總テ一個ノ所爲ナルカ故ニ判事ハ告訴人ヲシテ選定セシメサルヘシ「告訴人ニ於テ選定ヲ爲スヘキノ請願ハ訴訟事件カ一告訴以上ニ及ヒ而テ是故ニ被告人ヲ其辨護ニ或ハ困難セシムルコトヲ得ルトノ想像ニ基テ判事ノ裁量ニ對スルノ請願ナリ此趣意ニ涉ル近時ノ條例法頒布前ト雖モ告訴狀ニ被告人ヲ一告示ニ於テハ竊盜ノ正犯トシテ他ノ告示ニハ受

贓者トシテ告訴セシトハ法律上故障アルモノニアラザリキ然レモ一
 留置事件ニ付テ判事ハ告訴人ヲシテ選定セシメサルヘカラサル乎ノ
 説ニ同意セザリキ而テ終ニ將來同一ノ告訴狀中ニ二個ノ告訴ヲ記ス
 可ラスト指令シタリキ然レモ現今ハ惡意ヲ以テ財産ヲ竊取シタル告
 訴狀ニ於テハ該財産ヲ贓物ト知リテ惡意ヲ以テ收受シタルト一告
 示又ハ敷告示ヲ附加スルハ正當ナルヘシ而テ贓物ト知リナカラ惡意
 ナ以テ之ヲ收受シタル告訴狀ニ於テハ惡意ヲ以テ之ヲ竊取シタルト
 ノ一告示ヲ附加スルハ正當ナルヘシ而テ斯ノ如キ告訴狀ノ告訴人ハ
 選定セシメラレヘキ者ニアラス但シ陪審官ハ告訴サレタル人ノ總數
 又ハ何レノ敷ニ對シテ各何レカノ告示ニ付テ有罪ノ斷定ヲ下スヲ得
 得ト明白ニ制定サレタリ(ゾ井クトリヤ女帝即位第二十四年及第二十
 五年ノ條例法第九十六章第九十二條ヴ井クトリヤ女帝即位第十一年

及第十二年ノ條例法第四十六章第三條ノ再制)然レモ或ル財産ヲ竊取
 シタル告示ヲ該財産及他ノ財産ヲ收受シタル告示ト聯合セシムヘカ
 ラス而テ若シ是レカ聯合セハ告訴人ハ選定ヲナサシメラルヘシ被告
 人ハ同一ノ重罪ニ付テ一告示ニハ事實前ノ從犯トシテ他ノ告示ニハ
 事實後ノ從犯トシテ告訴人ヲシテ選定セシムルコトナクシテ告訴サレ
 而テ二個ノ告示ニ付テ決罪サル、コト得又被告人ハ一告示ニハ第一
 等正犯トシテ他ノ告示ニハ第二等正犯トシテ告訴サル、コト得而テ
 受贓者ハ一告示ニハ從犯トシテ他ノ告示ニハ主タル重罪ノ爲ニ告訴
 サル、コト得而テ判事ハ假令ヘ共裁量ヲ以テ告訴人ヲシテ選定セシ
 ムルコト得ルト雖モ只一個ノ罪ノミナルコト明亮ニシテ告示ノ聯合カ
 被告人ヲ害シ能ハサル時ハ毎ニ選定セシメサルヘシ
 押領罪ノ告訴狀ニ於テハ告訴人ハ數種ノ告示中ニ數種ノ所業ヲ告訴

スルハ適當ノ手續ナルヲ以テ同一ノ雇主ニ對シテ六ヶ月間ニ犯サレタル押領所業ノ三個ニ超過セサル何レノ別々ナル數ヲ告訴スルヲ得(ウヰットリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第九十六章第七十一條)ルコトハ既ニ前文ニ視タリ(告訴ハ重複タル可ラスノ部)而テ竊盜ノ告訴狀ニ於テモ亦同一ノ人ニ對シテ最初ノ所業ヨリ最後ノ所業ニ至ルマテノ六曆月間犯カレタル竊取ノ所業ノ三個ニ超過セサル何レノ數ノ爲ニ數種ノ告示ヲ挿入シ而テ之ニ依テ其所業ノ總體又ハ何レカニ對シテ手續ヲ爲スハ現今正當ナリ(ウヰットリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第九十六章第五條)而テ同第六條ニ依テ若シ竊盜ノ告訴狀ノ訊問上竊取サレタリト辨セラレタル財產カ異ナル時ニ於テ取ラレシコト顯ハルヘケレハ告訴人ハ其理由ニ依テ三回以上ノ竊取アリシカ又ハ最初ノ竊取ト最後ノ竊取間ニ六曆月以上

ヲ經過セシコト顯著ナルニアラサレハ何レノ竊取ニ付テ手續ヲ爲スヘキ乎ヲ選定スルヲ要セラレサルヘシ尤モ此事件ノ各ニ於テハ告訴人ハ最初ノ竊取ヨリ最後ノ竊取マテノ六曆月ノ期限間ニ出來シタリト見ユルカ如キ竊取ノ三個ニ超過セサル數ノ爲ニ手續ヲ爲スヲ選定スルコトヲ要セラレヘシ
假令ヘ告訴人ハ一般ニ數種ノ告示中ニ數種ノ重罪ヲ以テ被告人ヲ告訴スルヲ許サレスト雖モ然レモ訴訟事件ノ事實ニ適センカ爲メニ同一ノ重罪ヲ數種ノ告示中ニ數種ニ告訴スルコトヲ得即チ例ヘハ若シ贓物又ハ夜盜若シシハ竊盜ノ犯サレタル家カ甲ノ物品又ハ家ナルカ乙ノモノナルカノ疑アラハ其贓物又ハ家ハ一告示ニハ甲ノ物品又ハ家トシテ他ノ告示ニハ乙ノ物品又ハ家トシテ記ルサル、コトヲ得ルカ如シ

四一二

而テ斷定ハ一般ニ全告訴ノ上ニ下サル、^ト得然レモ若シ斯ノ如キ
 場合ニ於テ斷定及裁判カ重罪ノ爲ニ被告人ニ對スルモノナレハ重罪
 ナル言語カ聚合體^{ノイメンコルレクサツ井ユム}ノ單數實名詞ニ輕罪ナル言語ノ如クアラサルカ故
 ニ斷定及裁判ハ告訴狀ノ各告示ニ依テ保證サル、ニアラサル以上ハ
 不正タルヘシ
 重罪ノ事件ニ於テ僧徒ノ恩惠ヲ廢止スル第四世^{シヨ}帝即位第七
 年及第八年ノ條例法第二十八章第六條ニ制定シテ云ク此條例法中ニ
 アル如何ノ事ト雖モ此條例法ノ頒布前告訴狀中ニ聯合スル^ト得タ
 リシ何レノ告示ノ聯合ヲ妨礙セサルヘシト
 輕罪ノ告訴狀ハ數種ノ罪ノ數種ノ告示ヲ含有スル^ト得而テ假令ハ
 各罪ノ裁判ハ各異ナリト雖モ含有スル^ト得ルカ如シ數人カ同性質
 ノ數罪ヲ以テ數種ノ告示中ニ告訴サレタル場合ニ於テハ裁判所ハ告

五一二

訴狀廢棄ヲ裁判所ノ裁量ニ請願スル^ト得タリシト雖モ止訴^{デマラル}答辨ノ理
 由ニアラスト之ヲ認メタリキ二人ノ被告人カ陰謀及譏謗ノ爲ニ告訴
 サレ而テ告訴事件ノ最終ニ至テ陰謀ニ付テハ二人ニ對スル證據アリ
 譏謗ニ付テハ只一人ノミニ對スル證據アリシ場合ニ於テハ判事ハ告
 訴人ヲシテ何レノ告訴ニ付テ手續ヲ爲スヘキ乎ヲ選定セシム然レモ若
 シ法律上ノ數種ノ罪ヲ告訴スル數種ノ告示アリテ而テ被告人カ其罪
 ノ爲ニ裁判サル、云々ノ裁判カ一般ニ總テノ告示ニ付テ記入サレ而
 テ何レカノ告示カ法律ニ抵觸セシ^ト顯著ナル場合ニ於テハ裁判ハ錯
 誤ニ付テ廢棄セラルヘシ之ヲ防止センカ爲ニ現今輕罪ノ事件ニ於テ
 ハ告訴狀ノ各告示ニ付テ同一ノ裁判ヲ別々ニ宣告シ而テ記入スルハ
 通例ナリ
 被告人カ重罪ノ爲ニ告訴サル、場合ニ於テハ之ヲ犯サントスル試計

ノ爲ニ其被告人ニ對シテ別々ナル告訴狀ヲ呈スルハ緊要ニアラサル
 ナリ而テ輕罪ノ爲ニ告訴サル、場合ニ於テハ之ヲ犯サントスル試計
 ノ爲ニ他ノ一告示ヲ附加スルハ緊要ニアラサルナリ如何トナレハ重
 罪又ハ輕罪ノ告訴狀ニ付テ若シ被告人カ只罪ヲ犯サント試計セシノ
 ミニシテ之ヲ遂ケサリシコト訊問ノ上顯著ナレハ陪審官ハ告訴サレタ
 ル罪ニ付テハ之ヲ放免シ而テ試計ノ罪アル者ト之ヲ斷定スルコト得
 レハナリ(ウヰットリヤ女帝即位第十四年及第十五年ノ條例法第百章
 第九條)又強盜ノ告訴狀ニ付テハ被告人ハ強奪セントスル意ヲ以テノ
 攻撃ノ罪アル者ト現今ハ斷定スルコト得(ウヰットリヤ女帝即位第二
 十四年及第二十五年ノ條例法第九十六章第四十一條)又押領ノ告訴狀
 ニ付テ若シ其罪カ證據上竊盜ナリト顯ハルレハ陪審官ハ押領ニ付テ
 ハ被告人ヲ放免シ而テ單盜罪又ハ主管若クハ雇人トシテノ竊盜罪ニ

付テ罪アル者ト斷定スルコト得又ハ竊盜ノ告訴狀ニ付テ若シ證據上
 押領ナルコト顯ハルレハ陪審官ハ竊盜ニ付テハ放免シ押領ニ付テ有罪
 ト斷定スルコト得(同第七十二條)又若シ詐欺ヲ以テ金員又ハ物品ヲ得
 タル告訴狀ニ付テ其罪カ證據上竊盜ト變セハ被告人ハ之ニ拘ハラヌ
 詐僞ニ付テ決罪サル、コト得(同第八十八條)又何レノ輕罪ノ告訴狀ニ
 付テ若シ證據ニ出サレタル事實ハ重罪トナラハ之カ爲メニ被告人ハ
 裁判所カ陪審官ヲ解キ而テ被告人ヲ重罪ノ爲ニ告訴セラレシコト命
 令スルコト適當ト思考スルニアラサレハ輕罪ニ付テ放免サレサルヘシ
 (ウヰットリヤ女帝即位第十四年及第十五年ノ條例法第百章第十二條)
 然レモ此正條ハ證據ニ呈シタル事實カ告訴狀中ニ告訴サレタル所業
 ヲ證スル場合ニノミ適用ス故ニ第四世ジョージ帝即位第九年ノ條例
 法(廢止サレタル)第三十一章第十七條中ノ年齡十歳ヨリ十二歳マテノ

少女ヲ姦淫シタル輕罪ノ告訴狀ニ付テ其少女カ年齡十歲以下ノモノト證セラレシ場合ニ於テ被告人ハ此告訴狀ニ依テハ十歲以下ノ少女ヲ姦淫シタル重罪ニ付テ決罪サレ能ハスト處辨サレタリキ總テ此等ノ數件ニ於テハ被告人カ斯ク決罪セラル、コトヲ得ル罪ノ爲ニ第二ノ告訴狀ヲ呈シ又ハ第二ノ告示其成ル可キ場合ニ於テテ附加スルハ明ニ不緊要且不用ナリ

裁判所ハ告訴狀中ノ告示ヲ民事々件ニ於ル告示中ノ告示ノ如ク削除スルヲ命令セサル可シ如何トナレハ民事ノ告示ハ只訴訟關係人ノ告知ニ過キサレト刑事ノ告示ハ大陪審官ノ發見ナレハナリ

第二ノ告示又ハ其後ノ告示ノ起文ノ書式ハ左ノ如シ

而テ上文所陳ノ陪審員ハ其上文所陳ノ宣誓ノ上尙云々ノコトヲ訴フ、斯ノ如クシテ云々ノ所ニ罪ヲ陳述ス

第六節 告訴狀呈出ノ期限

習慣法ニ於テハ國帝ニ於テ訴訟ヲ起スニ制限サレタル時アラサリキ而テ是故ニ反逆重罪及輕罪ノ總テノ事件ニ於テ條例法ニ依テ時ノ制限サレサル場合ニ於テハ告訴狀ハ犯罪ノ後何時ニテモ呈出サル、コトヲ得

大反逆罪ニシテ敗系

コルラフシユン、オフ、ブラツド

(犯者ヲシテ既ニ血系ノ織レタル者ト做シテ遺物ヲ承襲シ或ハ之ヲ遺贈スル

コト能ハサラシムルコトヲ云フ)ニ係ル如キモノ(施毒其他ヲ以テ國帝ヲ弑即チ没収ノ甚シキモノナリ)

サノコトヲ企圖シ計較シ又ハ試計スル反逆ヲ除キ(第三世ウヰリヤム帝即位第七年及第八年ノ條例法第三章第六條)ノ告訴狀ハ若シ此罪カ英國、ウエートルス、ベルウイツク、アボン、トウヰード市郡(同章第五條)又ハ蘇格蘭國內ニ犯サレタレハ其犯罪後三ケ年內ニ大陪審官之ヲ見出サ、ル可ラス然レモ若シ海上又ハ外國ニ於テ犯サレタレハ告訴ノ制限サ

レタル時アラサルナリ

女帝ヲ廢シ又ハ女帝ニ反シテ兵ヲ舉ントスル惡意ノ謀計等ヲ只言語ノミチ以テ表明シタル告訴ニ於テハ該謀計等及該謀計等ノ表明サレタル言語ノ申告ハ其言語ノ發表ノ後六日內ニ治安判事又ハ蘇格蘭國ニ於テハ郡長又ハスチュアード(貴族領ノ行政司法兩權ヲ有ス)ニ宣誓ノ上之ヲ爲サ、ル可ラス而テ被告人逮捕ノ爲ノ令狀ハ斯ク告發アリシ後十日內ニ發セラレサル可ラス而テヅヅトリア女帝即位第十一年及第十二年ノ條例法第十二章頒布ノ後ハ二年內ニ發セラレサル可ラス(同條例法同章第四條)

人ノ兵器使用及兵ノ操練及運動術ヲ練習スルヲ防遏センカ爲ニ第四世ジョーシ帝即位第一年ノ條例法第一章ニ依レル告訴ハ其犯罪ノ後六ヶ月內ニ之ヲ爲サ、ル可ラス(第四世ジョーシ帝即位第一年ノ條例法

第一章第七條

獵鳥獸ニ關スル罪ノ爲ニ第四世ジョーシ帝即位第九年ノ條例法第十九章ニ依レル告訴狀ヲ以テノ告訴ハ其犯罪ノ後十二曆月內ニ之ヲ爲サ、ル可ラス

ヅヅトリア女帝即位第十六年及第十七年ノ密輸出入條例法第一百七章ニ依レル告訴狀又ハ告發書ヲ以テノ告訴ハ三ヶ年內ニ爲サレサル可ラス

エリザベス女帝即位第三十一年ノ條例法第五章ニ依テ總テ沒収カ國帝ニ限ラレタル何レノ刑事條例法ニ依レル告訴狀又ハ告發書ハ犯罪後二ヶ年內ニ呈出サレサル可ラス若シ沒収カ國帝及告訴人ニ限ラレタルハ一ヶ年內ニ訴訟ヲ起サ、ル可ラス而テ過テ之ヲ經過セハ其一ヶ年ノ期終リシ後ノ二ヶ年內ニ國帝ノ爲ニ訴訟ヲ起サ、ル可ラス然

レモ條例法カ之ヨリ尙短キ時ヲ限リタル場合ニ於テハ斯ク限ラレタル時内ニ訴訟ヲ起サ、ル可ラス

茲ニ告訴ヲ爲ス時ノ制限サレタル二三ノ他ノ場合アリ之ハ本書中各其種類ニ從テ別ニ記載スヘシ

ウイリス(名人)ノ事件ニ於テ貨幣ニ關スル廢止サレタル條例法ニ依リ被告人ノ逮捕ノ上ノ告發及官吏ノ面前ノ手續ハ該條例法ノ意味内ノ告訴開始ト思量サレサルヘカラスト認ラレタリキ又犯罪ノ爲ノ収監令狀カ制限サレタル時内ニアル場合ニ於テハ告訴ハ其時後ニ至ルマテアラサリシト雖モ是レハ効力アルモノト爲サレタリ然レモ被告人ヲ逮捕スル爲ノ令狀ヲ只發スルノミハ第四世ジョージ帝即位第九年ノ條例法第六十九章第四條中ノ告訴ノ開始ト爲サレサリキ被告人カ貨幣ニ渉ル反逆ノ爲ニ其犯罪後三ヶ月内ニ逮捕サレタリトノ口演上ノ

證據ハ告訴狀カ三ヶ月ノ後ニアリテ而テ逮捕又ハ収監ノ令狀カ發セラレサリシ場合ニ於テハ無効ノモノト爲サレタリ、キルミンスター(名人)ノ事件ニ於テ夜間禽獸ヲ偷ミタル罪ノ告訴狀カ其犯罪後十二ヶ月内ニ被告人ニ對シテ呈出サレタリ而テ却下サレタリ其四年後ニ同一ノ罪ノ爲ニ其被告人ニ對シテ更ニ告訴狀カ呈出サレタリ而テ其訴訟ハ期限外ナリトノ故障ニ付テ判事コールリツジハ最初ノ告訴狀カ告訴人ヲシテ手續ヲ爲サシメ得ル訴訟ニアラサリシ乎ノ疑ヲ懷ケリ因テ同氏ハ此點ヲ留置セリ然レモ其被告人ハ訴訟ノ本質ニ付テ放免サレタリキ

第七節 告訴狀ノ發見

尋常ノ訴訟事件ニ於テハ犯罪ノ詳細ヲ巡回裁判所ニ於テハ告訴取扱書記クラーク、オフ、インダスト即チ告訴書記ニ或ハ治安裁判所ニ於テハ治安書記ニ具申ノ上其書記ハ告訴狀ヲ調製スヘシ然レモ告訴狀ヲ調製スルニ非常ノ注意ヲ

クラーク、オフ、インダスト

要スヘキ事件ニ於テハ代言人ヲシテ之ヲ調製セシメ而テ清白ナル羊皮紙ニ印紙ヲ用ヰルコトナク書記セシムルヲ尙是トス告訴狀ニハ大陪審官ノ前ニ於テ吟味サレンコトヲ企テタル證人ノ姓名ヲ裏書スヘシ
 少キトリヤ女帝即位第十九年及第二十年ノ條例法第五十四章頒布前ハ告訴狀カ書記サレシ後裁判所ノシライエル(裁判所ノ命令等ヲ宣スル官吏)又ハ他ノ官吏カ證人ヲシテ宣誓ヲ爲サシメ而テ後相當ノ官吏ヨリ告訴狀ヲ大陪審官ニ附スルハ緊要ナリキ然レモ該條例法ニ依テ證人ノ公廷ニ於テ宣誓ヲ爲スコトハ廢セラレタリ(同條例法同章第二條)而テ同第一條ニ依テ大陪審官ノ首席人(此首席人ナル語ハ告訴狀維持ノ證人ノ吟味ニ當テ首席人ニ代リ職務ヲ行フコトヲ得ル大陪審官中ノ何レノ人ヲモ含有スヘシ)(同第三條)ハ告訴狀維持ノ爲メ證據ヲ呈セシカ爲ニ大陪審官ノ前ニ出ツヘキ總テノ人ニ宣誓又ハ宣誓ノ代リニ

確定ヲ爲スヘキテ法律上要セラレ又ハ許サレタル場合ニ於テハ確定(同第三條)ヲ爲サシムルノ權ヲ授與サレタリ而テ總テ證據ヲ呈スル爲ニ大陪審官ノ前ニ出タル斯ノ如キ人ハ問題ニ係ル事件ヲ審問スル斯ノ如キ大陪審官ニ依テ宣誓ヲ爲サシメラレ且宣誓ノ上吟味セラル、コトヲ得而テ告訴狀維持ノ爲メ宣誓又ハ確定ヲ爲ス各人ニシテ故意ヲ以テ偽テ宣誓シ又ハ確定スル者ハ偽誓ノ罪アル者ト思量セララルヘシ而テ斯ノ如ク吟味サレ及吟味サレンコトヲ企テラレタル各證人ノ姓名ハ該告訴狀ニ裏書サルヘシ而テ該大陪審官ノ首席人ハ該告訴狀ニ關シテ宣誓ヲ爲サシメラレ且吟味サレタル各證人ノ姓名ニ相對シテ其姓名ノ頭字ヲ書記スヘシ(例ヘハエドワード、ウ、ト記ルスト云フ名)然レモ此條例法中ニアル如何ノ事ト雖モ證人宣誓ノ爲メ裁判所ノ官吏ニ法律上拂フヘキ謝金ニ關係スルコトナカルヘシ但シ斯ノ如キ謝金ハ該

條例法ノ頒布アラサリシト同様ニ拂フヘキモノタルヘシ
同一ノ事件ニ對シ一ハ條例法ニ依レル重罪ノ爲ニ一ハ習慣法ニ於ル
輕罪ノ爲ニ見出サレタル二個ノ告訴狀ハ同時ニ呈出ス可ラス然レモ
クインスベンチ裁判所ハ斯ノ如キ事件ニ於テ此二個ノ告訴狀ヲ廢棄
セサルヘシ

告訴狀ハ大陪審官室ニ出タリシ後ニ其順序ニ從テ大陪審官ノ着手ス
ル所トナルヘシ而テ後チ證人カ告訴狀ニ記サレタル其姓名ノ順序ニ
從テ呼入レラレ而テ大陪審官ニ於テ吟味サル、ナリ而テ若シ犯罪カ
充分ニ證セラレタリト陪審官ノ多數(少クモ十二人ヨリ成立ツ)カ認ム
レハ大陪審官ノ書記ハ其告訴狀ニ眞ノ狀ト記ルスヘシ然レモ若シ犯
罪カ充分ニ證セラレサリシトノ說多數ナレハ然ル時ハ告訴狀ニ眞ノ
狀トレニルニアラストノ言語ヲ記ス其後大陪審官ノ首席人ハ他ノ大陪審員ト

共ニ斯ク記ルサレタル告訴狀ヲ裁判所ニ携帶シテ告訴狀取扱書記又
ハ治安書記ニ之ヲ交付ス其書記ハ直ニ裁判所ニ向テ各告訴狀ノ實質
及記載(眞、不)ヲ陳述スルナリ抑告訴狀ハ精密ナル法律上ノ談論ニ於テ
ハ大陪審官カ之ヲ眞ノ狀ト認メタル後ニアラサレハ告訴狀ト云ハレ
サルナリ其前ハ只之ヲ狀ト稱スルノミナリ
大陪審官ハ訊問ニ於テ告訴狀ヲ維持スル爲ニ緊要タルヘキカ如キ同
一ノ書記シタル及口演ノ證據ヲ要スルヲ得然レモ書記シタル證據
ニ付テハ通例甚ダ嚴密ニアラスシテ本書ノミカ證據タル場合ニ於テ
證據ヲ出スヲ許ルスヲ屢々アリ時トシテハ書記シタル證據ヲ以テ證
セサル可ラサル事件チ口演ニテ證スルヲ許ルスヲアルナリ然レモ大
陪審官ハ訊問ニ於テ注目セサル可ラサル如キ證據ノ同一ノ嚴密ヲ主
張スルヲ得ルカ故ニ總テノ訴訟事件ニ於テハ告訴狀呈出ノ時ニ後

ニ以テ之ヲ維持セント欲スル同一ノ證據ヲ呈供スルハ注意ノ至極ナリ
 リ疾病ニ罹リテ旅行スル能ハサル如キ證人ノ口供ハ尙井クトリヤ女
 帝即位第十一年及第十二年ノ條例法第四十二章第十七條ニ依リ訊問
 ノ時小陪審官ノ前ニ證據ニ呈スルヲ得ルモノニシテ大陪審官ノ前
 ニモ亦證據ノ爲メ之ヲ朗讀スルヲ得然レハ告訴狀ノ裏面ニ其名ヲ
 記サレサル證人ヲ訊問ノ時召喚シ而テ吟味スルハ妨ケナク且被告人
 カ對質ノ利益ヲ有センカ爲ニ告訴狀ノ裏面ニ名ノ記サレタル各證人
 ナ召喚スルハ假令ヘ斯ク召喚スルハ通例ナリト雖モ告訴人ニ於テ緊要
 ニアラス而テ若シ告訴人之ヲ召喚セサレハ判事ハ其裁量ヲ以テ之ヲ
 召喚スルヲ得ルヲ茲ニ陳述セサル可ラス大陪審官ノ前ニ證人ヲ宣誓
 セシムルノ不適當ナル方法ハ大陪審官カ自己ノ知識ノミヲ以テ告訴
 狀ヲ自由ニ見出スカ故ニ告訴狀ヲ害セサルヘキカ如シ大陪審官ノ前

ニ偽證ヲ呈スル證人ハ偽誓罪ノ爲ニ告訴スヘキ者ニシテ其時ノ告訴
 狀ニ付テ同時ニ吟味サレタル他ノ證人ハ此偽誓ヲ證スル爲ノ善良ナ
 ル證人ナリ

若シ證人カ大陪審官ノ前ニ證據ヲ呈スル爲ニ隨意ニ來ラサレハ之ニ
 對シテ巡回裁判期ノ爲ニハ倫敦府ニ於テハクラオン、オフヒス(スケイ
 ン)ニ於テ地方ニ於テハ告訴狀取扱書
 ニ關スル特別ノ事ヲ取扱フ所ナリ(ニ於テ地方ニ於テハ告訴狀取扱書
 記ニ就テ又ハ治安裁判期ノ爲ニハクラオン、オフヒス(上全)ニ於テ又ハ治
 安書記ニ就テスブポーナ(裁判所ニ出廷ヲ命スル令狀ニシテ之ニ又ハ
 スブポーナ、シユセス、テキユム(證據ノ爲メ呈出スルヲ要スル書類ヲ所
 持スル者ニ對シ之ヲ携帶シテ出廷スル
 アチ命スル令狀ニシテ他ニシテ)ヲ請願シ而テ之ヲ得而テ其謄本又ハスブ
 ポーナ券ト稱スルモノヲ以テ之ヲ執行スルヲ得或ハ若シ證人獄中
 ニアラハ後編證據ヲ論スル部ニ於テ記載シタル方法ニ依テ請願シ及

ハ二十三人ヨリ多ク又十二人ヨリ少キヲ得サル所以ナリ大陪審官ハ告訴狀ノ一部ニ付テハ眞ノ狀他ノ部ニ付テハ眞ナラサル狀ヲ見出スヲ得ス如何トナレハ大陪審官ハ全體ヲ見出スカ又ハ何事オモ見出サ、ルカノ何レニカ定メサル可ラサレハナリ是故ニ若シ讒謗ノ告訴狀ニ付テ該官カ言語ニ付テハ眞ノ狀ヲ見出シ然ルニ惡意ヲ以テナルヤニ付テハ眞ナラサル狀ヲ見出サハ發見ハ無効ナリ然レモ是ハ只告訴狀中ノ同一ノ告示ニ關係ヲ有スルノミ如何トナレハ該官ハ一告示ニ付テハ眞ノ狀ヲ見出シ而テ他ノ一告示ニ付テハ眞ナラサル狀ヲ見出スヲ得ルハ明白ナレハナリ然レモ該官ハ告訴狀ヲ條件ヲ附シテ見出スヲ得ス即チ例ヘハ若シ家屋カ正當ノ所有主ノ所有ニ係ラハ其時ハ眞ノ狀ト云フカ如シ甲及乙ニ對スル謀殺ノ告訴狀ニ付テ該官ハ甲ニ付テハ眞ノ狀ヲ見出シ而テ乙ニ付テハ只故殺ノミヲ見出ス能ハ

ス如何トナレハ若シ是カ甲ニ於テ謀殺ナレハ乙ニ於テ只故殺ノミナルヲ得サレハナリ然レモ該官ハ甲ニ付テハ眞ノ狀ヲ見出シ而テ乙ニ付テハ眞ナラサル狀ヲ見出スヲ得タリキ或ハ該官ハ甲乙ノ一人又ハ二人ヲ故殺ノ罪アル者ト見出スヲ得タリキ尤モ斯ノ如キ場合ニ於テハ其告訴狀カ故殺ノ告訴狀ニ變セラレノ希望ヲ以テ裁判所ニ之ヲ還付シ而テ斯ク變セラレタル(是ハ容易ニ爲スヲ得)時概シテ眞ノ狀ヲ見出スハ大陪審官ニ於テ尙通例ナリ然レモ謀殺ノ告訴狀ニ付テ陪審官ハ自身保護^{ビレラシエラセ、デフエシデ}ノ爲ノ殺害ノ眞ノ狀ヲ見出スヲ得ス如何トナレハ告訴サレタル罪ハ重罪ニシテ見出サレタル罪ハ重罪ニアラサレハナリ(第四世ジョーシ帝即位第九年ノ條例法第三十一章第十條ヲ參看スヘシ)

治安裁判期ニ於テ見出サレ而テ判事ヨリ巡回裁判期ニ送達サレタル

告訴狀ハ假令へセルシオレイライ(審査狀ニシテ上等ノ裁判所へ)ヲ以テ移サレタルニアラスト雖モ巡回裁判期ニ於テ訊問サレサル可ラス。假令へ大陪審官ハ正式ニ從テ解カレタリシト雖モ若シ皆未タ裁判所ノ構内ヲ去ラス又ハ離散セサレハ再ヒ之ヲ呼戻シ而テ他ノ告訴狀ヲ以テ之ニ附スルヲ得

若シ告訴狀カ拋棄サルレハ假令へ同一ノ巡回裁判期又ハ治安裁判期中同一ノ大陪審官ニ再ヒ之ヲ呈出スルヲ得サルカ如クナリト雖モ若シ之ヲ呈出スルノ時ヲ制限サレハ又ハ制限ノ時經過セサリセハ次回ノ巡回裁判期又ハ治安裁判期ニ於テ之ヲ呈出シ而テ見出サル、ヲ得

第八節 告訴狀ノ見出サレタル後被告人ノ出廷ヲ強迫スル令狀

令狀ヲ以テノ手續、若シ對シテ告訴狀カ見出サレタル被告人カ偶裁判所ニ出頭シ又ハ裁判所ノ拘留スル所ダラハ前以テ何タル手續ヲモ爲スヲナク直ニ告訴狀ニ依テ之ヲ法廷ニ引致シ告訴狀ニ對シテ辨論ヲ爲サシムルヲ得然レモ若シ被告人カ隨意ニ出廷シタレハ之ヲ拘留シ又ハ尋常ノ方法ヲ以テ之ヲ處分スルハ裁判所ニ於テ適宜ニ取計ヲヲ得ルナリ被告人カ他ノ裁判所ノ拘留中ニアル場合ニ於テハ手續ハ保身令狀ハバセアスコレプスヲ以テ之ヲ移シ而テ辨論セシムル爲ニ之ヲ引致スルニアリ輕罪ノ告訴狀カ見出サレタル時ハクインスペンチ裁判所、巡回裁判所ノ判事又ハ四季裁判所ヨリヴェエニル、フアシアス、アド、レスボンデングム(答辨ノ爲メ出廷スヘシト云)令狀ヲ發スルヲ得(第三世エドワード帝即位第五年ノ條例法第十一章第一世エドワード帝即位第三年ノ條例法第十四章若シ被告人カ闕席シタレハジストリンガス)出廷

通スル令狀ニシテ之ニ應セサレ令狀ヲ發スヘキナリ一郡一寺院區又ハ一地方ノ住民ニ對シ又ハ聚合會社ニ對スル告訴ノ場合ニ於テハジストリンガス令狀カ最初ニ發セラレヘキナリ、ジストリンガス令狀ノ書式ハ左ノ如シ

何々女帝ナルヅキトリヤハ何郡ノ郡長ニ宣ス、予輩ハ汝ニ命令ス汝ハ汝ノ管轄内ノ何レノ自由權ノ理由ニ依テ怠ラス但シ之ニ進入シ而テ汝ノ郡内ノ何所ノ何某(平民ノ稱ニシテ商工等)ノ所有地及家産等ヲ總テ差押ヘ而テ其結局等ノ回答ヲ爲シ而テ來ル何月何日該某ノ身體ヲ汝ノ郡内ニ於テ予輩ノ治安ヲ保持シ且又汝ノ郡内ニ於テ犯サレタル種々ノ重罪損害罪其他ノ輕罪ヲ審問斷定スルヲ委任サレタル汝ノ郡内ノ何所ニ於ル予輩ノ治安判事ノ面前ニ該某ノ告訴サレタル種々ノ損害罪、侮辱罪及犯罪ニ付テ予輩ニ答辨

ヲ爲ス爲ニ又ハ該某ニ對シテ訴ヘラレタル或ル事件ニ付テ予輩ニ答辨ヲ爲ス爲ニ出シ而テ汝カ該時此令狀ヲ持參スル事ヲ、予輩ノ治世何年何月何日何所ニ於テ何某及何某(治安判事二名證ス)若シ其訴訟關係人出廷セハ該令狀ノ執行ヲ停止シ又ハ徴収サレタル金額ノ返戻ヲ得ル爲ニスーパルンデーアス(執行令狀)令狀カ得ラル、カヒアス、アド、レスボングンダム得然レモ若シ被告人カ制限サレタル時間内出廷セス而テ郡長ハ該被告人カ土地ヲ所有セサルコトヲ回報セハ第一拘引狀カ發セラル、コト得而テ若シ被告人カ第一拘引狀ヲ以テ拘引セラレ得サレハアリアスト稱スル第二拘引狀プリユリースト稱スル第三拘引狀ヲ發スルコト得重罪ノ告訴狀ニ於テハ第一拘引狀カ最初ニ發セラル、ナリ然レモ此手續ハ法外刑ノ手續ニ於ルノ外現今ハ罕ニ用サラル、所ナリ左ニ記スルハ第一拘引狀ノ書式ナリ

何々女帝ナルヴヰクトリヤハ何郡ノ郡長ニ宣ス、予輩ハ汝ニ命令
 ス汝ハ汝ノ管轄内ノ何レノ自由權ノ理由ニ依テ怠ラス但シ之ニ進
 入シ而テ汝ノ郡内ノ何所ノ何某（レイボートル）チ若シ汝ノ管轄内ニ於テ見
 當ラハ捕ラヘ而テ汝カ來ル何月何日該某ノ身體ヲ汝ノ郡内ニ於テ
 予輩ノ治安ヲ保持シ且又汝ノ郡内ニ於テ犯サレタル種々ノ重罪、損
 害罪其他ノ輕罪ヲ審問斷決スルヲ委任サレタル汝ノ郡内ノ何所ニ
 於ル予輩ノ治安判事ノ面前ニ該某ノ告訴サレタル種々ノ損害罪、侮
 辱罪及犯罪ニ付テ予輩ニ答辨ヲナス爲ニ出シ而テ汝カ該時此令狀
 チ持參スルカ爲ニ該某ヲ安全ニ監守セシムル事ヲ、予輩ノ治世何
 年何月何日何所ニ於テ何某及何某治安判事二名證書
 治安判事ノ逮捕狀ヲ以テノ手續、尋常ノ訴訟事件ニ於ル手續ハ現今
 ヲヰクトリヤ女帝即位第十一年及第十二年ノ條例法第四十二章第三

條ニ依テ定メラレタリ其條ニ制定シテ云ク何レノ告訴狀カ何レノ巡
 回裁判所或ハ治安一般裁判期又ハ四季裁判期裁判所ニ於テ大陪審官
 ニ依テ當時拘束サレヌニアル何人ニ對シテ見出サレヘキ場合ニ於テ
 而テ斯ノ如キ人ハ該告訴狀ニ答辨スル爲ニ出廷スルノ承諾ヲ以テ東
 縛サレタル又ハサレサルヘキニ係ハラヌ該告訴狀ノ出見サレヘキ該巡
 回裁判所ノ告訴書記トシテ又ハ該裁判期ニ於ル治安書記トシテ職務
 ナ行フヘキ人ハ該告訴狀ノ見出サレタルヘキ巡回裁判期又ハ治安裁
 判期ノ終リタル後ハ何時ニテモ告訴人又ハ其代理人ノ請願ニヨリ而
 テ一シルリングノ謝金ヲ拂ハシメテ若シ該被告人カ既ニ出廷シテ該
 告訴狀ニ對シ答辨シタルニアラサレハ該告訴人又ハ代理人ニ該告訴
 狀カ見出サレタルヲ證スル證書（下文ヲ見ルヘシ）チ交付スヘシ而テ該
 告訴狀中ノ罪カ犯サレタリト辨セラレヘキ又ハ該狀中ニ及ヒ該狀ヲ

以テ告訴サレタル人カ住居シ又ハ在留シ若クハ住居シ又ハ左留スル
 ト想像サレ又ハ疑ハレタルヘキ何レノ郡、ライオング、(區分)ジヴィシユ
(上全)リベルテ(特許地有)府、市區又ハ場所ヲ管轄スル何レノ治安判事
 ニ該證書ヲ呈出スレハ該判事ニ於テハ斯ク告訴サレタル人ヲ逮捕シ
 而テ該判事又ハ同一ノ郡、ライオング、ジヴィシユ、リベルテ、府、市區
 又ハ場所ノ何レノ他ノ判事ノ前ニ法律ニ從テ處分サレンカ爲ニ之ヲ
 引致セシムル爲ノ逮捕狀(下文ヲ見ルヘシ)ヲ發スルハ正當ナルヘシ而
 テ其後若シ斯ノ如キ人カ該狀ニ依テ逮捕サレ而テ該判事ノ前ニ引致サ
 レタルハ該判事ハ斯ク逮捕サレタル人ハ該告訴狀中ニ告訴指名サレ
 タル者ト同人ナリトノ宣誓又ハ確定上ノ證ヲ得テ尙其他ノ審問又ハ
 吟味ナク之ヲ訊問ノ爲ニ収監シ(下文ヲ見ルヘシ)又ハ本條中後ニ記載
 サレタル法方ヲ以テ之ニ保釋ヲ許ルスヘシ(第九節ノ保釋ヲ看ルヘ

シ)

告訴狀ノ見出サレタルヲ證スル證書々式

予ハ何々(郡)ニ於テ及爲ニ該(郡)内ノ何所ニ於テ何時ニ於テ開カレタ
 ル(巡回裁判所)又ハ治安一般四季裁判期裁判所ニ於テ一通ノ告訴狀
 カ大陪審官ニ依テ該狀中ニ何某トシテ記載サレタル舊何所ノ何某
(備役人)ニ對シテ該某カ云々(簡短ニ犯罪ヲ記述ス)ノ爲ニ見出サレタ
 リシ(及ヒ)該何某ハ出廷セス又ハ該告訴狀ニ對シテ答辨セサリシ
 一チ之ニ依テ證ス

此千八百何年何月何日

何巡回區告訴書記 何某

又ハ該(郡)ノ及爲ノ治安書記何某

告訴サレタル人ヲ逮捕スル令狀ノ書式

何々所ノ警察官及該何々〔郡〕ノ總テ他ノ治安官吏ニマテ
 何巡回區告訴書記何某（姓名ナリ）又ハ何々〔郡〕ノ及爲ノ治安書記何某ニ依テ云
 々〔證書ヲ陳述ス〕ノ事カ正當ニ證セラレタルカ故ニ是等ハ是故ニ是
 ナ以テ該何某（姓名ナリ）ヲ逮捕シ而テ法律ニ從テ處分サレンカ爲ニ
 之ヲ〔予〕又ハ該〔郡〕ニ於ル及爲ノ他ノ治安判事ノ面前ニ引致スルヲ女
 帝陛下ニ代リテ汝ニ命令スルニアリ
 上文所陳ノ〔郡〕内ノ何所ニ於テ此我教主紀元何年何月何日子ノ署名
 及捺印ヲ以テ付與ス

何 某 (印)

告訴サレタル人ノ収監令狀ノ書式

何々所ノ警察官及該何々〔郡〕内ノ何所ニ於ル〔普通監獄又ハ矯正院〕ノ
 看守人ニマテ

何巡回區告訴書記何某ニ依テ云々〔證書ニ於ル如ク記ス〕ノ事カ正當
 ニ證セラレタリシヲ陳述スル後何月何日附ヲ以テ予ノ署名及捺
 印アル予ノ令狀ニ依テ予ハ該何某ヲ逮捕シ而テ法律ニ從テ處分セ
 ラレンカ爲ニ之ヲ該〔郡〕ニ於ル及爲ノ女帝陛下ノ治安判事ノ一人ナル
 左ニ署名スル予ノ目前又ハ該〔郡〕ニ於ル及爲ノ他ノ治安判事ノ目前
 ニ引致スルヲ女帝陛下ニ代リテ何々所ノ警察官及該郡ノ總テ他ノ
 治安官吏ニ命令セシカ故ニ而テ該何某（姓名）カ該令狀ヲ以テ及其
 權ニ依テ逮捕サレ而テ今予ノ目前ニ引致サレタルヲ以テ該何某ハ
 該告訴狀中ニ及之ニ依テ指名サレ及告訴サレタル者ト同人ナルヲ
 カ宣誓ノ上正當ニ予ニ證セラレタルカ故ニ是等ハ是故ニ是ヲ以テ
 該何某ヲ取り而テ安全ニ該〔郡〕内ノ何所ニ於ル該〔矯正院〕ニ護送シ而
 テ該所ニ於テ之ヲ此令狀ト共ニ其看守人ニ交付スルヲ女帝陛下ニ

代リテ該警察官ナル汝ニ命令スルニアリ而テ予ハ該何某ヲ該矯正
 院ニ於テ汝ノ監守スル爲メ受取り而テ該某カ法律ノ正當ナル手續
 ニ依テ該院ヨリ出サレヘキニ至ルマテ安全ニ之ヲ監守スルヲ該看
 守人ナル汝ニ之ニ依テ命令ス
 上文所陳ノ〔郡〕内ノ何所ニ於テ此我教主紀元何年何月何日予ノ署名
 及捺印ヲ以テ付與ス

何 某 (印)

令狀ニ批書スル事一若シ對シテ令狀カ發セラレタル人カ英國又ハウ
 エールズ内ノ之ヲ發シタル治安判事ノ管轄外ノ何レノ場所ニアリ又
 ハアルト想像サルレハヅヰクトリヤ女帝即位第十一年及第十二年ノ
 條例法第四十二章第十一條ニ制定シテ云ク該令狀ヲ發シタル治安判
 事ノ手書ヲ只宣誓ノ上證明セラレレハ該令狀カ對シテ發セラレタル

人ノ現ニ在ル又ハ在ルト想像セラレタル郡又ハ場所ノ何レノ治安判
 事ニ於テハ左ノ書式ヲ以テ該令狀ニ批書スルハ正當ナルヘシ而テ斯
 ノ如キ批書ハ其郡又ハ場所ニ於テ該令狀執行ノ爲ノ効力アル許可タ
 ルヘシ而テ之ト同一ノ方法ヲ以テ英國ノ令狀ハ愛蘭國蘇格蘭又ハア
 イルスオフマン、ゲルンゼー、シヤールゼー等ニ於テ批書サレ而テ愛蘭國
 以下ノ令狀ハ又英國ニ於テ批書サル、コヲ得ト

即チ何々郡

本日該何々郡ノ女帝陛下ノ治安判事ノ一人ナル予ノ目前ニ於テ此
 令狀中ニ署名サレタル何某ノ姓名ハ此令狀中ニ記載サレタル治安判
 事ノ手書ニ係ルトノ證明カ爲サレタリシカ故ニ予ハ是故ニ之ニ依
 テ此令狀ヲ予ニ提出スル何某及此令狀カ原來指向ケラレタル又ハ
 正當ニ之ヲ執行スルコヲ得ル總テノ他ノ人ニ及該何々〔郡〕ノ總テノ

警察官及他ノ治安官吏ニモ亦此令狀ヲ該最後ニ記載サレタル〔郡〕中ニ執行シ而テ法律ニ從テ處分セラレシカ爲ニ該何某（被告人）チ若シ同〔郡〕中ニ逮捕サレタレハ予ノ目前（又ハ同郡ノ他ノ治安判事ノ目前）ニ引致スルヲ許可ス

此千八百何年何月何日子ノ署名ヲ以テ付與ス

何 某

被告人カ既ニ獄内ニ在ル場合、若シ告訴狀カ對シテ見出サレタル人カ前文ニ陳述セシ如キ證書ノ請願及治安判事ニ其證書ノ呈出ノ時ニ當テ既ニ該告訴狀中ニ告訴サレタルモノヨリ何レノ他ノ犯罪ノ爲ニ何レノ監獄内ニ幽閉サレタレハ該治安判事ニ於テハ斯ク告訴サレタル人及斯ク獄内ニ幽閉サレタル人ハ一人ニシテ同人ナリトノ證明カ宣誓又ハ確定ノ上該判事ノ目前ニ於テ爲サルレハ斯ク告訴サレタル

人カ上文所陳ノ如ク當時幽閉サレヘキ監獄ノ典獄又ハ看守人ニ指向ケ其監守内ノ斯ノ如キ人カ該告訴狀ニ付テ訊問サル、ノ目的ノ爲ニ女帝陛下ノ保身令狀（リットオウハベナスコルバス）ヲ以テ其監獄ヨリ移轉サレヘキニ至ルマテ又ハ否ヲスシテ法律ノ適當ナル手續ニ依テ其監守ヨリ移轉サレ又ハ放釋サレヘキニ至ルマテ之ヲ拘留スルヲ命令スル令狀ヲ發スルハ正當ナルヘシ（ダサクトリヤ）女帝即位第十一年及第十二年ノ條例法第四十二章第三條

他ノ犯罪ノ爲ニ監守中ノ人ヲ拘留スル令狀ノ書式

何々〔郡〕内何々所ニ於ル〔普通監獄又ハ矯正院〕ノ看守人ニマテ何々巡回區告訴書記（又ハ何々郡ノ及爲ノ治安書記）何某ニ依テ云々

〔證書ヲ陳述ス〕ノ事カ正當ニ證セラレタリシカ故ニ而テ予ハ該何某（被告人）カ或ル犯罪又ハ他ノ事件ヲ以テ告訴サレテ上文所陳ノ何々

所ニ於ル該[普通監獄]内ニ於テ汝ノ監守中ニアルヲ承知シタルカ故ニ而テ上文所陳ノ如ク告訴サレタル該何某及上文所陳ノ如ク汝ノ監守中ノ該何某ハ一人ニシテ同人ナル事カ今[予]ノ目前ニ於テ宣誓ノ上正當ニ證セラレタルヲ以テ是等ハ是故ニ上文所陳ノ[普通監獄]内ニ於テ汝ノ監守中ノ該何某カ該告訴狀ニ付テ訊問サル、ノ目的ノ爲ニ女帝陛下ノ保身令狀ヲ以テ其監獄ヨリ移轉サレヘキニ至ルマテ又ハ否ヲスシテ法律ノ正當ナル手續ニ依テ汝ノ監守ヨリ移轉サレ又ハ放釋サレヘキニ至ルマテ之ヲ拘留スルヲ女帝陛下ニ代リテ汝ニ命令スルニアリ

上文所陳ノ[郡]内ノ何々所ニ於テ此我教主紀元何年何月何日子ノ署名及捺印ヲ以テ付與ス

何 某 (印)

ベンチウオーラント(刑事裁判所判事ヨリ發)ヲ以テノ手續、告訴狀ノ見出サレタル何レノ裁判所ハ被告人ヲ逮捕シ而テ該告訴狀ニ答辨センカ爲メ直ニ之ヲ該裁判所ニ引致スル爲ニベンチウオーラントヲ發スルハ久シキ習行ニ依テ一定ノ規則トナレリ尤モ此習行ハ只輕罪ノ事件ニノニ關スト云フ、他書ニ見ヘタリ此令狀ハ裁判所ノ開廳中附與サル、モノナリ若シ巡回裁判期中ニ發セラレハ之ハ判事一名之ニ署名ス若シ治安裁判期中ニアラハ治安判事二名之ニ署名スルナリ告訴人カ中央刑事裁判所ニ於テ此令狀ヲ請願スル時ハ被告人ニ對シテ法律ヲ實施スルノ承諾カ要セラル、ナリ對シテ告訴狀カ見出サレタル訴訟關係人カ出廷シ而テ之ニ對シテ呈出サル、ヲ得ル何レノ告訴狀ニ答辨スルノ承諾カ既ニ爲シ而テ其出廷セサル場合ニ於テハ告訴人ハ該令狀ヲ豫テ請求スルヲ得此令狀ハ裁判期ノ終ニ於テ治安判事

所ニ於ル該〔普通監獄〕内ニ於テ汝ノ監守中ニアルヲ承知シタルカ故ニ而テ上文所陳ノ如ク告訴サレタル該何某及上文所陳ノ如ク汝ノ監守中ノ該何某ハ一人ニシテ同人ナル事カ今〔予〕ノ目前ニ於テ宣誓ノ上正當ニ證セラレタルヲ以テ是等ハ是故ニ上文所陳ノ〔普通監獄〕内ニ於テ汝ノ監守中ノ該何某カ該告訴狀ニ付テ訊問サル、ノ目的ノ爲ニ女帝陛下ノ保身令狀ヲ以テ其監獄ヨリ移轉サレヘキニ至ルマテ又ハ否ヲスシテ法律ノ正當ナル手續ニ依テ汝ノ監守ヨリ移轉サレ又ハ放釋サレヘキニ至ルマテ之ヲ拘留スルヲ女帝陛下ニ代リテ汝ニ命令スルニアリ

上文所陳ノ〔郡〕内ノ何々所ニ於テ此我教主紀元何年何月何日子ノ署名及捺印ヲ以テ付與ス

何 某 (印)

ベントウオーラント(刑事裁判所判事ヨリ發)ヲ以テノ手續、告訴狀ノ見出サレタル何レノ裁判所ハ被告人ヲ逮捕シ而テ該告訴狀ニ答辨センカ爲メ直ニ之ヲ該裁判所ニ引致スル爲ニベントウオーラントヲ發スルハ久シキ習行ニ依テ一定ノ規則トナレリ尤モ此習行ハ只輕罪ノ事件ニノミ關スト云フ、他書ニ見ヘタリ此令狀ハ裁判所ノ開廳中附與サル、モノナリ若シ巡回裁判期中ニ發セラルレハ之ハ判事一名之ニ署名ス若シ治安裁判期中ニアラハ治安判事二名之ニ署名スルナリ告訴人カ中央刑事裁判所ニ於テ此令狀ヲ請願スル時ハ被告人ニ對シテ法律ヲ實施スルノ承諾カ要セラル、ナリ對シテ告訴狀カ見出サレタル訴訟關係人カ出廷シ而テ之ニ對シテ呈出サル、ヲ得ル何レノ告訴狀ニ答辨スルノ承諾ヲ既ニ爲シ而テ其出廷セサル場合ニ於テハ告訴人ハ該令狀ヲ豫テ請求スルヲ得此令狀ハ裁判期ノ終ニ於テ治安判事

之ニ署名スヘシ如何トナレハ裁判期ハ法律上只一日ナルヲ以テ被告
人ハ出廷スル爲ニ全裁判期限ヲ有スレハナリ左ニ掲載スルモノハベ
ンチ、ウオーラントノ書式ナリ

ミツドルセクス郡、ミツドルセクス郡内ノ總テノ警察官^{ヘットボロ}市區長及
他ノ女帝陛下ノ官吏及行政官ニマテ及其之ニ關係スルヲ得ル各人
ニマテ

此等ハ現今該郡ニ於テ及爲ニクラーケンウエルグリーンニ於ルセ
ツシユンスハウス^(裁判期ノ家)ニ於テ開カレタル治安裁判期又ハ治安
一般四季裁判期ニ於テ上文所陳ノ郡ノ爲ノ女帝陛下ノ治安判事ナ
ル予輩ノ目前ニ此同裁判期ニ於テ予輩ノ目前ニ於テ損害罪及攻撃
〔犯罪ノ性質〕ノ爲ニ告訴サレタル何某ノ身體ヲ該告訴狀及女帝陛下
ニ代リテ之ニ對シテ抗拒サレヘキカ如キ總テ他ノ事件ニ答辨セン

カ爲ニ若シ裁判所カ其時及其場所ニ開應シタレハ引致シ或ハ若シ
開應セサレハ該某ノ自身ノ出廷ノ爲ニ充分ナル保證人ヲ當裁判期
ニ於テ立ル爲ニ予輩又ハ同郡ノ他ノ女帝陛下ノ治安判事ノ目前ニ
之ヲ引致スルヲ且若シ之カ當裁判期中ニ捕ラヘラレ得サレハ然ル
時ハ之カ捕ラヘラレヘキ後速ニ予輩又ハ該郡ノ他ノ女帝陛下ノ治
安判事ノ目前ニ充分ナル保證人即チ詳言スレハ該郡ノ爲ニ開カレ
ヘキ次回ノ治安裁判期ニ於テ上文所陳ノ如シ答辨スル爲及其他法
律ニ從テ處分サレンカ爲ニ其自身ノ出廷ノ爲メ各何^{ボンド}磅ヲ以テノ保
證人二名ヲ立ル爲ニ之ヲ引致シ又ハ引致セシムルヲ之ニ依テ汝ニ
望ニ及要シ及女帝陛下ニ代リテ委任シ及命令スルニアリ 是ニ付
テ汝ハ懈怠シテ危險ヲ冒スヘキニアラス

上文所陳ノクラーケンウエルグリーンノセツシユンハウスニ於テ

裁判開期中此我教主紀元何年何月何日附

何某 及 何某

クインズベント裁判所ノ判事ノ發スル令狀、クインズベント裁判所ノ何レノ判事ハ輕罪犯ノ何レノ人ニ對シテ告訴狀カ見出サレタリトノ事實ノ誓言書又ハ證書ニ據リ又ハ其裁判所ニ呈出サレタル告發書ニ據リテ之ヲ逮捕シ及保釋スル爲ニ令狀ヲ發スルヲ得而テ若シ斯ノ如キ被告人カ保證人ヲ供スルヲ怠リ又ハ拒マハ之ヲ收監スルヲ得而テ巡回裁判期又ハ治安裁判期ノ終リタル後ハ巡回裁判書記又ハ治安書記ヨリノ證書(書式ハ前ニ見ユ)ニ據テクインズベント裁判所ノ判事又ハ告訴狀ノ見出サレタリシ郡ノ治安判事ハ自ラ署名シタル令狀ヲ以テ被告人ヲ逮捕セシムルヲ得而テ保釋ヲ怠ル場合ニ於テハ訊問ノ爲メ之ヲ收監スルヲ得ルト三世ヨ一シ帝即位第四十八

年ノ條例法第五十八章第一條ニ依テ定メラレタリ
 檢屍官ノ吟味ニ於ル手續ニ付テハ第三章ヲ見ルヘシ
 法外刑アクトロイ、告訴狀カ重罪又ハ輕罪ニ拘ハラス大陪審官ニ依テ貴族又ハ平民ニ拘ハラス何レノ人ニ對シテ見出サレ而テ略式ノ手續カ其被告人ノ逮捕ニ付テ功用ナキモノタル場合ニ於テハ法外刑ノ手續カ爲サルルナリ抑法外刑ハ女帝ノ裁判所ノ裁判ニ自己ヲ服從セシムルヲ拒ミタル抗傳コナマシノ爲ニ法律ニ從テ犯罪人ニ科セラレタル刑罰ナルカ故ニ刑法ノ緊要ナル一部分ナリ此刑ハ反逆及重罪ノ場合ノミナラス總テ強迫ノ傷害、詐欺、陰謀又ハ強迫ノ損害罪ヨリ尙一層惡ムヘキ他ノ犯罪ノ告訴上ニ存スルモノナリ故ニ此刑ハ如何ノ犯罪ト雖モ其告訴上受クヘキモノナリト云フハ尙良説ナルカ如シ反逆又ハ重罪ニ於ル法外刑ハ其犯罪人カ陪審官ニ依テ有罪ト見出サレタリシト同様ニ告訴狀

中ニ告訴サレタル犯罪ノ決罪及沒収（アッテイシタル財産）ニ及フモノナリ法外刑ノ手續ハ巡回判事之ヲ施スコトヲ得而テ四季裁判期ノ治安判事モ亦其目前ニ出タル告訴狀ニ依テ之ヲ施スコトヲ得然レモ四季裁判期ノ裁判所ニ於テ法外刑ノ手續ヲ爲スノ習行ハ廢止ニ屬シタルカ如シ而テ其通例ノ手續ハ其裁判期ニ於テ見出サレタル告訴狀ヲ審査令狀ヲ以テ移シ而テクインスベンチ裁判所ニ於テ法外刑ヲ科スルノ手續ヲ爲スニアルナリ總テ法外刑ノ手續ニ於テハ最モ注意シタル精密カ要セラレ、ナリ否ラサレハ何レノ違式ニ對シテ誤審狀ヲ以テ之ヲ廢棄スルコトヲ得ルナリ（第五章ノ誤審狀ヲ見ルヘシ）反逆又ハ重罪ノ事件ニ於ル手續ハ一層簡畧ナルヲ以テ輕罪事件ノ手續ニ稍異ナルナリ輕罪事件ニ於テハ告訴狀カ輕罪ノ爲ニ見出サレ而テ被告人カ出廷セサル時ハ出廷ヲ促ス召喚ノ性質アルゾエニル、フアシアス、アド、レスポンデント（前文ニ出

ツ）令狀カ場合ニ從テクインスベンチ裁判所、又ハ巡回判事又ハ四季裁判期ノ治安判事ヨリ發ス若シ被告人カ出廷セス而テ郡長ハ之ヲ召喚シタリシコトヲ回報セハジストリンガス（前文ニ出ツ）令狀前文ノ書式ヲ看ルヘシカ出サレ而テ其効ナケレハ再ヒ第二ジストリンガス令狀カ發セラレ、ナリ若シ郡長カ被告人ノ見當ラサルコトヲ回報セハ第一拘引狀前文ノ書式ヲ看ルヘシ）ヲ發ス而テ後チ第二拘引狀而テ其後チ第三拘引狀ヲ發ス如何トナレハ死罪ニアラサル總テノ犯罪事件ニ於テハ此等ノ三種ノ繼續スル令狀ナクシテハ決罪前ニ法外刑ヲ該ルヲ得サレハナリ反逆又ハ重罪ノ告訴ノ場合ニ於テハ一個ノ拘引狀ニテ充分ナリト云フト雖モ總テノ事件ニ於テ三個ノ令狀ヲ發スルハ通例ナリ若シ被告人カ尙裁判ヲ逃避セハエシシメント（汝カ要求サレシムルト云フ義ニシテ出廷ヲ強迫スル令狀）令狀カ出サル、ナリ此令狀ニ依テ郡長ハ被告人ニ之ニ應シテ

出廷セサレハ法外刑ヲ受クルヲ以テ出廷スヘキ旨ヲ命令シテ被告人
 ナ公告シ之ヲ五日間毎日郡裁判所ニ召喚スルヲ要セラル、ナリ、ウ井
 リヤム帝及メーレー女帝即位第四年及第五年ノ條例法第二十二章第
 四條ノ權ニ依テ總テ刑事々件ニ於テ判決又ハ決罪前ニエクシシエ
 ト令狀ノ發スル上ハ之ト同シ日附及還付期日ヲ有リツト、オラ、フクロク、ラ、メイ、シ、コン大ル公告令狀此令
 被告人ニ出廷スヘク否ラサレハ法外刑ニ該ラカ被告人ノ熟知スル所
 ル、旨ノ公告ヲ三回爲ストヲ命スル令狀ナリカ被告人ノ熟知スル所
 ト告訴狀ニ依テ想像サレタル郡ノ郡長ニ向テ發セラルヘシ而テ此令
 狀ハ其還付期日三ヶ月前ニ郡長ニ交付サレサル可ラサルモノナリ郡
 長ハ正當ニ此等ノ令狀ヲ遵守シタリシニ被告人ハ尙第五日目ニ郡裁
 判所ニ出廷セサレハ其郡ノ檢屍官ノ一人カ法外刑ノ裁判ヲ宣告ス若
 シ被告人カ男子ナレハ其裁判ハ彼レカ法外刑ニ處セラルト云フ若シ
 女子ナレハ彼ノ女カ放棄セラルト云フ被告人カ五回要求サレ而テ法

外刑ニ處セラレタリトノ郡長ノエクシシエント令狀ニ對スル回報ノ
 上クラオンオフヒス前文ニ出ツニ於テ裁判書カ署名捺印サル、トチ得而テ
 若シ要用ナレハカピアスウトラガタム汝ハ法外刑ヲ逮捕スト云フ義ニ
テ法外刑人ヲ逮捕スト云フ義ニ令狀ヲ發スルヲ得
 法外刑ノ廢棄ニ付テハ第五章第五節ノ誤審狀ヲ見ルヘシ

第九節 告訴狀ニ於ル保釋

保釋人ノ性質、保釋人ハ告訴スヘキ罪ヲ以テ告訴サレタル被告人ノ或
 ル日及場所ニ於テ答辨スル爲メ及法律ニ依テ赦免サル、爲ニ出廷ス
 ルチ正當ノ權カアル人ノ保證セシメタル保證人ナリ被告人ハ其保證
 人ノ監守ニ附セラル、ナリ此保證人ハ若シ被告人カ將ニ逃走セント
 スト想像スルノ理由アレハ更ニ之ヲ捕ラヘ而テ治安判事ノ目前ニ之
 ナ引致スルヲ得此判事ハ保證人ヲ解ヒテ其被告人ヲ収監スヘシ蓋

シメーンノパノル（罪人ナリ出廷セシムルト全シ然レモ監守ハ何時
ニテモ被告ノヲ判事ニ引渡サルノ相異アルナリ）ハ斯ノ如キ權ヲ有セ
ス且此等ノ今一種ノ相異ハベールヲ立ル被告人ハ只自己ニ對シテ辨
セラレタル或ル特別ノ事件ニ答辨スルノミノ保證ヲ立ルト雖モメ
ノパノルヲ立ル者ハ出廷シ而テ自己ノ収監サレタリシ犯罪ニ關シ
テノミナラス自己ニ對シテ辨セラレヘキ總テ他ノ事件及事故ニ關シ
テ答辨スルノ保證ヲ立ルニアラナリ抑保釋ヲ得ヘキ何レノ人ヲ保
釋スルヲ拒ミ又ハ遷延スルハ何レノ官吏ニ在テモ習慣法ニ依テ臣民
ノ自由權ニ反スルノ一犯罪ナリ亦數種ノ條例法ニモ反スルナリ即チ
ウエストミンストル條例法ニ條ヲ設テ云ク若シ何人ニテモ保放サレ
ヘキ囚人カ充分ナル保證人ヲ出シタル後チ尙之ヲ抑留セハ其人ハ重
キ罰金ヲ國帝ニ拂フヘシト然レモ囚人ニ保釋ヲ許スニ係ル官吏ノ

職務ハ司法ノ職務ナリ而テ是故ニ輕罪ヲ以テ告訴サレタル人ニシテ
保釋ヲ許サレヘキ權利アル者ニ之ヲ許スヲ拒ミタルカ爲メ官吏ニ對
シテハ惡意ノ證據アルニアラサレハ訴訟ヲ起スヲ得スト認メラレ
タリ若シ不充分ナル保證人カ立ラレハ又ハ若シ保證人カ後日不充
分ナルモノトナラハ何レノ官吏ハ被告人ニ充分ナル保證人ヲ立ル
ヲ命令スルヲ得而テ被告人之ヲ怠レハ収監スルヲ得而テ不充分
ナル保證人ヲ以テ被告人ニ保釋ヲ許シタル判事ハ若シ其被告人カ出
廷セサレハ其責ニ任スヘキモノナリ若シ被告人カ直チニ保證人ヲ立
ルヲ得サレハ決罪前ハ何時ニテモ之ヲ立タル上保釋ヲ許サルヘシ
何人カ保證人タルヲ得ル乎——保證人ハ自身義務ヲ負フ金額ニ應ス
ル爲ニ充分ナル能力アルモノタラサル可ラス是ハ通例戶主ナリ然レ
モ保證人ノ能力ニ付テハ職務ヲ行フ官吏又ハ判事ノ裁量ニ任スモノ

ナリ而テ申出タル保證人ハ假令ヘ刑事々件ニ於テハ保證人ノ財產證明ハ緊要ニハラスト雖モ宣誓ノ上其家産ニ付テ吟味サル、ナリ得而テ裁判所又ハ官吏ハ其裁量ヲ以テ告訴人ヲシテ保證人ノ能力ニ付テ故障ヲ爲シ得サシムル爲ニ相當ノ通知カ告訴人ニ爲サレヘキヲ命令スルヲ得何人ト雖モ何レノ犯罪ニ付テ決罪サレ之カ爲ニ醜名ヲ得タル者ハ告訴スヘキ罪ニ付テ告訴サレ又ハ疑ハレタル人ノ保證人トナルヲ許サレサルナリ亦結婚シタル婦女又ハ幼者又ハ監守中ノ囚人モ保證人トナルヲ得ス」保證人ヲ詐稱スルハ第四世ヨシシ帝即位第十一年及第四世ウヰリヤム帝即位第一年ノ條例法第六十六章第十一條ヲ以テ重罪ト布告サレダリ

何レノ被告人ノ保證人トナリタル人ハ之ヲ保釋セシメタル裁判所又ハ官吏ノ前ニ之ヲ引致シ而テ之ヲ引渡スヲ以テ自身ノ保證ヲ解ク

ナ得其裁判所又ハ官吏ハ其被告人ヲ収監スヘシ然レモ斯ノ如キ場合ニ於テハ斯ノ如キ被告人ハ更ニ保證人ヲ立ルヲ得ルナリ

保證人ノ承諾書式、左ニ掲載スルハヅヰトリヤ女帝即位第十一年及第十二年ノ條例法第四十二章ニ依テ定メラレタル治安判事ノ目前ニ於テ保證人ニ於テ記入スヘキ承諾書ノ書式ナリ

我教主紀元何年何月何日ニ於テ何々所ノ甲某傭役人何々所ノ乙某〔雜貨商〕及何々所ノ丙某〔屠獸人〕ハ自身該郡ノ女帝陛下ノ治安判事ノ二人ナル下文ニ署名シタル〔予輩〕ノ目前ニ來リシ而テ若シ該甲某カ裏書サレタル條件ヲ怠ラハ我女帝陛下及陛下ノ嫡嗣及後嗣ノ使用ノ爲ニ各其種々ノ物品及貨物、土地及家屋ヨリ爲サレ及徴収サレヘキ大貌列顛國ノ善良正當ナル貨幣ノ左ノ各別ナル額〔詳言スレハ〕該甲某ハ幾何ノ額及該乙某及丙某ハ幾何ノ額ヲ我女帝陛下ニ負フ

ナ各自ニ承諾セシ事カ記憶サル、ナリ
何々所ニ於テ上文ニ記載サレタル日及年ニ予輩ノ目前ニ於テ取ラ
レ及承諾サレタリ

何某

何某

此中ニ記載サレタル承諾ノ條件ハ是ナリ該甲某ハ本日此中ニ記載
サレタル判事ナル「予輩」ノ目前ニ於テ云々〔令狀ニアル如ク〕ノ事ノ爲
ニ告訴サレシカ故ニ若シ是故ニ該甲某カ何々郡ニ於テ及爲ニ開カ
レヘキ次回ノ巡回裁判所〔又ハ治安一般四季期裁判所〕ニ出廷シ而テ
其所ニ於テ該所ノ〔普通監獄〕ノ看守人ノ監守ニ自身ヲ交付シ而テ上
文所陳ノ告訴ノ爲ニ及之ニ付テ大陪審官ニ依テ之ニ對シテ見出サ
レヘキカ如キ告訴狀ニ答辨シ而テ此狀ニ付テ其訊問ヲ受ケ而テ許

可ナクシテハ該裁判所ヲ去ラサルヘケレハ然ル時ハ該承諾ハ無効
タルヘク又ハ否ラサレハ充分ナル効力及功用ヲ有ス

被告人及其保證人ニ附與サレヘキ該承諾ノ通知書

何々所ノ甲某ナル汝ハ幾何ノ金額及汝ノ保證人〔乙某及丙某〕ハ各幾
何ノ金額ヲ以テ汝甲某カ出廷シ云々〔承諾ノ條件ニ於ルカ如ク〕而テ
許可ナクシテハ該裁判所ヲ去ラサルカ爲ニ束縛サレタルヲ承知
セヨ而テ該甲某ナル汝カ自身出廷シ而テ辨論シ而テ隨テ汝ノ訊問
ヲ受クルニアラサレハ汝及汝ノ保證人ノ記入シタル承諾ハ是ヲ以
テ汝及該保證人ヨリ徴収セラルヘシ

此千八百何年何月何日附

何某

然レモ承諾ノ條件ハ保證人ニ關シテハ被告人ノ出廷ヲ以テ假令ヘ其
被告人ハ黙シテ答ヘスト雖モ履行サレタルカ如シ

被告人カ収監サレタル場合ニ於テ保釋ヲ許ルス方法、一總テ何レノ告訴スヘキ罪ヲ以テ告訴サレタル人カ其罪ニ付テ其訊問ヲ受クル爲ニ収監サレヘキ場合ニ於テハ其收監令狀ニ署名シタルヘキ治安判事ニ於テ其裁量ヲ以テ收監後及其訊問サレヘキ開廷又ハ裁判期ノ第一日前又ハ該開廷又ハ裁判期カ延期サレヘキ日前何時ニテモ上文所陳ノ方法ヲ以テ該被告人ニ保釋ヲ許ルスハ正當ナルヘシ或ハ若シ斯ク收監シタル判事カ前文ニ記載サレタル罪ノ何レノ爲ニ該被告人ハ保釋ヲ許サレサル可ラストノ説ヲ爲スヘケレハ其判事ハ斯ノ如キ場合及總テ他ノ輕罪ノ場合ニ於テハ收監令狀ノ裏面ニ該被告人ニ保釋ヲ許スノ自己ノ承認ヲ證シ(下文ヲ見ルヘシ)且又要セラレサルヘカラサル保釋ノ金額ヲ記ルスヘシ而テ該被告人ノ収監サレタルヘキ監獄ニ出席シ又ハ之ニ在ル何レノ治安判事ニ於テハ該證書ノ出タル上該被告人

ニ上文所陳ノ方法ヲ以テ保釋ヲ許ルスハ正當ナルヘシ或ハ若シ斯ノ如キ場合ニ於テ該被告人ト保釋ノ承諾ニ連帶スル爲ニ該監獄ニ出頭スルハ保證人ノ爲ニ不便利ナルヘケレハ然ル時ハ該収監シタル判事ハ上文所陳ノ如キ證書(下文ヲ見ルヘシ)ニ通テ製スルヲ得而テ之ヲ同シ郡、ライオン、グ、シウ、シユン、リ、ベル、テ、府、市區又ハ場所ノ治安判事ニ出セハ此治安判事ニ於テ該證書ニ從テ保證人ノ承諾ヲ取ルハ正當ナルヘシ而テ此承諾カ該監獄ノ看守人ニ送達サレ而テ上文所陳ノ收監令狀上ノ證書ト共ニ該監獄ニ出席シ又ハ在ル何レノ治安判事ニ出サルレハ此治安判事ニ於テハ之ニ依テ該被告人ノ承諾ヲ取り而テ後文ニ記載シタルカ如ク其収監ニ係ル監守ヨリ該被告人ノ放釋サル、ヲ命令スルハ正當ナルヘシ(ゾ、ク、トリヤ、女帝即位第十一年及第十二年ノ條例法第四十二章第二十三條)ゾ、ク、トリヤ、女帝即位第十九年及

第二十年ノ條例法第十六章ニ依リ告訴狀カ中央刑事裁判所ニ於テ訊問ノ爲移サレタル場合ニ付テハ同條例法ノ同章第九條ヲ見ルヘシ
 収監令狀ニ批書シタル収監セシ治安判事ノ保釋承認證書
 予ハ此中ニ指名サレタル何某ニ自身ハ幾何ノ金額及二名ノ保證人ハ各幾何ノ金額ニ於ル承諾ヲ以テ保釋サル、事ヲ承認スルヲ之ニ依テ證ス

何 某

別紙ニ爲ス前同斷ノ證書

何某ハ云々〔簡短ニ犯罪ヲ記ス〕ヲ以テ告訴サレ何々所ニ於ル〔矯正院〕ニ何月何日ニ於テ予ヨリ収監サレタリシカ故ニ予ハ該某ニ自身ハ幾何ノ金額及二名ノ保證人ハ各幾何ノ金額ニ於ル承諾ヲ以テ保釋サル、事ヲ承認スルヲ之ニ依テ證ス

千八百何年何月何日

何 某

収監セシ治安判事ニ送達サレヘキ承諾書、而テ監守中ノ該被告人カ前文所陳ノ如キ収監セシ治安判事ニアラサル他ノ治安判事ヨリ保釋ヲ許サレヘキ總テノ場合ニ於テハ斯ク保釋ヲ許シタル該治安判事ハ之ヲ以テ保釋承諾書ヲ収監セシ判事又ハ其一名ニ送達スヘシ其判事又ハ一名ハ之ヲ吟味書ヲ附シテ相當ノ官吏ニ送達スヘシ〔ザヰトトリ〕ヤ女帝即位第十一年及第十二年ノ條例法第四十二章第二十三條
 監獄内ニアル人カ保釋サル、場合ノ釋放ノ令狀、治安判事カ保釋ヲ許サレヘキ犯罪ヲ以テ告訴サレテ監獄内ニアルヘキ何レノ人ニ保釋ヲ許ルスヘキ場合ニ於テハ該治安判事ハ斯ク保釋ヲ許ルサレタル人カ他ノ犯罪ノ爲ニ拘留サレタルニアラサレハ之ヲ釋放スルヲ該監獄ノ看守人ニ要スル判事自身ノ署名及捺印アル釋放令狀ヲ該看守人ニ

送致シ又ハ受取テシムヘシ而テ該釋放令狀カ該看守人ニ交付サレ又
ハ受取ラシメラルレハ該看守人ハ之ニ依テ之ヲ遵奉スヘシ(ヴヰクト
リヤ女帝即位第十一年及第十二年ノ條例法第四十二章第二十四條)
既ニ収監サレタル囚人ニ保釋ヲ許ルシタル時ノ釋放令狀ノ書式

何々[郡]内ノ該何々所ニ於ル[矯正院]ノ看守人ニマテ、舊何々所ノ何某
[備役人]ハ該郡ニ於ル及爲ノ女帝陛下ノ治安判事ノ(二人ナル予輩)ノ
目前ニ於テ其捕ヘラレ而テ汝ノ[矯正院]ニ収監サレタリシ云々[収監
狀]ナル如クノ事ノ爲ニ我女帝陛下ニ答辨スル爲ニ何々郡ニ於テ
及爲ニ開カレヘキ次回ノ巡回裁判所又ハ治安一般四季期裁判所ニ
其出廷ノ爲自身承諾ヲ記入シ而テ充分ナル保證人ヲ立タリシカ故
ニ是等ハ是故ニ若シ該某カ該事故ノ爲ニ而テ他ノ事故ノ爲ナラス
ニ該[矯正院]ニ於テ汝ノ監守中ニアラハ汝ハ之ヲ以テ同人ヲ釋放ス

ヘキヲ女帝陛下ニ代リテ汝ニ命令スルニアリ
上文所陳ノ[郡]内何々所ニ於テ此我教主紀元何年何月何日子輩ノ署
名及捺印ヲ以テ附興ス

何 某 (印)

何 某 (印)

治安判事カ自己ノ裁量ヲ以テ保釋ヲ許スヲ得ル場合、何レノ人カ
何レノ重罪ヲ以テ又ハ之ヲ犯ス爲ノ意ヲ以テノ何レノ攻撃ヲ以テ又
ハ之ヲ犯ス爲ノ試計ヲ以テ又ハ詐欺ニ依テ財産ヲ得又ハ得ント試計
シタルヲ以テ又ハ竊取サレ又ハ詐欺ニ依テ得ラレタル財産ヲ收受シ
タル輕罪ヲ以テ又ハ偽誓又ハ之ヲ爲サシメタル罪ヲ以テ又ハ秘密ニ
埋葬シ又ハ否ラスシテ小兒ノ出産ヲ隱蔽シタルヲ以テ又ハ人ノ身體
ヲ故意ヲ以テ又ハ非禮ヲ以テ開露シタルヲ以テ又ハ暴動ヲ以テ又ハ

給金ヲ増加スル爲ノ陰謀ヲ履行シテ攻撃ヲナシタルヲ以テ又ハ治安判事ノ職務執行中之ニ對シ又ハ其判事ノ補助ヲ爲ス何レノ人ニ對シテ爲シタル攻撃ヲ以テ又ハ治安官吏タル職務ノ懈怠又ハ背犯ヲ以テ又ハ告訴費用カ郡稅ヨリ仕拂ハレヘキ何レノ輕罪ヲ以テ告訴サレテ治安判事ノ目前ニ出テ又ハ引致サレヘキ場合ニ於テハ該治安判事ハ斯ノ如キ人カ該判事ノ意見ニ於テハ該犯罪ノ爲ニ訊問セラレヘキ時及場所ニ該告訴サレタル人ノ出廷ヲ保證スルニ充分ナルヘキカ如キ保證人ヲ得而テ之ヲ出セハ其裁量ヲ以テ之ニ保釋ヲ許スヲ得而テ之ニ付テハ該判事ハ訊問ノ時及場所ニ於テ該被告人ノ出廷シ而テ其被告人ハ其時自身ヲ交付シテ其訊問ヲ受ケ而テ許可ナクシテハ裁判所ヲ去ラサルヘシトノ條件ヲ以テ該被告人及其保證人ノ承諾書(前文ヲ見ルヘシ)ヲ取ルヘシ(少井トリア女帝即位第十一年及第十二年ノ

條例法第四十二章第二十三條

保釋ヲ許ルスハ判事ニ對シテ命令スヘキモノタル場合一何レノ人カ前文ニ記載サレタル輕罪外ノ他ノ何レノ告訴スヘキ輕罪ヲ以テ何レノ治安判事ノ目前ニ告訴サレヘキ場合ニ於テハ該判事ハ之ヲ該犯罪ノ爲ニ收監スル代リニ上文所陳ノ吟味書ヲ取ル後上文所陳ノ方法ヲ以テ之ニ保釋ヲ許ルスヘシ或ハ若シ此被告人カ既ニ收監サレ而テ其訊問サレヘキ開廷又ハ裁判期ノ第一日前又ハ該開廷又ハ裁判期カ延期サレヘキ日前ニ該監獄ノ巡視判事ノ一人又ハ同郡、ライジング、ゾウ、井シヨン、リベルテ、府、市區、又ハ場所ノ爲ノ他ノ何レノ治安判事ニ保釋ヲ許サレノヲ請願スヘケレハ該判事ハ之ニ應シテ上文所陳ノ方法ヲ以テ保釋ヲ之ニ許ルス可シ(少井トリア女帝即位第十一年及第十二年ノ條例法第四十二章第二十三條)

反逆ノ場合ニ於ル保釋、一何レノ治安判事ト雖モ反逆罪ノ爲ニ何レノ人ニ保釋ヲ許ルス可ラス又斯ノ如キ人ハ女帝陛下ノセクレタリース、オフ、ステート(尚)ノ一人ノ命令ニ依テ又ハウエストミンストルニ於ル女帝陛下ノクインズベンチ裁判所ニ依テ又ハ閉期中ハ其判事ノ一人ニ依テニアラサレハ保釋ヲ許サレサルヘシ(ヴヰクトリヤ女帝即位第十一年及第十二年ノ條例法第四十二章第二十三條)クインズベンチ裁判所ニ於テノ保釋、一何レノ他ノ裁判所ヨリハ高等ノ權力ヲ有スルクインズベンチ裁判所ハ又ハ其閉期中其判事ハ(ヴヰクトリヤ女帝即位第一年及第二年ノ條例法第四十五章)其裁判所又ハ判事ノ前ニ保身令狀ノ權ヲ以テ又ハ否ラスシテ其裁判所ノ手續ニ從テ引致サレタル反逆、重罪又ハ輕罪ヲ以テ告訴サレタル又ハ其嫌疑アル何レノ囚人ニ保釋ヲ許ルスノ裁量權ヲ有ス而テ其裁判所又ハ閉期

中其判事ハ囚人及其保證人ヲ市ニ於ル裁判所(クインズベンチ)又ハ判事ノ前ニ引致スルハ不便ナルヘキ場合ニ於テハ官吏(治安判事)ノ目前ニ於テ其囚人ニ保釋ヲ許スヲ指令シ又ハ正當ノ事故ノ示サル、ニ於テハ監守中ニアラサル訴訟關係人ニ逮捕令狀ニ服從ノ上ハ保釋ヲ許サレヘキヲ命令スル裁量權ヲモ亦有ス保釋ノ請願ハ口供書ノ謄本ヲ證スルクインズベンチニ於テト稱スル誓言書ヲ以テ爲サレサル可ラス此誓言書ニハ收監狀ノ證セラレタル謄本ヲ添ヘサル可ラス囚人及其保證人ノ該裁判所ニ出廷ノ不都合アラサル場合ニ於テハ代言人ハ保身令狀ノ請願ヲ爲シ且囚人ノ據テ收監サレタリシ口供書ヲ該裁判所ニ出ス爲ニ場合ニ依リ官吏(治安判事)又ハ檢屍官ニ向ケラレタル審査令狀ノ請願ヲモ亦爲スナリ謀殺又ハ故殺ノ事件ニ於テハ若シ死者ノ寡婦アラハ其寡婦又ハ最近ノ親屬ニ而テ他ノ事件ニ於テハ告訴人ニ保

釋ニ付テ四十八時間ノ通知カ爲サレサル可ラス且檢屍官又ハ收監セ
 シ官吏ニモ亦通知サレサル可ラス令狀(前ノ云フ)ニ對シテ回報カ正當
 ニ爲サレ囚人カ裁判所ニ引致サレタル時ニハ代理人ハ其保釋ヲ許サレ
 ノトノ請願ヲ爲ス而テ若シ如何ノ故障アラサレハ裁判所ハ其裁量ヲ
 以テ之ニ保釋ヲ許スヘシ而テ裁判所ノ官吏ハ承諾書ヲ取ルヘシ重罪
 ノ事件ニ於テハ裁判所ハ通例囚人ノ保證人ヲ要ス然レモ下等ノ犯罪
 ニ於テハ二人カ充分ナリト茲ニ述フルハ緊要ナルヘシ囚人ニ保釋ヲ
 許スノ請願ハ代理人ヨリ故障セラル、トテ得而テ誓言書ハ請願ニ對
 スル答辨ニ使用セラル、トテ得囚人カ保釋ヲ許サレンカ爲ニ判事ノ
 私局ニ引致サレタル時其手續ハ公廷ニ於ル手續ト殆ント同一ナリ地
 方ノ場合ニ於テハ訴訟關係人ヲ市ニ引致スルノ費用及不便ヲ避ケン
 カ爲ニ手續ハ何故ニ囚人カ其監守サレタル郡ニ於ル治安判事ノ目前

ニ於テ保釋ヲ許サレヘカラサル平ノ理由ヲ示スヘキ命令ヲ請願シ且
 同時ニ審査令狀ヲ請願スルニアリ通知ハ保身令狀ノ請願サレタル時
 ノ如ク同シ方法ヲ以テ爲サル、ナリ而テ此命令ハ上文ノ場合ニ於ル
 カ如クニ故障セラル、トテ得若シ此命令カ官吏ニ出サレタル上完全
 ノモノト爲サレタレハ其官吏ハ囚人ニ保釋ヲ許スヘシ告訴狀移轉ニ
 於ル保釋ニ付テハ第十一節ヲ見ルヘシ檢屍官ノ陪審官ノ斷定ノ後ノ
 保釋ニ付テハ第三章ヲ見ルヘシ
 承諾書ノエストロイト(此語ノ義ハ真正ノ騰書ト云フ)ニ處分スル爲ニハ
 沒收サレタル承諾書等ヲ相當ニ處分スル爲ニハ
 裁判所ノ記録中ヨリ用ユ(若シ被告人又ハ其保證人ニ於テ契約サレ
 タル承諾書ノ條件カ背犯サルレハ其承諾書ハ沒收セラル、ナリ而テ
 其承諾書カ記録中ヨリ抽出サレタル上ハ其契約人ハ各其約束シタル
 金額ニ對シテ國帝ノ負債者トナルナリ抑エストロイト(エクストラ)

タム(羅句語ニシテ)ノ義ナル言語ノ意義ハ原書ノ真正ノ謄書ヲ示ス即チ裁判所ノ記録中ニ科セラレタル而テ此記録中ヨリ抽出即チエストエグストラクテッドトリーテッド(書謄)サレタル罰金ノエストリート(書謄)ノ如シ而テ此言語ハウエストミンストル條例法第二章中ニ如ク用ヒラレタリ承諾書ノエストリートヲ爲スニ關スル國會上等裁判所及巡回裁判所ノ手續ハ現今ハ第二世チャールズ帝即位第二十二年及二十三年ノ條例法第二章ヲ廢止スル第四世ウヰリヤム帝即位第三年及第四年ノ條例法第九十九章ニ依テ管理サル、ナリ其第二十九條ニ依テ總テ英國内ノ巡回裁判所ノ判事ニ依テ又ハ其目前ニ於テ國帝ノ使用ノ爲ニ科セラレ即チ沒収サレタル承諾金ノ計算書ハ斯ノ如キ承諾ノ沒収サレタル翌日ヨリ十四日内ニ巡回裁判所ノ書記ニ於テ之ヲ拂フノ責アル最近住居ノ契約人ヲ首トシテ調製セラルヘシ而テ該書記ハ計算書二通ヲ製

シ一通ハ女帝陛下ノ大藏省委員ニ一通ハ公ノ會計検査委員ニ送付スヘシ而テ斯ノ如キ承諾ハ特示サレタル期限内ニエグスチエッカー裁判所ニ於テ該官吏及人ニ依テ正當ニ證セラレ而テエストリートヲ爲サルヘシト制定サレタリエグスチエッカー裁判所ハ帝璽ヲ鈴シタル命令書ニ依テ巡回裁判所ニ於テ生シタル罰金及沒収ヲ管轄スル權ヲ有シ而テ何レノ承諾ヲ赦免シ即チ其裁量ヲ以テ之ヲ解シテ得然レヒエグスチエッカー裁判所ハ現今ハ裁判期外又ハ裁判期ニ於テ治安判事ノ目前ニ於テ沒収サレタル承諾書上ノ管轄權ヲ有セサルナリ(第四世ヨージ帝即位第三年ノ條例法第四十六章)而テ第四世ヨージ帝即位第七年ノ條例法第六十四章第三十一條ニ依テ其出廷ノ爲ニ承諾ヲ以テ束縛サレタル或ハ其出廷ノ爲ニ何レノ他ノ人カ重罪又ハ輕罪ノ何レノ事件ニ於テ告訴シ又ハ證據ヲ呈シ又ハ何レノ普通ノ攻撃ノ爲ニ

答辨シ又ハ治安ノ條件ニ對シ答辨シ又ハ私生兒事件ニ於テ命令ヲ待
 ツ爲ニ束縛サレヘキ何レノ人カ闕席ヲ爲スヘキ何レノ場合ニ於テハ
 エストリート(前文ニ出ツ)ノ爲サ、ル裁判所ノ官吏ハ斯ク束縛サレタル各
 人ノ姓名住所及職業及犯罪ノ性質ヲ詳記スル簿書ヲ製スヘシ而テ該
 官吏ハ斯ノ如キ承諾書ノエストリートヲ爲スヘキ前ニ該簿書ヲ判事
 ニ出スヘシ若シ治安裁判期ニ於テノ時ハ該裁判所ニ從事シ而テ該簿
 書ヲ檢査シ而テ該承諾書ノエストリートヲ爲スニ付テ正當ナルヘキ
 カ如キ命令ヲ爲スノ權ヲ附與サレ及之ヲ爲スヲ要セラレタル治安判
 事長又ハ他ノ二名ノ治安判事ニ出スヘシ而テ何レノ裁判所ノ官吏ト
 雖モ該簿書ヲ檢査シタルヘキ治安判事ノ命令書ナクシテハ何レノ斯
 ノ如キ承諾書ノエストリートヲ爲スヘカラス又ハ其手續ヲ爲スヘカラ
 ス第四世ジヨリシ帝即位第三年ノ條例法第四十六章第二條ハ治安書

記又ハダウン、クラッシュ(市ノ事務ヲ取扱フ官吏)ハ斯ノ如キ沒收サレタル承諾書ヲ
 一卷書ニ騰寫シ而テ四季期裁判所ノ定ムヘキカ如キ該裁判所延期(即チ開
 閉ヲ)ヨリ二十一日ニ超過セサル期限内ニ該騰寫書ニジストリンガ
 ス令狀及ヒ第一拘引狀第八節中ノ二令狀書式ヲ參看スヘシ又ハファイ
 エライ、フエーシアス令狀(此令狀ハ所有品又ハ地所ヲ以テ負債ノ金額ヲ調達セシムル爲ニ發スルモノナリ)及
 ヒ第一拘引狀ヲ添ヘテ之ヲ郡ノ郡長ニ送付スヘシ此騰寫書ハ即チ郡
 長ニ於テ直チニ該沒收承諾金ノ徵收及辨償ニ着手ヲ爲スノ許可ナル
 ヘシト指令ス承諾ノ條件カ其本人ニ於テ治安ヲ保守スヘキモノタル
 場合ニ於テハ治安裁判期ニ於テハ承諾書ハサイル、フエーシアス令狀(承
 諾執行ノ令)ヲ發セシテハエストリートヲ爲サル、トヲ得ス此令狀ニ
 對シテハ本人ハ答辨スルヲ得
 クインズベンチ裁判所ニ呈出サレタル告訴狀又ハ告發書上ノ爭論點

ノ訊問ニ着手スヘキ承諾書ノエストリートニ關シテハヴ#クトリヤ
女帝即位第十六年及第十七年ノ條例法第三十二章第八條ヲ看ルヘシ

第十節 告訴廢滅ノ場合

如何ノ場合ニ於テ廢滅スル乎—告訴狀カ其狀面上之ニ對シテ裁判ヲ
下ス能ハサルカ如キ缺乏アル場合ニ於テハ被告人カ決罪サレヘキ時
ト雖モ裁判所ハ請願ヲ待テ大概之ヲ廢滅スヘシ故ニ例ヘハ治安裁判
期ニ於テ見出サレタル偽誓又ハ偽造ノ告訴狀ハ廢滅ニ歸シタリ如何
トナレハ治安裁判期ハ偽誓又ハ偽造罪ノ管轄權ヲ有セサレハナリ又
六名ノ人ニ對シテ商業ヲ爲シタル爲ニ告訴シタル告訴狀ハ廢滅ニ歸
シタリ如何トナレハ是ハ各人別々ノ犯罪ニシテ是故ニ連帶告訴ノ旨
趣ト爲サレ能ハサルレハナリ—告訴狀中ニ陳述サレタル事實カ法律ニ
依テ罰スヘキ罪トナラサルカ故ニ告訴狀ノ廢滅ニ歸シタル數種ノ場

合アリ即チ例ヘハ治安判事ニ對シテ凌辱ノ言語ヲ用ヰタルヲ告訴シ
テ此言語カ該判事ノ職務ヲ行フ際之ニ對シテ用ヰラレシヲ陳述セ
サル告訴狀ニ於ルカ如シ又判事ハ被告人ヲ數個ノ告示中ニ數個ノ重
罪ヲ以テ又ハ同一ノ告示中ニ數個ノ犯罪ヲ以テ告訴シタル告訴狀ヲ
其裁量ヲ以テ廢滅スルヲ得(第三節及第四節ヲ看ルヘシ)
告訴狀廢滅ノ請願カ被告人ヨリ爲サレタル場合ニ於テハ裁判所ハ其
告訴狀カ反逆又ハ重罪、偽造、偽誓又ハ偽誓セシメタル罪ノ如キ重大ノ
罪ノ告訴ナルヲ顯著ナル時ハ大概之ヲ廢滅スルヲ拒ミタリキ裁判所
ハ欺騙ヲナシタル罪、不正ノ權衡ヲ以テ麪粉ヲ販賣シタル罪、虐取罪、官
吏ノ令狀ヲ執行セサル罪、監督(貧民)ノ後任ニ金員ヲ拂渡サ、ルカ爲ニ
之ニ對スル罪等ノ告訴狀モ亦廢滅スルヲ拒ミタリキ裁判所ハ街道又
ハ橋ヲ修繕セサル罪又ハ他ノ公ノ妨害罪ノ告訴狀モ亦該妨害カ除却

サレタル證書アルニアラサレハ廢滅セサル可シ又強暴ノ進入(家屋地
所爲ノ進得入)ノ告訴狀ヲ恐ラクハ所有カ後ニ拋棄サレタリシ場合ノ外
ハ廢滅セサルヘシ又告訴狀カコトヲ、フカヒムム、スタキユチ條例法ノ制定ニ反シテト文ヲ結ハサリ
シトノ缺乏カ辨セラレシ場合ニ於テ裁判所ハ之ヲ廢滅スルヲ拒タリ
キ

然レモ若シ告訴狀廢滅ノ請願カ告訴人ヨリ爲サルレハ裁判所ハ總テ
告訴狀カ之ニ依テ被告人カ決罪サレ能ハサル如キ缺乏アルモノト見
ユル場合及告訴カ善意ヨリ出テ而テ惡意ヨリ又ハ壓抑ノ目的ノ爲ニ
爲シタルニアラサルモノト見ユル場合ニ於テハ告訴狀ヲ廢滅スヘシ
若シ告訴カアトレチーゼナラ檢事長ニ依テ爲サルレハ告訴廢滅ノ請願ハ該告訴人ヨリ
決シテ爲サレサルナリ如何トナレハ該告訴人ハ自ラ請願ト同シ効驗
ヲ有スヘキノルレ、プロトセクハイ(告訴人ヨリ告訴ヲ)ヲ記入スルヲチ

得レハナリ(第十二節ヲ見ルヘシ)
同一ノ被告人ニ對スル一通ハ重罪一通ハ輕罪ノ二通ノ告訴狀カ審査
狀ヲ以テクインスベンチ裁判所ニ移サレタリシ場合ニ於テハ該裁判
所ハ此二通ノ告訴狀ハ共ニ同一ノ犯行ニ關係セリトノ誓言ニ依テ之
ヲ廢滅スルヲ拒タリキ
如何ニ廢滅スル乎、一告訴ヲ廢滅スルノ請願ハ其狀ノ見出サレタル裁
判所ニ爲サル、ナリ治安裁判期又ハ他ノ下等裁判所ニ於ル告訴狀ノ
場合ハ此限ニ在ラス此場合ニ於テハ請願ハ通例クインスベンチ裁判
所ニ爲サレタリ是レ記錄カ前以テ審査狀ヲ以テ該裁判所ニ移サレタ
レハナリ然レモ現今ハ四季期裁判所ハ其所ニ於テ見出サレタル告訴
狀ヲ辨論アリシ前ニ自ラ廢滅スル權ヲ有スト決定サレタリ
故障カ充分ニ記錄上ニ顯著ナル場合ニ於テハ此故障ヲナイサイ、プリ

ユス(通例陪審官ト共ニ訴訟ヲ審問スルモノニシテ一名ノ判事ヲ)ニ於テ利用スル能ハサルナリ

告訴廢滅ノ請願ハ若シ被告人ヨリ爲サルレハ辨論アリシ前ニ爲サレサル可ラス(ヅキクトリヤ女帝即位第十四年及第十五年ノ條例法第百章第二十五條)而テ告訴狀カ被告人ノ請願ニ因テ既ニ審査狀ヲ以テシ
インスベンチ裁判所ニ移サレタリシ場合ニ於テハ裁判所ハ被告人ノ承諾ヲ訊問ノ爲メ記録ヲ提出セサリシヲ以テ没収シタル後被告人ノ告訴ヲ廢滅セントノ請願ヲ受理スルヲ拒タリキ若シ請願カ告訴人ヨリ爲サルレハ被告人カ實ニ告訴狀ニ付テ訊問サレタリシ前ハ何時ニテモ之ヲ爲スヲ得ルカ如シ然レハ被告人ノ爲ニ止訴答辨ノ判決デマラルノ後ハ告訴狀ハ告訴人ノ請願ニ依テ廢滅ニ歸セラレ能ハサルナリシ
インスベンチ裁判所ニ請願カ爲サル、場合ニ於テハ其裁判期ノ最後

ノ日ニ於テ其請願ヲ爲シテ妨ケアラサルナリ而テ被告人ハ辨論セザリシヲ以テ其命令ハ初審ニ於テ完全ノモノタルナリ
更ニ同一ノ犯罪ニ對スル告訴狀ハ此類ノ請願カ告訴人ヨリ爲サル、前ニ呈出サレ而テ見出サレサルヘカラサリキ而テ裁判所カ該請願ニ依テ最初ノ告訴狀ノ廢滅ヲ命令スル時ハ通例左ノ約條ヲ以テス即チ
告訴人ハ被告人カ最初ノ告訴ノ理由ニ依テ受ケタルヘキカ如キ費用ヲ被告人ニ拂フヘキ事第二ノ告訴ハ第一ノ告訴カ若シ廢滅ニ歸セザリセハ存シタルヘキ全ク同一ノ狀況及事情ニ存スヘキ事而テ(特ニ告訴人ニ於テ大ニ遷延アリタリシ場合ニ於テハ)告訴人ノ姓名カ發表サレヘキ事はナリ

第十一節 告訴訊問ノ時日及場所及審査令狀ヲ以テ告訴ヲ

移ス事

時日、重罪ノ告訴狀ハ大陪審官ニ呈出サレ及該官ニ依テ見出サレタル同一ノ巡回裁判所又ハ治安裁判所ニ於テ訊問サル、ナリ然レモ是ハ告訴人又ハ被告人カ其延期ノ爲ニ充分ナル事故即チ緊要大切ナル證人ノ止ムヲ得サル不在又ハ疾病、陪審官中ニ偏頗ノ成立等ノ如キ事故ヲ誓言ヲ以テ裁判所ニ示シタル場合ニ於テハ次回ノ裁判期ニ延期セラル、一ヲ得「被告人カ十歳以下ノ少女ヲ姦淫シタル爲ニ告訴サレシ場合ニ於テ該少女ノ教育ノ目的ヲ以テ告訴人ヨリ爲シタル訊問延期ノ請願ハ拒マレタリキ」陪審官カ告訴狀ヲ委任サレタル後ニシテ何レノ證據カ呈セラレタル前ハ被告人ノ請願ニ依テ訊問カ延期サル、一ヲ得ルカ如シ延期ノ請願カ被告人ヨリ爲サレタル場合ニ於テハ其被告人ハ次回ノ裁判期マテ收監サレ及監守サルヘシ然レモ請願カ告訴人ヨリ爲サレタル場合ニ於テハ被告人ヲ拘留シ又ハ之ニ保釋ヲ許

シ又ハ被告人自身ノ承諾ヲ以テ之ヲ釋放スルハ裁判所ノ裁量ニアルナリ「告訴狀カ見出サレタリシ後若シ犯罪カ重キ性質ノモノナレハ裁判所ハ囚人ニ保釋ヲ許サルヘシ（名人）事件ニ於テ中央刑事裁判所ノ判事ハ大陪審官ニ死罪ノ告訴狀ノ授付ヲ大切ナル證人ナリト宣誓シタル一證人ノ疾病ノ理由ヲ以テ次回ノ裁判期マテ延期セリ而テ該證人カ大切ナル事實ヲ供出セシヤ否ヲ確知センカ爲ニ其口供書ヲ吟味スル一ヲ拒ミタリキ
輕罪ノ告訴狀ハ被告人カ實ニ拘留中ニアラサリシ場合ニ於テハ從前ハ被告人カ告訴狀ニ對シ辨論シ又ハ抗拒シタリシ裁判期ニ於テ訊問サレサリキ但シ手續ハ被告人ヲシテ次回ノ裁判期ニ其抗拒ノ訊問ノ爲出廷スヘキ承諾ヲ記入セシメ告訴人ニハ告訴狀ノ出タル特別ノ裁判所ノ手續ニ從テ告知ヲ爲スニアリキ然レモ第三世ジョージ帝即位

第六十年及第四世ジョージ帝即位第一年ノ條例法第四章第三條ニ依テ總テ輕罪街道ヲ修繕セサル輕罪ノ外ニ於テ告訴狀カ見出サレシ裁判期ノ二十日前ニ被告人カ收監サレ又ハ保釋サレタリシ場合ニ於テハ陪審官カ宣誓シタル前ニ審査狀カ交付サレシニアラサレハ其被告人ハ同一ノ裁判期ニ於テ告訴狀ニ辨論シ而テ訊問ヲ受クルヲ要セラレタリキ審査狀ハ告訴狀カ見出サレシ前ニ得ラル、ヲ得而テ被告人カ告訴狀ノ見出サレシ裁判期二十日前ニ收監サレ又ハ保釋サレス但シ後ノ裁判期ニ於テ該罪ノ爲メ出廷スル爲ニ收監サレ又ハ保釋サレタリシ場合又ハ斯ノ如キ後ノ裁判期二十日前ニ告訴狀カ見出サレタルヲ告知ヲ受クル場合ニ於テハ其被告人ハ訴訟手續カ審査狀ヲ以テ移サレシニアラサレハ斯ノ如キ後ノ裁判期ニ於テ辨論シ而テ訊問ヲ受クルヲ要セラレタリキ(第三世ジョージ帝即位第六十年及第四

世ジョージ帝即位第一年ノ條例法第四章第五條)

然リト雖モ現今ハヴヰントリヤ女帝即位第十四年及第十五ノ條例法第百章第二十六條ニ依テ前文ノ條例法ノ輕罪ノ事件ニ於テ告訴狀ノ抗拒ニ係ル正條ハ廢止サレタリ而テ其第二十七條ニ制定シテ云シ何人ト雖モ告訴サレタル者ハ何レノ治安裁判期又ハ巡回裁判期ニ於テ此者ニ對シテ見出サレタル何レノ告訴狀ニ抗拒シ又ハ其訊問ヲ延期スル權利アラサルヘシ然レモ若シ裁判所カ斯ク告訴サレタル又ハ否ラサル人ノ請願ニ依テ其人ニ其辨護又ハ否ラサル事ノ準備ノ爲メ尙他ノ時間ヲ許與セサル可ラストノ說ヲナシタルヘケレハ該裁判所ハ保釋又ハ否ラサル事ニ係リテ該裁判所カ適當ト思量スヘキカ如キ約條ヲ以テ次回ノ裁判期マテ斯ノ如キ人ノ訊問ヲ延期スルヲ得而テ隨テ告訴人及證人ノ承諾ヲ猶豫スルヲ得此場合ニ於テハ告訴人

及證人ハ出廷ノ爲ニ更ニ承諾ヲ記入スルヲナクシテ該次回ノ裁判期ニ告訴シ及證據ヲ呈スル爲ニ出廷スヘク束縛セラルヘシト
 場所、重罪及輕罪ノ告訴ハ其罪ノ犯サレタル管轄内又ハ條例法ニ依テゾエニユーノ定メラレタルヘキ(第三節ヲ看ルヘシ)管轄内ニ於テ又ハ告訴狀ノ呈出サレタル裁判所ニ於テ訊問サル、ナリ是ハ一般ノ規則ナリ然レモ此規則ノ適用セサル特別ノ場合アリ今爰ニ之ヲ記載スルハ蓋シ緊要タルヘキナリ

治安裁判期ニ於テ見出サレ而テ其判事ヨリ巡回裁判所ニ移サレタル告訴狀ハ假令之カ審査狀ヲ以テ移サレタルニアラスト雖モ巡回裁判所ニ於テ訊問サレサル可ラスクインスペンチ裁判所ハ可成的公平無私ノ訊問ヲ得ンカ爲ノ目的ニ於テ緊要ナル時ハ每ニ重罪及輕罪ノ訊問ノ場所ヲ變換スル管轄權ヲ有ス此目的ノ爲ニハ告訴狀ヲクインス

ペンチ裁判所ニ移ス爲ニ審査狀ヲ發セサルヘカラス(該裁判所又ハ判事カヅサクトリヤ女帝即位第十九年及第二十年ノ條例法第十六章ニ從ヒ(下文ヲ見ルヘシ)中央刑事裁判所ニ於テ尋問ヲ爲サレンコトヲ命令スルヲ至當ト思料スルニアラサレハ)故ニ今ヨリ進ンテ審査狀ノ効力及ヒ之ニ關スル手續ヲ論スヘシ

審査令狀、其令狀ノ効力、審査令狀ハ本原ノ令狀(國體ヲ銜シ國帝ノ狀ヲ)ニシテヤンセリ、裁判所及クインスペンチ裁判所ヨリ他ノ記錄裁判所(後日ノ例ニ供スルヘキ所ニ於テ處斷セシ事件ヲ記錄ニ登載シハ上等ノ裁判所ナリ下等ノ)ニ於テ記錄ヲ以テ國帝ニ保證シタル時場合ニ依テハヤンセリ、裁判所ノ尋常法律管轄部ヨリ及時トシテハクインスペンチ裁判所ヨリ發スルモノナリ此令狀ハ訴訟關係人カクインスペンチ裁判所ニ於テ又ハ女帝陛下カ訴訟ヲ審問斷定スルヲ委

集セラルヘシ而テ其告訴狀カ其郡又ハ管轄ニ於テ原來呈出サレタリ
シト總テ同一ノ方法ヲ以テ訊問ノ手續ヲ爲スヘシト制定サレタリ
審査令狀ノ書式、左ニ記載スルハ治安裁判期ノ判事ニ宛タル審査令
狀ノ書式ナリ

上帝ノ恩惠ニ依テ大貌列頓及愛蘭土合衆帝國ノ女帝ニシテ宗教ノ
保護者等ナルグヰキクトリヤハ我治安ノ保持者及我何郡内ニ犯サレ
タル種々ノ重罪損害罪及他ノ輕罪ヲ審問斷定スルヲ委任サレタル
我治安判事及其各人ニ宣ス、我輩ハ何某カ汝(夫レカ云ハル、如ク)
ノ目前ニ於テ告訴サレタル如何ノ損害罪、侮辱罪及ヒ攻撃ノ總テノ
及單一ノ告訴狀カ或ル理由ノ爲ニ我輩ノ目前ニ於テ斷定サレン
ヲ欲シタルヲ以テ汝及汝ノ各ニ命令ス汝又ハ汝ノ一人ハ我輩カ正
直ニ及英國ノ習慣ニ從ヒテ爲サレヘキノ至當ト視ルヘキ事ヲ尙此

上爲サシムルヲ得ンカ爲ニ總テノ及單一ノ該告訴狀ヲ如何ノ姓名
ヲ以テ該何某カ告訴狀中ニ稱セラル、トモ此告訴狀ニ關スル總テ
ノ物件ト共ニ此我令狀ヲ添ヘ汝ノ捺印又ハ汝ノ一人ノ捺印ヲ以テ
此我令狀領收ノ後直チニウエストミンストルニ於ル予輩ノ目前ニ
送致スルヲ此我治世第二十五年四月十九日ウエストミンストル
ニ於テスル、アレキサンドル、ジエームス、エドマンド、コックボルン、パロ
チツト(爵名)證ス、

裁判所ニ依テ、
告訴人(又ハ被告人)ノ請求ニ於テ、裁判所ノ命令ニ依テ
如何ノ場合ニ於テ許與サル、平、審査令狀ハ國帝ニ依テ固ヨリ請求
サレヘキモノニシテ檢事長又ハ他ノ官吏カ告訴人トシテ又ハ國帝ニ
代リテ辨護ヲ爲ストシテ之ヲ請求スル場合ニ於テハ勿論發スルモノ

ナリ假令へ審査令狀カ明白ニ條例法ニ依テ削除サレタル時ト雖モ亦然リ如何トナレハ國帝ハ指名サレタルニアラサレハ條例法ニ依テ束縛サレサレハナリ此規則ニ符合シテ従前ハ審査令狀カ總テ告訴ヲ爲シタル國帝ノ訴訟ニ於テ國帝ヲ代理スルト云ハレタリシ私ノ告訴人ニ殆ント當然トシテ許與サレタリキ然レモ現今ハ第四世ウヰリヤム帝即位第五年及第六年ノ條例法第三十三章ニ依テ何レノ告訴人又ハ他ノ人(檢事長ヲ除キ)ノ請求ニ於テハ被告人ヨリ其請求カ爲サレタリシト同様ニ最初ニ公廷ニ於テ又ハ私局ニ於ル判事ニ向テ請願ヲ爲シ而テ許可ヲ得シコナクシテハクインズベンチ裁判所ヨリ審査令狀ヲ發スル能ハサルナリ故ニ告訴人又ハ被告人ノ請求ノ審査令狀ヲ許與シ又ハ拒ムハ裁判所ノ裁量ニアルナリゾヰクトリヤ女帝即位第十六年及第十七年ノ條例法第三十章第四條ニ刑事上訴裁判所設置ノ理由ニ

依テ審査令狀ヲ以テ告訴狀ヲ移スハ法律ノ問題ノ判決ノ爲ニハ罕ニ緊要ナリト雖モ然レモ時トシテハ費用及遷延ノ目的ヲ以テ用ヰラルル旨ヲ記シタル後ヲ制定シテ云ク何レノ告訴狀ハ衆合體ニ對スル告訴狀ニシテ其告訴狀ノ呈出サレタル裁判所ニ代理人ヲ以テ出廷スルヲ許サレサルモノヲ除キ告訴人又ハ被告人(國帝ニ代リテ事ヲ爲ス檢事長ヨリ他ノ)ノ請求ニ於テ審査令狀ヲ以テクインズベンチ裁判所又ハ中央刑事裁判所ニ移サレサルヘシ但シ下等裁判所ニ在テハ公平無私ノ訊問カ得ラレ能ハサル事又ハ法律上非常ノ困難及緊切ノ問題カ訊問上或ハ起ルヘキ事又ハ呈出サレタル告訴狀ニ關スル場所ノ臨檢又ハ特別陪審官(特別ノ事件ヲ審問スル爲ニ)カ満足ナル訊問ノ爲ニ要セラレヘキ事ヲシテ審査令狀ヲ請求スル訴訟關係人ヨリ該令狀ノ發スヘキ裁判所ニ顯著ナラシメタル時ハ此限ニアラスト

裁判所ヲシテ審査令狀ヲ許與セシメンカ爲ニハ恐ラシハ起ルヘキ法律ノ至難點ヲ殊更ニ指示セサルヘカラス若シ審査令狀カ許與サル、ニアラサレハ告訴カ訊問セラレヘキ管轄中ニ不公平及偏頗ノ或ハ有ルヘキ事ノ公平正當ナル恐レアルヲテ證明セハ該令狀ハ許與サルヘシ即チ例ヘハ治安裁判所ノ吏員カ訊問ノ結果ニ利害ノ關係アリシ場合及郡ノ爲ニ裁判委任ノ治安判事カ四季裁判期ニ於テ告訴サレ而テ其告訴ノ印行シタル説明書ヲ他ノ治安判事中ニ流布サレシ場合ノ如シ又若シ告訴人又ハ其代言人カ郡長又ハ副郡長ナレハ該令狀ハ許與サルヘシ裁判所ハ事情ニヨリテハ陰謀ノ告訴狀ヲ移ス爲ニ數名ノ被告人中ノ一人カ他ノ同意ナクシテ請願スル場合ト雖モ審査令狀ヲ許與スヘシ即チフオーグス(名人)ノ事件ロバート(名人)ノ事件ノ如シ此等ノ事件ニ於テハ數名ノ被告人中ノ一人ノ請願ニ依テ該令狀ハ許與サレタ

リキ此一人ハ責任アル人ニシテ自己又ハ他ノ何レノ被告人ノ決罪ノ場合ニ於テハ費用ヲ拂フヘキ承諾ヲ記入シタリキ如何ノ場合ニ於テ拒マル、手、一郡ノ住民カ橋ノ修繕ノ責ニ任スヘキモノタル場合ニ於テ其橋及ヒ橋ノ兩端ノ街道ヲ修繕セサルヲニ對スル告訴狀ハ審査令狀ヲ以テ斯ノ如キ橋又ハ街道アル郡ヨリ他ニ移スヘキモノニアラス娼家賭房又ハ他ノ不法ナル家ヲ保持スルヲ以テ何レノ人ニ對スル告訴狀モ亦審査令狀ヲ以テ移スヘキモノニアラス(第二世ジョーシ)帝即位第二十五年ノ條例法第三十六章第十條而テ一被告人カ詐欺取財ノ輕罪ノ爲ニ告訴サレ而テ證據上竊盜ノ證アル場合ニ於テハ其被告人ハ之ニ拘ハラヌ該輕罪ヲ以テ決罪サル、一チ得而テ斯ノ如キ告訴狀ハ審査令狀ヲ以テ移スヘキモノニアラサルナリ(第四世ジョーシ)帝即位第七年及第八年ノ條例法第二十九章第五十三

條然レ此條例法ニ關セスインスベント裁判所ハ第四世ウキリヤム帝即位第四年及第五年ノ條例法第三十章中央刑事裁判所條例ニ據リ此條例中ニ記載サレタル裁判所ヨリ前文ノ如キ告訴狀ヲ移サンカ爲ニ審査令狀ノ性質アル特別ノ令狀又ハ命令ヲ發スル權ヲ有ス若シ審査令狀カ條例法ヲ以テ削除サレタル犯罪ヲ告訴スル告訴狀カ審査令狀ノ削除サレサル犯罪ヲ告訴スル告示ヲ含有セハ然ル時ハ之ニ拘ハラズ審査令狀ヲ發スルヲ得

不法ノ家ヲ保持スルヲ對スル告訴狀カ第四世ウキリヤム帝即位第四年及第五年ノ條例法第三十六章ニ據リミツドルセクス郡治安裁判所ヨリ中央刑事裁判所ニ移サレタリシ場合ニ於テハ該裁判所(中央刑事)告訴狀カ一回告訴人ニ依テ移サレタリシ場合ニ於テハ第二世ジヨージ帝即位第二十五年ノ條例法第三十六章第十條ハ適用セスト做シテ

被告人ノ請求ニ依リクインスベント裁判所ニ之ヲ移ス爲ニ審査令狀ヲ許與シタリキ

裁判所ハ一般ニ輕罪又ハ重罪ニ拘ハラズ告訴狀ヲ決罪後及裁判前又ハ裁判後該狀ヲ廢滅スルヲ目的トシテ移ス爲ノ審査狀ヲ拒ムヘシ又ハ訊問ノ告知ヲ爲サルヲ以テ被告人カ猥リニ放免ヲ得タリシ場合ニ於テハ之ヲ拒ムヘシ而テ裁判所ハ輕罪ノ告訴狀ノ裁判前ニ發セラレタリシト雖モ其裁判後ニ至ルマテ達セサリシ審査狀ヲ廢棄セリ(第五章ヲ看ルヘシ)裁判所ハ通例遷延カ告訴ヲ害サントスル場合ノ偽誓罪、偽造罪又ハ他ノ惡ムヘキ輕罪ノ告訴狀ヲ移ス爲メノ審査令狀ヲ被告人ノ請願ニ依テハ許與セサルヘシ謀殺罪、獸姦罪等ノ告訴狀ニ付テモ亦同シ故ニ裁判所ハ一般ニ告訴人ノ同意ヲ以テニアラサレハ判事ノ上席スル適當ナル管轄權ヲ有スル裁判所ヨリ告訴狀ヲ他ニ移サ、

ルヘシ告訴狀カ法律ノ點ニ於テ正シキモノニアラストノ理由ヲ以テ中央刑事裁判所ヨリ之ヲ他ニ移ス爲ニ審査狀ハ許與サレサルヘシ
 審査令狀許與ノ時、一審査令狀ハ告訴狀カ眞誠ニ成立シテアラサル時ト雖モ請求シテ得ラル、一ヲ得ルハ既ニ前文第十一節ニ於テ見タリキ若シ告訴狀カ審査令狀ノ還付サレヘキ時前何時ニテモ見出サルレハ該令狀ハ効力アルモノナリ(第三世ヨージ帝即位第六十年ノ條例法第四章第四條)告訴人被告人ノ何レニ於テモ審査令狀ヲ請願スルノ適當ナル時ハ告訴ノ辨論終結セシ前ニアルナリ然レハ該令狀カ若シ陪審官カ事件ヲ訊問スル爲ニ宣誓シタル前ニ交付サルレハ甚タ遅キニアラサルナリ茲ニ決罪ト裁判ノ間ニ審査令狀ヲ以テ告訴狀ヲ移シタル例數多アリ然レハ裁判所ハ一般ニ斯ノ如キ請願ヲ懲憑セサルナリ

審査令狀ヲ得ル方法、一總テノ場合(檢事長カ國帝ニ代リテ審査令狀ヲ請願スル場合ヲ除キ)ニ於テ請願ハ移轉ノ適當ナル理由ヲ申告スル誓言ニ基テ爲サレサル可ラス(前文如何ノ場合ニ於テ許與サル、平ノ部ヲ見ルヘシ)誓言ハ公廷ニ於テ又ハ私局ニ於ル判事ノ目前ニ於テ又ハ誓言ヲ取ル委員ノ目前ニ於テ宣誓サル、一ヲ得此誓言ハ單ニクインスベシナリ裁判所ニ於テト稱セラレサル可ラス第四世ウヰリヤム帝即位第五年及第六年ノ條例法第三十三章第一條ニ依テ審査令狀ハ告訴人ノ請求ニ於テハ被告人ヨリ請求カ爲サレタル場合ト同様ニ最初法廷ニ於テ又ハ其判事ノ目前ニ於テ請願ヲ爲シ而テ許可ヲ得シコナシシテハ發セサルヘシト制定サレタリ若シ裁判開期中ニアラハ請願ハ公廷ニ於テ代理人之ヲ爲サル可ラス(ウヰリヤム帝及メーロー女帝即位第五年及第六年ノ條例法第十一章第二條)閉期中ハ該令狀ハ誓言

書ニ令狀ヲ發セシメヨト裏書スル判事ヨリ許與サル、ナリ得
 審査令狀ノ請願ハエクス、パールト手續（訴訟關係人ノ一方ノミニ爲テ他
 手續ナリ）ナリ因テ告訴人ハ該請願ノ通知ヲ得サル可ラサルハ緊要ニア
 ラサルナリ輕罪ノ事件ニ於テハ命令ハ最初ニ於テ完全ナルモノナリ
 重罪ニ於テハナイサイ命令（ナイサイ命令トハ例ハハ被告ニ於テ密
 査令狀ノ請願ヲ爲セハ之ヲ告訴人ニ告知
 シ告訴人ニ於テ之ニ反シテ故障スルヲナカ）カ附與サル、ナリ該命令カ
 完全トナリタル時ハ刑事局ニ於テ其命令ヲ書記ス審査令狀ノ請願カ
 許可サレタル時ハ之ヲ請願シタル訴訟關係人ノ代理人カ羊皮紙ヲ以テ
 該令狀ヲ調製シ而テ之カ刑事局ヨリ發セラレ而テ押印局ニ於テ押印
 サル、ナリ而テ若シ裁判開期中ニアラハ裁判所ノ命令ニ依テト裏書
 サル、ナリ被告ノ請求ニ依テ許與サレタル時ハ其被告人及其保證
 人ヨリクインスベントシ裁判所判事又ハ被告人住居ノ郡又ハ場所ノ治

安判事ノ目前ニ於テ記入サレヘキ承諾ノ金額カ裁判所（令狀ヲ）ヨリ命
 令サレ而テ令狀ニ裏書セラルヘシ（ウヰリヤム帝及メーレー女帝即位
 第五年及第六年ノ條例法第十一章第四世ウヰリヤム帝即位第五年及
 第六年ノ條例法第三十三章該令狀ノ請願カ閉期中ニ爲サレタル時ハ
 誓言書ハ判事ノ閱覽ノ爲ニ私局ニ出サレサル可ラス而テ若シ其判事
 カ之ヲ審査令狀ヲ發セサル可ラサル適當ノ事件ト思量セハ該令狀ヲ
 發スルヲ令スル命令書ニ署名シ而テ該令狀ノ裏書ニ署名ス若シ該令
 狀カ被告人ノ請求ニ係ラハ其判事ハ被告人及其保證人ノ爲スヘキ承
 諾ノ金額ヲ裏書ス
 告訴狀ノ訊問上被告人ノ出廷ノ爲メノ承諾ノ條件ニ關シテ千八百五
 十二年ノイースタル（及）裁判期ニ於テクインスベントシ裁判所ヨリ左ノ
 命令ヲ出シタリ即チ被告人ガ出廷シ而テ此裁判所ニ於テ見出サレタ

ル又ハ此裁判所ニ移サレタル又ハ移サレヘキ何レノ告訴狀ニ答辨スル爲ノ承諾ヲ爲スナ法律ニ依テ及此裁判所ノ手續ニ依テ要セラレヘキ時ハ毎ニ斯ノ如キ承諾ノ條件ニ被告人ハ該告訴狀ノ訊問ニ於テハ日々自身出廷シ而テ斯ノ如キ訊問カ爲サレヘキ裁判所又ハ判事ヨリ放釋サレヘキニ至ル迄ハ退去セサルヘシトノ條件カ附加サルヘシ但シ裁判所又ハ判事ハ斯ノ如キ附加ノ承諾條件ヲ免ルスヲ適當ト思量スル時ハ此限ニアラスト命令サレタリ

其他グヰントリヤ女帝即位第十六年及第十七年ノ條例法第三十章第五條モ亦審査令狀カ被告人ノ請求ニ依テ許與サレタル時ハ毎ニ現ニ法律ニ依テ要セラレタル承諾ハ被告人カ決罪サレヘキ場合ニ於テハ告訴人ニ告訴狀移轉ニ依テ生シタル其費用ヲ拂フヘシトノ附加ノ條件ヲ含有スヘキヲ要シ而テ該令狀カ告訴人ノ請求ニ依テ許與サレタ

ル時ハ毎ニ其告訴人ハ被告人カ放免サレヘキ場合ニ於テハ斯ノ如キ移轉ニ依テ生シタル其費用ヲ被告人ニ拂フヘシトノ條件アル承諾(被告人ノ請求ニ依テ許與サレタル審査令狀ノ場合ニ於テ要セラレタル如キト同様ニ承諾サレヘキ)ヲ爲スヘキヲ要セリ此條ニ從ヘハ審査令狀カ二名ノ被告人中ノ一名ヨリ請求サレタル場合ニ於テハ之ヲ請求スル被告人ハ自身又ハ他ノ被告人カ決罪サレヘキ場合ニ於テハ告訴人ノ費用ヲ拂フヘシトノ事カ承諾ノ條件ト爲サル、トテ得ルナリ

四季裁判期ニ於テ見出サレタル聚合體(府、市、又ハ會社)ニ對スル告訴狀ハ告訴人ノ請求ニ於テハ同條例法同章同條ニ依テ要セラレタル承諾ヲ爲ス、トナシニ移サル、トテ得(同第六條及八條ヲ看ルヘシ)

同條例法同章第七條ニ依テ若シ其請求ニ依テ審査令狀カ許與サレヘキ人カ其許與前ニ前條ニ制定サレタル如キ承諾ヲ記入セサレハ該令

狀カ向ケラレヘキ裁判所ハ該狀令カ許與サレサリシト同様ニ告訴狀
訊問ノ手續ヲ爲スヘシ及ヒ爲スヲ得

左ニ記載シタルハ承諾ノ書式ナリ

即チヨークシャー郡ノ東ライジング(小區)ヘ我教主紀元一千八百六十二
年四月八日ニ於テ何々ノ某甲(被告人ノ姓名及附記)等(任所職業)何々ノ
乙某及何々ノ丙某(保證人ノ姓名及附記)カヨーク郡ノ東ライジング
ニ於テ及爲ニ我女帝陛下ノ治安保持者及判事ノ一人丁某ナル予ノ
目前ニ來リ而テ我女帝陛下ニ左ノ種々ノ金額即チ詳言スレハ各大
貌列頓國ノ正當ナル貨幣ニシテ各自ノ種々ノ物品及貨物土地及家
屋ヲ以テ徵収サレヘキ該某甲ハ幾何磅ノ金額該乙某ハ幾何磅ノ金
額該丙某ハ幾何磅ノ金額(裁判所又ハ判事カ第四世ウヰリヤム帝即
位第五年及第六年ノ條例法第三十三章第二條ニ依テ命令スヘキカ

如キ金額)ヲ若シ該某甲(被告人)カ次回ノ裁判期ノ初日ニ於テウエス
トミンストルノ女帝陛下ノシインスベンチ裁判所ニ出廷シ而テ其
告訴サレタル如何ノ輕罪ノ總テノ及單ナル告訴狀ニ對シテ辨論シ
而テ之ニ付テ終結セラル、コチ得ル爭論點ヲ自己ノ適當ナル費用
ヲ以テ若シ裁判所カ訊問ノ爲メ何レノ他ノ時ヲ定メサレハユ一ッ
郡ニ於テ及爲ニ同裁判期(次回ノ裁判期ヲ云フ)ノ後ニ開カレヘキ次回
ノ巡回裁判期ニ於テ訊問サレシメ而テ若シ該裁判所カ何レノ他ノ
時ヲ定ムレハ然ル時ハ斯ノ如キ他ノ時ニ於テ訊問サレシムヘク而
テ斯ノ如キ訊問ノ通知ヲ告訴人又ハ其代言人ニ爲シ而テ自身該裁
判所ニ日々出廷シ而テ該裁判所ヨリ放釋サル、ニ至ルマテハ之ヲ
退去セサルヘケレハ且又該某甲カ其告訴狀ニ付テ決罪サレヘキ場
合ニ於テハ斯ノ如キ告訴狀ノ告訴人ニ斯ノ如キ告訴狀ノシインス

ベシテ裁判所ニ移轉スルヨリ生シタル費用ヲ拂フヘケレハ然ル時
ハ此承諾ハ無効ニ歸ス或ハ否ラサレハ充分ナル効力ヲ保有ストノ
條件ヲ以テ女帝陛下ノ使用ノ爲ニ負フヲ承諾スル事カ記憶サル
ルナリ

上文所陳ノ年及日ニ取ラレ及承諾サレタリ

何々(官名等ヲ記)丁某

被告人カ不充分ナル承諾ヲ爲シタル場合ニ於テハ裁判所ハ此ノ如キ
承諾ヲ棄却シ而テ強テ被告人ヲシテ尙善良ノ保證ヲ出サシムヘシ
左ニ記載スルハ強テ被告人ヲシテ尙善良ノ保證人ヲ出サシムル爲ノ
命令ノ書式ナリ

女帝ヨリ何某(被告人)ニ對シ「被告人又ハ其代言人ニ此命令ノ通知
ヲ爲シタル後四日內ニ被告人カ尙善良ノ保證人ヲ出スニアラサレハ

アローセデンド令狀(審査令狀ヲ以テ下等裁判所ヨリ上等裁判所ニ
移シタル訴訟ヲ原裁判所ニ還付スル令狀ヲ云
フ是レ移轉ノ理由不充ヲ發セシム)
エー、イー、コツクホルン

承諾書ハ審査令狀ト共ニ場合ニ依テ治安書記又ハ巡回裁判書記ニ出
サ、ル可ラス而テ此等ノ書及令狀ノ出タル後ハ下等裁判所ニ於テ爲
シタル總テ告訴狀上ノ手續ハ不正ナルモノナリ告訴人ハ審査令狀カ
其請求ヲ以テ發セラレタル時ハ告訴スル爲ノ承諾ヲ要セスト茲ニ一
言スヘシ

審査令狀ニ對スル回報、|回報ハ審査令狀ニ此令狀ノ執行ハ之ニ附添
シタル別書ニ依テ顯著ナリ何々ニ於テ治安ヲ保持スルヲ委任サレタ
ル治安判事ノ一人ナル何某貴下ノ回答ト記スル裏書ヲ以テ爲サル、
ナリ該別書ハ羊皮紙ニ書セサル可ラス若シ是カ普通ノ紙タラハ回報

ハ廢棄セラルヘシ該別書ハ令狀ニ附添サレサル可ラス而テ回報ハ令狀ノ向ケラレタル判事ニ代リ若シ治安裁判所ニ向ケラレ又ハ郡又ハライジングノ總判事ニ向ケラレタレハ判事長ノ捺印ヲ以テ或ハ若シ總判事ニ向ケラレタルニアラサレハ其向ケラレタル者ノ一人ノ捺印ヲ以テ令狀中ニ記載サレタル告訴狀及之ニ關スル總テノ物件及記録并原告訴狀及附添サレタル別書及承諾書ヲ保證セサル可ラス左ニ記載スルハ一人ノ判事ヨリノ回報ノ書式ナリ

即チヨーシジャー郡ノ東ライジングヘヨーシ郡ノ該東ライジング内ノ治安ヲ保持シ且又同ライジング内ニ犯サレタル種々ノ重罪損害罪及輕罪ヲ審問斷定スルヲ委任サレタル我女帝陛下ノ治安ノ保持者及治安判事ノ一人何某ナル予ハ予ニ交付サレタル此令狀ノ權ニ依テ同令狀中ニ記載サレタル告訴狀ヲ之ニ關スル總テノ物件ト共ニ

女帝陛下ノクインズベント裁判所ニ於ル女帝陛下ニ予ノ捺印ヲ以テ回報ス一其證トシテ該何某ナル予ハ此等ノ書類ニ予ノ印ヲ捺シタリ此我教主紀元一千八百六十二年何月何日該ライジング内ノピヅア
ーレーニ於テ附與ス

記録ヲ還付スル事一若シ審査令狀カ事實ノ虛白ニ依テ得ラレタリト見ユルカ如ク輕卒ニ發セラレタリセハ裁判所ハ(又ハ何レノ上等裁判所ノ私局ニアル判事ハ)ブローセデンド(前ニ出ツ)令狀ヲ發シ而テ審査令狀カ發セラレサリシカ如ク原管轄ニ於テ處分サレンカ爲ニ原管轄ニ記録ヲ還付スルヲ得若シ被告人カ承諾ノ條件ヲ履行スルヲ怠リ若シクハ不正又ハ不充分ナル保證人カ出サレタル時モ亦同シ原來審査令狀ヲ以テ四季裁判所ヨリ移サレタル一事件ニ係リクインズベント裁判所ニ於テ新訊問ノ命令ヲ得タル被告人カ記録ヲ取下ケ而テ巡回裁

判期ニ於テ訊問ヲ受クルヲ怠リタリシ場合ニ於テハプロローセデンド令狀カ發セラレ而テ記録カ四季裁判所ニ還付サレタリ而テ四季裁判所ニ於テ其被告人ハ訊問サレ而テ徒刑ニ處セラレタリキ
左ニ記載スルハプロローセデンド令狀ノ書式ナリ

何々ナルヴヰクトリヤハ我何々府又ハ郡内ニ犯サレタル種々ノ重罪損害罪及他ノ輕罪ヲ審問斷定スルヲ委任サレタル我治安ノ保持者及治安判事及其各人ニ宣ス、

過般予輩ノ令狀ヲ以テ予輩ハ或ル理由ノ爲ニ汝又ハ汝ノ一人カ汝ノ目前ニ於テ告訴サレタル(云ハレシカ如ク)何某ノ如何ノ(重罪)ノ總テノ及單一ノ告訴狀ヲ如何ノ名ヲ以テ該何某カ告訴狀中ニ稱セラ
ル、トモ此告訴狀ニ關スル總テノ物件ト共ニ汝ニ向ケラレタル該令狀ヲ添ヘ予輩カ正直ニ及英國ノ法律及習慣ニ從ヒテ爲サレヘキ

ヲ至當ト視ルヘキ事ヲ尙此上爲サシムルヲ得ンカ爲ニ汝ノ捺印又ハ汝ノ一人ノ捺印ヲ以テ今ハ過去リタル或ル日ニ於テウエストミ
ンストルニ於ル予輩ノ目前ニ送致スルヲ汝及汝ノ各ニ命令シタ
リキ、予輩ハ今是ニ關シ特別ニ起リタル或ル理由ノ爲ニ汝及汝ノ各
ニ命令ス汝ハ予輩ノ該令狀ノ執行ニ關シテ爲サレヘキ如何ノ事ト
雖モ全ク止メ而テ汝ハ上文所陳ノ目的ノ爲ニ汝ニ向ケテ最前送致
サレタル予輩ノ令狀ニ拘ハラス該何某ニ對スル該罪ノ該告訴ノ斷
定ノ手續ヲ汝カ正直及上文所陳ノ法律及習慣ニ從フト視ルヘキ迅
速ヲ以テ爲スヲ

此我治世第二十五年何月何日(令狀ノ發スル日)スル、アレキサンドル
シエームス(エドマンド、コックボルン、バロチット) (名)證ス

裁判所ニ依テ

中央刑事裁判所ニ於テ審査令狀ヲ以テ移サレタル告訴狀ノ訊問、一ツ
 廿トリヤ女帝即位第十九年及第二十年ノ條例法第十六章第一條ニ
 依テ裁判開期中ハクインズベント裁判所閉期中ハ其何レノ判事ハ中
 央刑事裁判所ノ管轄外ノ何レノ場所ニ於テ犯サレ又ハ犯サレタリト
 想像サレタル何レノ重罪又ハ輕罪ノ告訴又ハ吟味カ審査令狀ヲ以テ
 クインズベント裁判所ニ移サレタルヘキ時ハ毎ニ若シ裁判ノ目的上
 便利ト見ユレハ斯ノ如キ告訴又ハ吟味カ中央刑事裁判所ニ於テ訊問
 サレヘキヲ命令スル權ヲ附與サレタリ或ハ該裁判所又ハ判事ハ何レ
 ノ斯ノ如キ重罪又ハ輕罪ノ事件ニ於テハ其告訴又ハ吟味ヲ直接ニ中
 央刑事裁判所ニ移ス爲ニ其告訴又ハ吟味カ審理中ナル又ハ後ニ見出
 サレヘキ裁判所ニ又ハ斯ノ如キ吟味カ爲サレタルヘキ又ハ後ニ爲サ
 レヘキ検屍官ニ向ケ審査令狀ヲ發スルヲ命令スルヲ得(同第三條)其

裁判所(中央)ニ告訴又ハ吟味ノ送達及承諾及口供等ノ回報ノ爲ニ正條
 カ設ケラレタリ(同第二條第四條)又ニユীগートノ監獄ニ犯罪人ノ移
 轉ノ爲メ(同第五條)中央刑事裁判所ニ於テ其犯罪人ノ召喚、辨論及訊問
 ノ爲メ(同第六條第七條)告訴費用ノ拂渡ノ爲メ(同第十三條)罪ノ犯サレ
 タリシ郡ニ於テ又ハ中央刑事裁判所ノ管轄内ニ於テ刑ノ執行ノ爲メ
 (同第十九條)其他此條例法ノ目的ニ關シテ正條カ設ケラレタリ同第二
 十四條ハクインズベント裁判所又ハ閉期中ハ其判事ニ告訴又ハ吟味
 カ中央刑事裁判所ニ於テ訊問サレヘキ命令ヲ告訴人又ハ被告人ノ請
 願スルニ於テハ之ヲ請願スル者ヲシテ保證人、告訴人及證人ノ費用ノ
 拂渡シ及告訴又ハ吟味ノ移轉等ノ費用ノ拂渡シ及被告人及何レノ他
 ノ物件ノ移轉ノ費用ノ拂渡シニ關シテ裁判所又ハ判事ノ判斷ニ於テ
 正當ニ命スルヲ得ル如キ條件ニ服從セシムルノ權ヲ附與ス裁判所

ハ告訴人カ口供ノ取ラレタリシ後ニ告訴人ノ得タリシト告知サレタル證據ヲ被告人ニ供セサル可ラサル事ヲ此條ニ從テ一條件ト爲スヲ拒ミタリキ

審査令狀ニ於ル費用、一若シ告訴狀カ被告人ノ請求ニ依テ審査令狀ヲ以テ移サレタリシ場合ニ於テ其被告人カ決罪サレレハクインスベシ

ヲ裁判所ハ若シ告訴人カ被害者又ハ治安判事、市尹、副郡長、警察官、ヘット

ボロ（市區ノ長ニシテ）ダイジングマン（警察官ノ下）寺院區監督又ハ貧

民監督、又ハ犯サレタル若クハ爲サレタル何レノ事實カ官吏トシテ告

訴ヲ爲スヘキ又ハ訴フヘキ關係アリシカ爲ニ告訴シタル何レノ他ノ

文官吏タレハ相當ノ費用ヲ之ニ拂渡スヘキヲ命令スヘシ（ウヰリヤム

帝及メーレー女帝即位第五年及第六年ノ條例法第十一章第三條、第三

世ウヰリヤム帝即位第八年及第九年ノ條例法第三十三章、第四世ウヰ

リヤム帝即位第五年及第六年ノ條例法第十三章第二條然レモ告訴狀ヲ移シタル被告人ハ假令ヘ陪審官ニ依テ決罪サレタリト雖モ若シ裁判カ停止サルレハ費用ヲ拂フノ義務アルモノニアラサルナリ〔新訊問ノ命令サレタル場合ニ於テノ費用ニ關シテハ第五章ヲ看ルヘシ〕若シ被告人カ之ヲ決罪スル斷定ノ後及裁判ノ前ニ死去セハ其保證人ハ費用ニ付テハ各自ノ承諾ノ限度マテ義務アルモノタルヘシ然レモ尋常ノ狀況ニヨレハ告訴人ハ裁判所カ裁判ヲ言渡タリシマテハ費用ヲ得ル權利アラサルモノナリ如何トナレハ裁判ノ停止サレヘキ事アルヘケレハナリ若シ數名ノ被告人ニ對スル告訴狀カ其全員ノ同意ナクシテクインスベシ裁判所ニ移サルレハ其審査令狀ノ請願ニ同意ヲ爲サ、リシ者ハ假令ヘ告訴狀ニ對シ辨論シ而テ之ニ付テ決罪サレタル時ト雖モ費用ノ義務アルモノニアラズ判事パテソソノ說ニ從ヘハ裁

判所ハ陰謀ノ告訴狀上數名ノ被告人ノ同意ナクシテ只其中ノ一名ノ
ミノ請願ニ依テ若シ其一名カ自己又ハ他ノ數名中ノ何レカ決罪サレ
タル場合ニ於テハ費用ヲ拂フノ承諾ヲ爲スヘケレハ審査令狀ヲ許與
スヘシト

ウヰリヤム帝及メーレー女帝即位第五年及第六年ノ條例法第十一章
ニ從ヘハ告訴ノ費用ハ公ノ寄附金又ハ公ノ資金ヲ以テ償却サル、カ
故ニ自身ニ費用ヲ招カサル名義ノミノ告訴人ハ費用ヲ得ル權利ナキ
モノナリ然レモ若シ被害者カ實ニ告訴人タラハ其告訴人ヲシテ斯ノ
如キ費用ヲ得ル權利ヲ生セシメンカ爲ニ其告訴人カ告訴スルノ保證
ヲ爲サ、ル可ラサル事ハ假令ヘ被害者ニアラサル人ハ斯ク保證ヲ爲
サシメラレ而テ訊問ノ時ニ於テ其承諾ノ義務ニ服從シテ出廷スル時
ト雖モ緊要ニアラサルナリ妨害上女帝ノ臣民ノ他ノ總員ヨリハ尙一

層大ナル不便利ヲ被ラサル人ハ費用ヲ得ル權利アルモノニアラスト
雖モ例ヘハ蒸氣器械ノ設置或ハ自己ノ使用スル街道ノ修繕ヲ怠ルコ
ノ如キ普通ノ妨害ヨリ眞誠ノ不便利ヲ被リ又ハ之レヨリシテ特別ノ
損失障礙又ハ損害ヲ被ル者ハ國會ノ條例法中ニアル者ナリ人カ例
ヘハ後ニ至テ告訴ノ爲サレタリシ讒謗ニ依テ起リタル暴動ニ於テ損
害サレタル場合ノ如ク被告人カ決罪サレタリシ犯罪ノ爲ニ間接ニ損
害サレタル事ハ此人ヲシテ費用ヲ得ル權利アラシムル爲ニハ充分ニ
アラサルナリ代理人ノミヨリ組織セル一會社カ一代理人タル資格ナ
クシテ四季裁判所ニ於テ上訴ヲ爲セシ貧民保護官事務局ノ書記ヲ告
訴セシ場合ニ於テ該會社ハウヰリヤム帝及メーレー女帝即位第五年
及第六年ノ條例法第十一章第十三條中ノ被害者ト爲サレタリキ死者
ノ遺書取扱人ノ場合ニ於テ其死者ノ所有地ニ付テ被告人ヨリ拂フヘ

キモノト其取扱人ノ辨シタル金額ノ請求ニ關スル偽誓ナル偽誓罪ノ
 告訴アリタリシ場合ニ於テハ其取扱人ハ假令ハ偽誓ノ爲ニ何レノ眞
 誠ノ損害ヲ被ラサリシト雖モ條例法中ノ被害者ト爲サレタリキ一市
 區ノダウンクラーク(取扱ノ事務ヲ)カ市會ノ命令ニ依テミユニシパル、コ
 ルポレーシユンアクト(府市ノ統治體條例等ヲ定メル法律ナリ)ノ第三百三
 條ノ背犯ニ對シテ市區治安判事附屬ノ書記ヲ告訴セシ場合ニ於テ其
 被告人ハウヰリヤム帝及メーレー女帝即位第五年及第六年ノ條例法第
 十一章ニ從ヒ費用ヲ拂フ義務アル者ト爲サレタリキ官吏等ノ場合ニ
 於ル費用ニ付テハシヤイプテス(名人)事件等ヲ參觀スヘシ被告人カ放免
 サレタリシ告訴狀ノ何レノ告示ニ付テハ告訴人ハ費用ヲ得ル權利ア
 ルモノニアラス亦審査令狀ノ發スル以前ニ生シタル費用モ得ル權利
 アラサルナリ被告人ハ告訴ヲシテ其正當ノ結局ニ至ラシメンカ爲ニ

審査令狀移轉ヨリ生シタル又ハ之レカ爲ニ求メテレタル總テ相當ノ
 費用ヲ拂フヘキモノナリ尤モ費用ノ金額ハ承諾ニ依テ限定サレサル
 ナリ爰ニ一言スヘキハ若シ費用ヲ得ル權利アル告訴人カ費用徴収ノ
 後死去セハ其遺書取扱人カ之ヲ得ル權利アルモノナリ
 費用ハクインスベンチ裁判所ノ手續ニ從テ徴収サレヘキモノナリ而
 テ之ヲ回復センカ爲ニハ之ヲ得ル權利アル者ハ審査令狀カ請願ニ依
 テ許與サレタリシ人ニ其請求ヲ爲セシ後十日ヲ過クルモ尙之ヲ拂ハ
 サレハ該拂渡ノ請求及抗拒ニ付テ宣誓ヲ爲シテ裁判所ヨリスノ如キ
 侮辱罪ノ爲ニ其人ニ對スルアツタチメント令狀(身體財産逮捕)ヲ得
 ヘシ而テ裁判所モ亦承諾ヲ沒収シテエクスチエツカル裁判所ニ送付
 スルヲ命令スヘシ及スルヲ得(ウヰクトリヤ)女帝即位第十六年及第
 十七年ノ條例法第三十章第六條

被告人カ貧困又ハ家資分散ノ理由ニ依テ費用ノ拂ヲ免カル、トテ得ル場合ニ付テハソルトン(名)事件ヒルス(名)事件ヲ見ルヘシ
 告訴狀カ審査令狀ヲ以テ其移轉ノ後ヅキクトリヤ女帝即位第十九年及第二十年ノ條例法第十六章ニ從ヒ中央刑事裁判所ニ於テ訊問サルル場合ニ於ル費用ニ付テハ其條例法ノ同章第二十五條及ヒ次ノ條ヲ見ルヘシ(第二編第二章第四節證人ノ費用)ヲ見ルヘシ(吟味ヲ移ス爲ノ)
 審査令狀ニ付テハ第三章ヲ見ルヘシ
 爰ニ巡回裁判判事カ一郡ニ於テ被告人ノ訊問ヲ爲ス間ニ大陪審官カ解カレタリシ後其郡ノ四季裁判期ノ起ル場合ニ於テハ其四季裁判期ハ被告人ノ訊問ヲ爲ス可ラス但シ他ノ事務ヲ處分スル後他日ヲ期シテ延期セサル可ラサル事ハ適當ト思考サレタリ然レモ治安裁判ノ委任ハ巡回裁判ノ委任ニ依テ終リ又ハ停メラレサルカ故ニ同一ノ郡内

ニ巡回裁判期ノ繼續中治安裁判期ニ於テノ訊問ハ法律上効力アルモノナリト陳述スルハ要用ナルヘシ
 ヴキクトリヤ女帝即位第五年及第六年ノ條例法第三十八章頒布(千八百四十二年六月三十日)ノ後ハ何レノ郡、ライジング、ジヴキシユン、又ハリベルテニ於テ又ハ爲ニ職務ヲ行フ治安判事モ亦何レノ市區ノレコルダ(市區長カ其區内ノ裁判官ヲ行フ)モ何レノ治安裁判期ニ於テ又ハ其延期中ニ於テ何レノ人ヲ何レノ反逆謀殺又ハ死刑ニ該ル重罪ノ爲ニ又ハ從前重罪ヲ以テ決罪サレサル人ノ犯シタル時ハ終身海外徒刑ヲ以テ刑セラレヘキ何レノ重罪ノ爲ニ又ハ左ニ記載スル犯罪ノ爲ニ訊問スヘカラスト其條例法ニ依テ制定サレタリ即チ第一、反逆ノ解怠第二、女帝ノ權利、特權、身體又ハ政府ニ對スル犯罪又ハ國會ノ各院ニ對スル犯罪第三、プレミューナイル(外國ニ行フ法律等ノ罪)ノ刑ニ屬スル

犯罪第四、神聖ヲ瀆ス罪及宗教ニ對スル罪第五、不正ノ宣誓ヲ施行シ及
 取ル事第六、偽誓及偽誓ヲ爲サシメタル罪第七、偽誓又ハ輕罪トシテ罰
 スヘキ詐僞ノ宣誓、確定、又ハ宣告ヲ爲ス事又ハ何レノ他ノ人ヲシテ之
 ナ爲サシムル事第八、偽造第九、刈收シタル穀物類豆類ニ又ハ森林、樺樹
 ノ森林又ハ樹木培養所ノ何レノ部分ニ又ハ何レノ灌木ノ生地、ゴルス
 (名草)フルズ(名草)又ハフアルン(類)ニ不法ニ及惡意ヲ以テ放火スル事第十、
 重婚及婚姻ニ關スル法律ニ對スル犯罪第十一、婦女及少女ノ零取第十
 二、小兒ノ出產ヲ隱蔽セントスル事第十三、家資分散ヲ爲シタル人及ヒ
 負債ヲ償還シ得サル人ニ關スル法律ノ條款ニ對スル犯罪第十四、神聖
 ナ冒瀆スル、煽惑スル又ハ誹譏スル、誹謗ヲ編述シ、印行シ又ハ發兌スル
 事第十五、賄賂第十六、該治安判事又ハレコルダカ一人ニテ犯サレタ
 ル時ハ訊問スル管轄權ヲ各有スル何レノ罪ヲ犯サンカ爲ノ陰謀及會

合ヲ除キ不正ノ會合及陰謀第十七、何レノ法律裁判所又ハ公平法裁判
 所ニ屬スル又ハ其裁判所内ノ手續ニ關スル記録又ハ文書ヲ竊取シ又
 ハ詐取シ又ハ毀損シ又ハ喪失スル事第十八、遺言書又ハ遺書或ハ何レ
 ノ不動産ヲ得ル又ハ土地、家屋又ハ遺産ニ於ル利益ヲ得ル權利ノ證據
 タル又ハ證據ヲ含有スル何レノ文書又ハ書記シタル證書ヲ竊取シ又
 ハ詐テ毀損シ又ハ隱蔽スル事

郡等ノ爲ニ職務ヲ行フ治安判事モ亦何レノ市區ノレコルタルモ何レ
 ノ治安裁判期ニ於テ又ハ其何レノ延期中ニ於テ何レノ人ヲヅキント
 リヤ女帝即位第九年及第十年ノ條例法第二十五章(火ヲ以テ又ハ爆發
 物又ハ毀害物ヲ以テ人及財産ニ惡意ノ損害ヲ爲スヲ防止スル爲ノ)中
 ノ何レノ犯罪ノ爲ニ訊問スヘカラスト同章第十五條ニ依テ制定サレ
 タリ然レモ此條例法ハ同女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法

第九十五章ニ依テ全ク廢止サレタリ而テ上文ノ制定條ハ何レノ所ニモ再制定サレテ見ヘサルナリ

而テヴサクトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第九十六章ノ最後ノ十二ヶ條ノ何レ委託人銀行員、公ノ會社ノ職員等ノ爲シタル哄騙ノ刑罰ノ爲ノニ對スル輕罪ハ同章第八十七條ニ依テ何レノ治安一般又ハ四季裁判期裁判所ニ於テ告訴サレ又ハ訊問サレサルヘシ

第十二節 ノルレ、プロセーグハイ(訴訟停止)

告訴狀又ハ告發書上ノ手續ヲ停止センカ爲ノ訴訟停止ハ告訴狀カ見出サレタル後ニシテ裁判ノ前何時ニテモ檢事長ノ許可ヲ以テ告訴人又ハ被告人ノ請求ニ依リ記入サル、ノルレ、プロセーグハイヲ得此許可ハ善良ナル理由カ示サル、ノルレ、プロセーグハイ以上ハ決シテ附與サレズ且裁判ノ利害上之ヲ要

スル時ハ決シテ拒マレサルナリ然レモ訴訟停止ハ檢事長又ハ其欠員ノ時ハ恐ラクハソリサイトルゼチラル(職掌檢事長ト同シ但シ)ノ許可ナクシテハクインスペンチ裁判所又ハ巡回裁判所又ハ四季裁判所ニ於テ記入サレ能ハサルナリ左ニ記載スルハ陰謀ノ爲ニ告訴サレタル被告人チ國帝ノ爲ノ證人トシテ許サンカ爲ニクインスペンチ裁判所ノ檢屍官兼檢事ニ宛タル檢事長ノ告訴停止記入命令書即チ令狀ノ書式ナリ

ヨーク郡ノ西ライシング等ノ爲ニ開カレタル治安一般四季裁判期ニ於テ甲某乙某丙某及丁某ニ對シ戊某チ欺テ該甲某ノ懷妊シタリシ私兒ノ父ト爲サントスル陰謀ノ告訴狀カ該ライシングノ大陪審官ニ於テ見出サレタリシ而テ其後其告訴狀カウエストミンストルニ於ル女帝陛下ノクインスペンチ裁判所ニ移サレタリシカ故ニ

而テ該告訴狀ノ告訴人ハ該甲某ハ該陰謀ノ自望行爲者タルヨリハ
 寧ロ他ノ被告人ノ陰謀ノ目的物ニシテ近頃承知スル處ニテハ該甲
 某ハ殆ント無心ノ者ト思考シ且若シ該甲某カ告訴狀ノ本旨ニ付キ
 一證人トシテ吟味ヲ受クルノ地位ニアラハ裁判ノ目的カ最良ニ應
 答セラルヘシト思考スルヲ以テ其(告訴人)代理人ノ助言ニヨリ該甲某
 ニ對シテ訴訟停止カ記入セラレンコトヲ希望シ而テ是故ニ訴訟停止
 ナ請願スル事カ該告訴人ヨリ予ニ陳述サレタルカ故ニ是等ハ是故
 ニ該告訴狀上該甲某ニ係リ訴訟停止ヲ記入シ及記入セシムルコト
 汝ニ許可シ及要求スルコアリ
 而テ斯ク爲ス爲ニ是ハ汝ノ令狀タルヘシ

日附

クインズベンチ裁判所ノ検屍官兼檢事何某貴下ニマテ

上文書式中ノ事件ニ均シキ事件ニ於テ告訴人ヨリ請願カ爲サレタル
 場合ニ於テハ被告人ヲ證人トシテ吟味セラレンコトノ希望ニ關スル代
 言人ノ意見カ檢事長ニ呈出サル、ナリ其檢事長ハ被告人ニ對シテ何
 レノ召喚狀ヲ發スルコトナシ訴訟停止ノ記入ヲ命令スヘシ然レモ請願
 カ被告人ヨリ爲サレタル場合ニ於テハ檢事長ハ告訴人カ何故ニ手續
 カ停止サレ可ラサル乎ノ理由ヲ檢事長局ニ於テ檢事長ノ目前ニ於テ
 示サンカ爲ニ之ヲ(告訴人)召喚スルヲ書記ニ指令スヘシ而テ檢事長ハ告
 訴人被告人ノ雙方ヲ審問ノ上若シ事件ノ狀況ニヨリ訴訟停止記入令
 狀ヲ要スト思量スレハ之ヲ許與スヘシ訴訟停止ヲ許可スルノ通例ノ
 場合ハ輕罪事件ニ於テ民事ノ訴訟之ニ附帶スル場合或ハ同一ノ想像
 サレタル罪ニ對シテ欠乏アル告訴狀ヲ再三呈出スルヲ以テノ如ク被
 告人ヲ壓制スル爲ニ不適當ナル且困難セシムル試計カ爲サル、場合

或ハ告訴狀カ被告人ニ對シテ維持スヘキモノニアラサルヲ明白ナル
 場合等ナリ一被告人ニ對シテ攻撃ノ告訴狀カ呈出サレ而テ之ト同時
 ニ損害ノ訴訟カ民事裁判所ニ於テ該同一ノ攻撃ニ對シテ起サレタル
 場合ニ於テハ事實ノ誓言書ニ付テ及告訴人被告人雙方審問ノ上檢事
 長ハ若シ至當ト思量スレハ訴訟停止ヲ告訴狀ニ記入サレノヲ命令
 シ又ハ告訴人ナシテ其刑事上ノ回復ヲ繼續スルカ又ハ民事上ノ回復
 ヲ繼續スルカヲ強テ選定セシムヘシ左ニ記載スルハ斯ノ如キ場合ニ
 於ル誓言書ノ書式ナリ

何々郡内何々寺院區ノ某甲ナル予ハ宣誓ヲ爲シ而テ言フ此誓言人ナ
 ル予ハ何々郡ノ治安書記ノ何月何日何所ニ於テ是レニ附添セル證
 書ニ署名捺印スルヲ見タリ而テ該證書中ニ記載サレタル告訴狀ヲ
 呈出スルノ時後又ハ前予ハ該告訴狀ノ告訴人ナル乙某ノ請求ニヨ

リ女帝陛下ノクインズベント裁判所ヨリ發シ予ヲシテ八日內ニ損
 害ノ訴訟ニ於テクインズベント裁判所ニ於テ該乙某ノ請求ニヨリ
 予ノ爲ニ出廷ヲ記入セシムルヲ要スル召喚令狀ノ謄本ヲ以テ應諾
 セシメラレタリ而テ何月何日此誓言人ナル予ハ該告訴狀ノ告訴人
 ナル該乙某ノ請求ニヨリ該乙某ヲ攻撃シタル爲ニ予ニ對シテクイ
 ンスベント裁判所ノ刑事局ニ告示書(告訴人ノ告訴事件ヲ詳カ呈出
 ニ説明スルモノヲ云フ)カ呈出
 サレタルノ通知ヲ受タリ此等ノ告示書及告訴狀ハ予敢テ云フ同一
 ノ攻撃ニ對スルモノニシテ異ナル罪ニ對スルコアラスト

告訴狀ノ實質及其呈出サレタリシ時日ヲ陳述スル治安書記ノ證書カ
 此誓言書ニ附添サレサル可ラス(證書ノ書式ハ保釋ノ部ヲ參看スヘシ)
 而テ若シ檢事長カ其關涉ヲ爲スノ適當ナルモノト事件ヲ思量スレハ
 其捺印ヲ以テ若シ告訴狀カ治安裁判期ニ於テ見出サレタレハ治安書

記ニ向ケ之ニステット、プローセス(手續停止)ヲ記入スルヲ指令スル
 令狀ニ署名スヘシ若シ請願ノ理由ハ告訴人ノ困難セシムル所爲タラ
 ハ、檢事長ハ手續ヲクインスベンチ裁判所ニ移サル、チ指令スルヲ
 得其裁判所ニ於テ代言人ハ訴訟停止維持ノ爲ニ審問セラルヘシ訴訟
 停止ハ訊問前何時ニテモ數名ノ被告人中ノ一人ニ係リ記入サル、
 チ得而テ數名ノ被告人ニ對スル陰謀ノ告訴狀ニ付テクインスベンチ
 裁判所ニ於テ新訊問ノ請願上國帝ノ代言人ハ裁判所ノ告知ニヨリ及
 檢事長(檢事長ハ被告人ノ一名ノ代言人トシテ出廷シタル)ノ承認ヲ受
 テ新訊問ノ命令カ他ノ被告人ニ付テハ拒マレシ時ニ二名ノ被告人ニ
 係リ訴訟停止ヲ記入シタリキ陰謀ノ告訴狀上ノ裁判ヲ停止スル爲メ
 ナイサイ命令(前文ニ)ノ請願ニ付テ訴訟停止カ告訴狀中ノ其虛實上稍
 疑チ容ルヘキ三個ノ告示ニ記入サレタリキ而テ裁判所ハ斷定カ殘餘

ノ善良ナル告示ノ各ニ付テ爲サレタルヲ以テ之ニ付テ裁判ヲ宣告シ
 タリキ左ニ記載スルハ記録上ニ訴訟停止ヲ記入スルノ書式ナリ
 而テ今即チ詳言スレハ該期(裁判期)中ノ何日ニ於テウエストミン
 トルニ於ル我女帝陛下自身ノ目前ニ我女帝陛下ニ代リテ告訴スル
 我女帝陛下ノ檢事兼檢屍官(又ハ場合ニヨリ檢事長)ナル該何某カ來
 リ而テ該何某ハ我女帝陛下ニ代リ該告訴狀(又ハ告發書)ニ付テ該何
 某(被告)ヲ尙此上告訴セサルヘシト言フ是故ニ上文所陳ノ告訴狀ニ
 付テ該何某(被告)ニ對スル總テ此上ノ手續ヲ當裁判所ニ於テハ全ク
 停止セラレシメヨ

訴訟停止ハ放免ノ効カアルモノニアラス被告人ハ尙依然トシテ再ヒ
 告訴サレヘキ責アル者ナリ而テ同一ノ告訴狀ニ付テ更ニ手續カ爲サ
 ル、
 一チ得ルト云ハレタリ

第二章 告發

第一節

職權ノ告發 エクス、オプヒシオ、インフォルメーション

告發書ノ解釋及告發ノ場合、一職權告發書ハ大陪審官ノ關涉ナシ女帝ノ檢事長(又ハ其官職欠員ナレハソリサイトルゼ子ラル〔前文ニ〕ヨリクインズベント裁判所ニ提出サレタル正式ニ從ヒ書記サレタル犯罪告知書ナリ

其告發書ハ只輕罪ノミノ爲ニ在リテ反逆及重罪ノ爲ニハ存セサルナリ如何トナレハ何レノ死罪又ハ反逆ノ懈怠罪ノ如キ甚々重キ罪カ告訴サル、時ハ毎ニ英國ノ法律ハ被告人カ告訴ニ對シテ答辨ヲ爲サシメラル、前ニ其告訴カ十二人ノ宣誓ヲ以テ保證セラレサル可ラサルヲ要スルカ故ナリ職權告發書ノ通例ノ適當ナル目的ハ特ニ女帝ノ政府ヲ擾亂セントシ又ハ危險ニ陷レントシ又ハ女帝ノ正當ナル帝職

ヲ行フニ女帝ヲ煩惱セントシ又ハ侮辱セントスル如キ非常ノ輕罪即チ例ヘハ煽惑シ又ハ侮辱スル讒謗又ハ言語大反逆ニ至ラサル煽惑スル暴動、女帝ノ大臣法官又ハ他ノ高官ニ對シ其公務執行上ノ所爲ヲ辱シムル讒謗、斯ノ如キ官吏ノ職務執行ヲ妨礙スル事、女帝ノ官吏ノ収税等ヲ妨礙スル事、賄賂又ハ他ノ弊害アル又ハ壓制ノ所爲ノ爲ニ官吏ニ反抗スル事等ノ如キ罪ナリ千八百五十八年二月クインズベント裁判所ニ於テ處斷サレタルブラオン(名人)事件ニ就テハ職權告發書カ銀行ノ主幹ニ對シ銀行ノ貨幣ノ景況ノ詐偽ノ報告書其他ヲ以テ株主ヲ欺騙セントスル陰謀ノ爲ニ提出セラレタリキ

告發書々式、一職權告發書ノ書式ハ左ノ如シ

ヴヰクトリア女帝ノ治世第二十五年ノトリニテ一(裁判期)期

ミッドルセクス郡、一我國君女帝陛下ニ代リテ告訴スル我女帝陛下

ノ檢事長スル、ウヰリヤム、アサートン、ナイト(名爵)カ其適當ナル資格ヲ以テ此同裁判期中ノホーリートリコテノ三週後ノ次ノ水曜日ニ於テ「ミツドルセックス郡内ノウエストミンストル」ニ於ル我女帝陛下ノ裁判所ニ於テ我女帝陛下自身ノ前ニ來リ而テ我女帝陛下ノ爲ニ此裁判所ヲシテ云々ノ事ヲ了解シ及承知セシムル事カ記憶サル、ナリ

斯ク云々ト書シタル所ニ罪ヲ成ス事實及狀況ヲ告訴狀ニ於ルト同一ノ確實及精密ヲ以テ及同一ノ書式ヲ以テ及ヒ同一ノ規則ニ從テ陳述ス但シ證言ノ文ヲ起スニ告訴狀ニ用ヰラレタル而テ上文所陳ノ陪審員ハ上文所陳ノ宣誓ノ上尙訴フ「ナル言語ノ代リニ告發書ニハ」而テ我女帝陛下ノ該檢事長ハ我女帝陛下ノ爲ニ尙此裁判所ヲシテ云々ノ事ヲ了解シ及承知セシム「ナル言語カ用ヰラル、ナリ」結文ハ告訴狀ニ於ルト異ナル「ナキナリ」

第二及其次ノ告示ハ左ノ如ク文ヲ起ス

而テ我女帝陛下ノ該檢事長ハ我女帝陛下ノ爲ニ尙此裁判所ヲシテ云々ノ事ヲ了解シ及承知セシム

斯ク云々ノ所ニ犯罪ヲ陳述シ而テ告訴狀ニ於ルカ如ク文ヲ結フ而テ最後ノ告示ノ結文ニ左ノ如キ言語カ附加セラル、ナリ

而テ是故ニ我女帝陛下ノ該檢事長ハ首端文ニ於テ此裁判ノ熟慮ヲ請ヒ且該何某(被告)ヲシテ上文所陳ノ首端文ニ關係シテ我女帝陛下ニ答辨セシムル爲ニ法律ノ正當ナル手續カ該何某(被告)ニ對シテ爲サレヘキ「ナリ」願フ

此告發書ハ刑事局ニ呈スル目的ノ爲ニ前以テ裁判所ノ許可ヲ得ル「ナク」刑事局ニ呈出セラル、ナリ是故ニ裁判所ハ一個人ノ訴訟ニ於テ「マストル、オフ、クラオン、オフ」(刑事局ノ女帝)「ヨリ」ノ告發書ノ尋常ノ

場合ニ於ルカ如クニ國帝ノ訴訟ニ於テ告發書ノ爲ノ檢事長ヨリノ請願ヲ受サルヘシ又裁判所ハ被告人ノ請願ニ依リ告發書カ既ニ同一ノ訴訟ノ爲ニ許可サレタリトノ理由ヲ以テ檢事長ノ職權告發書ヲ呈出スルヲ抑止セサルヘシ

裁判所ハ職權告發書ヲ告訴人(即チ檢事長)ノ請求ニ依テ廢滅セサルヘシ如何トナレハ檢事長ハ若シ爲サント欲セハ訴訟停止ヲ記入スルヲ得レハナリ而テ被告人ノ請願ニ由ルノ時ト雖モ裁判所ハ罕ニ之ヲ廢滅スヘシ但シ一般ニ被告人ヲシテ止訴答辨等ヲ爲サシムヘシ而テ其答辨ノ後告發書ハ修正サル、ヲ得ルナリ

告發書カ呈出サレタレハ被告人ハ出廷ノ後チ裁判所ニ請願シテ其贖本チ費用ナシニ得ル權利アルナリ(第三世ジョージ帝則位第六十年及第四世ジョージ帝即位第一年ノ條例法第四章第八條)若シ檢事長カ告

發書ヲ訊問ニ附スルヲ遷延スルト雖モ被告人ハ其訊問ヲプロヴァイヅ(自告訴人訊問ニ附スル手續ヲ云フ)ニ依テ得ル能ハサルナリ然レモ若シ其告發書カ無罪ノ答辨アリシ後十二曆月内ニ訊問ニ附サレサレハ被告人ハ檢事長又ハソリサイトルゼテラルニ通知ヲ爲セシヨリ二十日ノ後ニ告訴ノ掩滯スル裁判所ニ請願スルヲ得而テ裁判所ハ訴訟停止カ記入サレタルニアラサレハ被告人ニ訊問ヲ起スヲ許可スルヲ得而テ其被告人ハ隨テ之ヲ起スヲ得(第三世ジョージ帝即位第六十年及第四世ジョージ帝即位第一年ノ條例法第四章第九條)檢事長ハトライアルアトハール(上等裁判所ノ判事ヲ云フ)前チ若シ之ヲ欲セハ爲サシムル權利アル者ナリ而テ訊問ニ於テハ假令ハ被告人ハ證人ヲ召喚セサル時ト雖モ檢事長ハ答辨ノ權利ヲ有ス此權利ハ亦政府ノ局(即チ諸官)ヨリノ告訴ニ於テ其告訴人ノ代理人カ檢事長ノ代理トシテ

出廷スト陳述スル場合ニ於テモ許容セラレタリキ然レモマリーチン氏ハ近時ノ一事件ニ於テ同氏ハ此權利ノ行使ヲ英國ノ檢事長自身ノミニ制限セサル可ラスト陳述シタリキ

若シ被告人カ放免サレ又ハ訴訟停止カ記入サルレハ被告人ハ總テ自己ノ費用ヲ自辨セサル可ラスト如何トナレハ費用ヲ受取り又ハ之ヲ拂フハ國帝ノ威嚴ヲ損スルト認メラレハナリ

第二節 マストル、オフ、クラオン、オフヒス(前文ニ出ツ)ノ告發

告發書ノ解釋及告發ノ場合、—マストル、オフ、クラオン、オフヒスノ告發書ハ大陪審官ノ關涉ナクマストル、オフ、クラオン、オフヒスヨリ裁判所ノ許可ヲ以テ一個人ノ請求ニ依リクインスペンチ裁判所ニ提出サレタル正式ニ從ヒ書記サレタル犯罪告知書ナリ

是ハ職權告發書ト同シク(前文ヲ見ルヘシ)只輕罪ノミノ爲ニアリテ

反逆、重罪又ハ反逆ノ懈怠ノ爲ニハアラサルナリ假令ハ裁判所ハ如何ノ輕罪ニ對シ此種類ノ告發書ヲ提出スル許可ヲ與フル事ヲ其裁量中ニ有スト雖モ然レモ裁判所ハ通例之ヲ著大ナル輕罪、暴動、毆打、讒謗及ヒ特ニ政府ヲ擾亂セント(是ハ檢事長ノ管スル處ナリ)セサル他ノ惡種ノ不行狀ニシテ然カモ其著大有害ナルヨリ最モ公衆ノ非難ヲ受クルニ足レルモノニ限ルナリ故ニ例ヘハ官途ニ就カンカ爲ニ内閣議官ニ苞苴ヲ贈ラントスル試計、國會議員ノ選舉ニ付テ賄賂ヲ爲サントスル試計、統合體(府市等)ノ官吏選舉ニ於テ投票セシメンカ爲ニ金員又ハ契約ヲ以テ人ニ賄賂ヲ爲ス事、職務ノ權ニ依テ治安判事タルオルザルマ(市府尹ニ次ク)ノ選舉ニ於ル賄賂、陪審員又ハ官衙ノ書記ニ賄賂ヲ爲サントスル事等ノ如キモノニ對シテ裁判所ハ告發書ヲ許可シタリキ又裁判所ハ私利ヲ得ンカ爲ノ目的ヲ以テ貧民監督ノ任ヲ或ル人ニ得

サシメントシタル事ニ對シテ之ヲ許可シタリキ音學教師カ金員ノ點ヨリ其女生徒ノ一人チ一男子ニ音學教授ニ虛託シ其實汚行ノ目的ノ爲ニ委託セシ場合ニ於テ裁判所ハ請求ニヨリ其男子音學教師及委託證書ヲ調製セシ代言人ニ對シテ告發書ヲ許可セリ裁判所ハ亦一私人ノ品行ニ渉ル讒謗カ若シ實事ヨリ虛大ナル事情アルモノナレハ其讒謗及治安官吏ノ職務執行上ノ行爲、國會議員ノ國會ニ於ル職務執行上ノ行爲、政府ノ高官ノ人ノ數種ノ公務ノ執行上ノ行爲ニ渉ル讒謗等ニ對シテモ告發書ヲ許可スヘシ然レモ治安官吏ニ其職務上ノ惡行ヲ歸スル言語ニシテ治安ヲ紊亂セントスルニアラサルモノ又ハ之ニ向テ其治安官吏トシテ着席スル際發セシニアラサルモノニ對シテハ許可セサルヘシ何某此者ニ對シテ陪審官カ偽摺罪ノ爲ノ惡意アル告訴ニ對スル訴訟ニ於テ多額ノ損害賠償金ノ斷定ヲ爲シタリ而テ此斷定カ

コンモンブリース裁判所ニ於テ確定セラレタリキカ告訴狀ヲ呈スルニ公ノ裁判ノ緣故ニ因テ鼓動セラレシト陳述スル命令カ一統合體ニ依テ爲サレ而テ其簿書ニ記入セラレシ場合ニ於テ裁判所ハ此命令ヲ裁判施行上ニ渉ル讒謗ト思料シ請求ニヨリテ此命令ヲ爲スニ關係セシ者ニ對シ告發書ヲ許可セリ又告發書ニ於ル被告人カ直チニ訊問前ニ自己ノ行爲ヲ辨護シ而テ告訴人ノ行爲ニ渉レル張紙ヲ巡回裁判所々在ノ市中ニ散布セシ場合ニ於テ裁判所ハ此張紙ヲ被告人カ訊問ノ時ニ於テ自己ノ利益ノ爲ニ陪審官ヲ感動セシメンカ爲ノ目的ヲ以テ散布シタリト思考シ之ニ對シ告發書ヲ許可シタリキ又檢屍官ノ目前ニ於ル手續ニ註釋ヲ附シテ訊問前ニ發行シタルヲ以テ假令ヘ其記載ハ端正ニシテ惡意ヲ示サ、リシト雖モ其人ニ對シテ裁判所ハ告發書ヲ許可セリ如何トナレハ斯ノ如キ發行ハ公衆特ニ其訴訟ヲ後ニ訊

問セサル可ラサル陪審官ヲシテ不適當ニ感動セシムルノ傾向ヲ有ス
 レハナリ又判事及陪審官ニ對シテ疑惑ヲ生セシメ且裁判ノ施行ヲ凌
 辱センカ爲ノ目的ヲ以テ罵詈書ヲ發行シタルコトニ對シテ告發書カ許
 可セラレタリ而テ神聖ヲ冒瀆スル讒謗書又ハ國教上ノ罵詈書ヲ發行
 スルハ告發書ノ許可サレヘキ犯罪ナリ然レモ治安官吏ヲ虛言者ト稱
 シ及ヒ其職務上ノ特別ノ惡行ヲ之ニ歸スルコトニ對シテハ告發書カ拒
 マレタリ是レ治安ヲ紊亂セントスル企アラサルヲ以テナリ
 裁判所ハ治安官吏ニ對シ其惡弊ノ又ハ復讐ノ趣意ヨリ犯シタル何レ
 ノ不正ノ所爲ノ爲ニ告發書ヲ許可スヘシ然レモ其官吏カ只不知又ハ
 誤謬ノミヨリ其所爲ヲ爲シタルコト顯著ナル場合ニ於テハ之ヲ許可セ
 サルヘシ又裁判所ハ裁判期ニ於テ職務ヲ行フ治安判事ニ對シテハ甚
 ダ著明ナル場合ニ於ルノ外之ヲ許可セサルヘシ郡裁判所判事ノ職務

上ノ惡行ノ爲ニ之ニ對スル告發書ノ命令ハ請願者カ同一ノ惡行ヲ司
 法尙書ニ呈シテ尋問ヲ請求スル建白書ノ旨趣トナシ而テ斯ク其回復
 ヲ選定シタリトノ理由ヲ以テ解カレタリキ
 又行政官吏ニ對シ其職務ノ執行上壓制ノ何レノ所爲又ハ惡弊ノ又ハ
 復讐ノ又ハ他ノ不適當ナル趣意ヨリ犯シタル何レノ不正ノ所爲ノ爲
 ニ裁判所ハ告發書ヲ許可スヘシ然レモ只不知又ハ誤謬ノミヨリ爲シ
 タル場合ニ於テハ許可セサルヘシ故ニ強テ一貧人ヲシテ當時私兒ヲ
 懷妊セル他ノ貧人ト結婚セシメタルコトノ爲ニ貧民監督ニ對シ又ハ寺
 院區ノ官吏ノ異ナル寺院區ニ住居セル人ヲ結婚セシメントノ陰謀ニ
 對シ又ハ人ヲシテ寺院區ニ委任スヘキ白痴者ト結婚セシメタルコト
 對シ告發書カ許可セラレタリキ然レモ現今ハ裁判所カ此等ノ如キ場
 合ニ於テ告發書ヲ拒ミ而テ請求者ヲシテ告訴狀ニ依テ其回復ヲ求メ

スル者カ最初ニ他人ヲ戰鬪スヘシ鼓舞スル書翰ヲ之ニ送リシテ顯著ナリシ時ハ之ヲ許可スルヲ拒タリ然レモ若シ其雙方カ告發書ヲ請願セハ之ヲ許可スヘシト裁判所ハ言ヒタリキ又請願カ著明ノ賭博者ヨリ他ノ賭博者ニ對シ競馬ニ於テ之ヲ欺カントスル陰謀ノ爲ニ爲サレタリシ場合ニ於テ告發書ハ拒マレタリキ告發書ヲ許スヘキ場合ト雖モ若シ裁判所カ告訴人ノ既ニ求メタル費用ヲ拂フハ被告人ノ爲ニ充分ナル刑罰ナルヘシト思考セハ裁判所ハ若シ被告人ニ於テ同意セハ此費用ノ約束ヲ以テナイサイ命令(前文ニ出ツ)ヲ解クヘシ

告發書ノ請願ヲ爲ス時及方法等一告發書ノ請願ハ何故ニ刑事告發書カ被告人ニ對シテ提出セラレヘカラサル乎ノ理由ヲ示スヘキ命令ヲ請願スルニアリ而テ此請願ハ事件ノ總テ緊要ナル事實ヲ表明スル誓言書ニ基テ爲サレサル可ラス若シ裁判所カナイサイ命令ヲ許與セハ

其命令ハ後ニ理由ヲ示スニ依テ尋常ノ事件ニ於ルカ如ク解レ又ハ完全ノモノト爲サル、ナリ爰ニ告發書ノ請願ハ代理人又ハサージエント(特別ノ免許ヲ得タ)ニ依テ爲サレサル可ラス若シ一個ノ私人ヨリ之ヲ爲セハ裁判所ハ此請願ヲ受サルヘシト記載スルハ緊要ナルヘシ

告發書ノ請願ハ治安官吏ノ職務執行ノ際爲シタル何レノ事ノ爲ニ之ニ對シ前以テ通知セスシテハ之ヲ爲ス能ハサルハ一定ノ規則ナリ此請願ハ正當ナル期限内ニ爲サレサル可ラス否ラサレハ遷延ノ理由ヲ充分ニ説明セサル可ラス只此規則ノ例外ハ國會議員選舉ニ於ル賄賂ノ事件ニアルカ如シ此場合ニ於テハ罰金ノ爲ノ訴訟ヲ起スヲ得タリシニケ年カ經過シタリシ後ニアラサレハ告發書ノ請願ヲ爲ス能ハサリシモノト做サレタリ若シ治安官吏ノ職務執行ノ際爲シタル何レノ事ノ爲ニ之ニ對シテ請願カ爲サルレハ其請願ハ若シ罪カ閉期中ニ犯サ

レタリセハ次回ノ裁判期(若シ此期カ争論點聯結期)此期ニハヒラレ一兩期ヲ
 巡回裁判所ニ於テ訊問ノ爲ニ準備ヲ爲セハナリ)ナレハニ於テ又ハ
 若シ次回ノ期カ争論點聯結期ニアラサレハ第二回ノ期ニ於テ爲サレ
 サル可ラス然レモ若シ罪カ裁判開期中ニ犯サレタリセハ其同期中ニ
 請願ヲ爲スヲ得又ハ次回ノ期ニ於テ爲スヲ得ルカ如シ(假令へ巡
 回裁判期カ其中間ニアリシト雖モ)若シ該同期中ニ告訴人ニ於テハナ
 イサイ命令ヲ得被告人ニ於テハ之ニ對シテ理由ヲ示ス爲ニ正當ナル
 時限ヲ與フルヲ得ルカ如キ充分ナル殘餘ノ日數アラサレハ特ニ然リ
 トス治安官吏ニ對スル請願ハ若シ之ヲ罪カ犯サレタリシ同裁判開期
 中ニ爲サハ其期ノ終ニ於テ爲スヲ許ルサル、ナリ若シ他ノ裁判開期
 中ニ爲サハ又ハ罪カ閉期中ニ犯サレタリセハ其請願ハ其治安官吏ニ
 裁判開期中ニ對シテ理由ヲ示ス爲ニ充分ナル時ヲ與フルカ如ク其

期ノ始ニ之ヲ爲サ、ル可ラス裁判所カ治安官吏ニ對シ被告人ヲ召喚
 セシトナクシテ之ヲ決罪シタルカ爲ノ告發書請願ヲ受ル前ニ其決罪
 ハ取消サレサル可ラス裁判所ハ僧徒ノ僧職ニ就クノ際爲シタル偽禁
 ノ爲ニ之ニ對スル告發書ヲ其僧カ僧職賣買罪ニ付テ決罪サレシ後ニ
 至ルマテ許與スルヲ拒ミタリキ亦裁判所ハ民事訴訟ニ於テ其訴訟未
 決中ニ證人ヲシテ偽誓セシメントシタル試計ノ爲ニモ告發書ヲ許與
 セサルヘシ然レモ其甚々明瞭ナル場合ハ此限ニアラス
 告發書請願ノ據テ爲サレヘキ誓言書ハ事件ノ總テ緊切ナル事實ヲ表
 明セサル可ラス若シ緊切ナル事實カ隱蔽サレ又ハ虛述サレタレハ裁
 判所ハ命令ヲ解キ恐ラクハ費用ヲ命スヘシ又裁判所ハ此等ノ場合ニ
 於テハ大陪審官ニ代レル如クナルカ故ニ斯ノ如ク表明サレタル事實
 ハ若シ告訴狀カ其罪ノ爲ニ呈出サレタル時大陪審官ヲシテ満足セシ

ムヘキカ如キ證據トナルヘキヲ裁判所ハ概シテ期望スヘシ告發書ハ共犯人タリシ者ノ撞着セサル誓言書ニ因テ許與セラル、ヲ得若シ請願ノ趣意カ一個人ニ對シ特別ノ罪ヲ之ニ負ハスル讒謗タレハ裁判所ハ常ニ告發書ヲ許與スル前ニ告訴人ヲシテ宣誓ノ上此罪ヲ拒マシムルナリ然レモ若シ罪ヲ負ハスルカ一般ノ人ニ對シ又ハ公ノ聚團體ニ對スルモノナレハ又ハ告訴人ノ國會ニ於テ一議員トシテ陳述シタル又ハ陳述シタリト想像サレタル何レノ事ニ關係セハ此限ニ在ラサルナリ告發書カ治安官吏ノ不適當ニ人ヲ決罪シタルヲ對シテ請願サレシ場合ニ於テ裁判所ハ告訴人カ負ハセラレタル罪ヲ拒ム辨解誓言ヲ爲スヘキニアラサレハ之ヲ許與スルヲ拒ミタリキナイサイ命令ノ請願カ據テ爲サル、誓言書ハ何レノ訴訟ニ於ルモ名稱ヲ附スヘカラス理由ヲ示スニ係ル誓言書ハ國帝ヨリ被告人ニ對スルト稱

セラル、ナリ爰ニ若シ數人ニ對シテ一通ノ連帶告發書ヲ呈出セント欲セハ其請願ハ最初ヨリ總テノ人ニ對スル連帶ノ請願タラサル可ラス如何トナレハ五人ニ對シテ別々ニ命令カ得ラレ而テ之ニ依テ一通ノ連帶告發書カ此五人ニ對シテ呈出サレタル場合ニ於テ裁判所ハ請求ニヨリ手續ヲ廢棄スルカ故ナリト記載スルハ緊要ナルヘシ告發書ノ爲ノ命令カ許與サレ而テ罪ヲ負ハセタルヲ正實ノ誓言ニ依テ之ヲ解カレタリ其後該命令ニ對シテ答辨シタル誓言ノ虛妄ナリシヲ發見サレタリ而テ裁判所ハ更ニ命令ヲ許與シタリ而テ此命令カ完全ノモノトナサレタリキ

告發書ノ書式、イマストル、オフ、クテオン、オフヒスヨリ提出サレタル告發書ノ書式ハ左ノ如シ

ヅキクトリヤ女帝治世第二十五年ノトリニテ一期

ミツドルセクス郡—我女帝陛下ニ代リテ告訴スル我女帝陛下ノ裁判所ニ於ル女帝陛下自身ノ前ノ今我女帝陛下ノ検屍官兼檢事ト一マ
スノルトン貴下ハ其適當ナル資格ヲ以テ此同裁判期中ノホーリー
トリニテ一ノ八日後ノ次ノ月曜日ニ於テウエストミンストルニ於
ル我女帝陛下ノ裁判所ニ於テ女帝陛下自身ノ前ニ來リ而テ我女帝
陛下ノ爲ニ此裁判所ヲシテ云々ノ事ヲ了解シ及承知セシムル事カ

記憶サル、ナリ

斯ク云々ト書シタル所ニ罪ヲ成ス事實及狀況ヲ告訴狀ニ於ルト同一
ノ確實及精密ヲ以テ及同一ノ書式ヲ以テ及同一ノ規則ニ從テ陳述ス
但シ證言ノ文ヲ起スニ告訴狀ニアル而テ上文所陳ノ陪審員ハ上文所
陳ノ宣誓ノ上尙訴フナル言語ノ代リニ告發書ニハ而テ上文所陳ノ如
ク告訴スル我女帝陛下ノ該検屍官兼檢事ハ尙此裁判所ヲシテ云々ノ

事ヲ了解シ及承知セシムナル言語カ用ヰラル、ナリ結文ハ告訴狀ニ
於ルト同一ナリ

第二及其次ノ告示ハ左ノ如ク文ヲ起ス

而テ上文所陳ノ如ク告訴スル我女帝陛下ノ該検屍官兼檢事ハ尙此
裁判所ヲシテ云々ノ事ヲ了解シ及承知セシム

斯ク云々ノ所ニ犯罪ヲ陳述シ而テ告訴狀ニ於ルカ如ク文ヲ結フ而テ
最後ノ告示ノ結文ニ左ノ如キ言語カ附加セラル、ナリ

而テ是故ニ我女帝陛下ノ該検屍官兼檢事ハ首端文ニ於テ此裁判所
ノ熟慮ヲ請ヒ且該何某(被告)人(被告)ヲシテ上文所陳ノ首端文ニ關係シテ我

女帝陛下ニ答辨セシムル爲ニ法律ノ正當ナル手續カ該何某(被告)人(被告)ニ
對シテ爲サレヘキヲ願フ

告發書提出ノ方法等、—裁判所カ命令ヲ完全ノモノトナシタル後ニ告

發書ハ費用ノ爲メ告訴人ノ通例ノ承諾ヲ爲シタル上テムプル(法院所
ヲ云)ニ於ルクラオン、オフヒスニ提出セラル、ト得従前マストル、オフ、
クラオン、オフヒスハ如何ノ管制モナク告發書ヲ提出スル權ヲ有シタ
リキ而テ國帝ノ名ヲ以テ提出スルカ故ニ假令ヘ告發書カ訊問ニ於テ
理由ナキモノトナリシト雖モ決シテ告訴人ナシテ費用ニ服從セシメ
サリキ然レハ革命以前此權ノ弊害アルヨリシテ其後忽チウヰリヤム帝
及メーレー女帝即位第四年及第五年ノ條例法第十八章ヲ以テマスト
ル、オフ、クラオン、オフヒスハ自今キングスベンチ裁判所ヨリノ明白ナル
指令ナクシテハ何レノ告發書ヲ提出スヘカラス且斯ノ如キ告發書ヲ
提出スルヲ許可サレタル各告訴人ハ克ク之ヲ告訴シ而テ被告人カ放
免セラル、場合ニ於テハ此告發書ヲ訊問スル判事カ之ヲ提出スルノ
正當ナル理由アリシト保證スルニアラサレハ被告人ニ費用ヲ拂ヒ而

テ告發書カ爭論點聯結セシ後一ケ年内ニ訊問サレヘキニアラサレハ
到底費用ヲ拂フヘキ條件アル二十磅ノ承諾書ヲ以テ保證ヲ爲スヘシ
ト制定セラル、ニ至リタリキ然レハ被告人ハ其放免ノ上ハ該承諾ノ
金額外ノ費用ヲ得ル權利アラサルナリ
告發書カ提出サレタル時ハ若シ被告人ノ出廷カ既ニ保證サレタルニ
アラサレハ其出廷ヲ強迫スルノ令狀ヲ發スルナリ其後被告人ハ之ニ
對シテ辨論シ又ハ之ヲ廢滅セシテ請願ス而テ爭論點聯結セシ上手
續カ訊問ニ附セラル、ナリ
告發書廢滅又ハ停止ノ場合、一裁判所ハマストル、オフ、クラオン、オフヒ
スヨリ提出シタル告發書ヲ甚タ罕ニ廢滅スヘシ實ニ二三ノ書ニ裁判
所ハ如何ノ場合ニ於テモ之ヲ廢滅セサルヘシト定メタリ然レハ裁判
所ノ甚タ僅ノ場合ニ於テ特別ノ狀況ヲ以テ廢滅ノ事ニ關涉セリ若シ

告訴人ノ請願ニヨリ廢滅サレタレハ少クモ承諾ノ金額ニ達スルマテ
 ノ費用ヲ拂ヒテ之ヲ爲サ、ル可ラス告發書カ許與サレ而テ其後檢事
 長カ同一ノ原因ノ爲ニ職權告發書ヲ提出セシ場合ニ於テ裁判所ハ尙
 其上ノ命令アルマテ最前ノ告發書ヲ停止セリ告發書ヲ請願スル人ハ
 裁判所カ全體ノ事件ヲ審問ノ上是ハ民事訴訟ニ於テ訊問サレヘキ適
 當ノ旨意ナリトノ說ヲ作シ而テ斯ク爲スヘキ許可ヲ殊別ニ之ニ與フ
 ルニアラサレハ同一ノ原因ノ爲ニ其裁判所ニ於テ其民事訴訟ノ權利
 ヲ拋棄セサル可ラサルハクインスペンチ裁判所ノ手續ノ規則トシテ
 定メラレタルカ如シ而テ若シ告發書カ許與サレタリセハ同一ノ原因
 ノ爲ノ訴訟^(民)ニ於ル手續ヲ停止スルハ勿論ナリト云フ然レモ讒謗ニ
 對スル告發書ノ爲ノ命令カ示サレタル理由ニ依テ解カレタリシ場合
 ニ於テハ其請願者カ同一ノ讒謗書發行ニ對シ他ノ裁判所ニ於テ訴訟

ヲ起スヲ制止スルト認メラレサリキ
 讒謗ニ對スル告發書ニ付テ被告ノ費用ニ關シテハ第二編第二部第
 三章ノザキトリヤ女帝即位第六年及第七年ノ條例法第九十六章第
 八條ヲ見ルヘシ

新訊問ニ關シテハ第五章第三節ヲ見ルヘシ

第三章 檢屍官^{ゴロナル}ノ審問

告訴ノ一方タル檢屍官ノ審問、檢屍官ノ審問ノ發見ハ大陪審官ノ發
 見ニ同キモノナリ而テ被告人ハ死者ノ死亡ニ關シ檢屍審問スルヲ宣
 誓シタル陪審官ノ發見ノ記録タル審問書ヲ以テ謀殺又ハ故殺ニ對シ
 テ告訴セラル、トテ得斯ノ如キ審問書ハ告訴狀ト成ルナリ而テロル
 ドコーク氏及其以前ノ法律家ハ屢々此審問書ヲ告訴狀ト稱シタリ而
 テ被告人ハ告訴狀ニ依テ逮捕セラル、ト同様ニ之ニ依テ逮捕サレ而

テ大陪審官ニ於テ見出サレタリシト毫モ異ナルヲナク之ニ對シテ辨
 論シ又ハ故障ヲナスヲ得「被告人カ謀殺又ハ故殺ヲ以テ告訴サレタ
 ル場合ニ於テハ裁判ノ過失ヲ豫防センカ爲ニ其同罪ニ對シテ告訴狀
 ナモ亦大陪審官ニ呈出スルハ巡回裁判所ニ於ル手續ナリキ然レモ
 非クトリヤ女帝即位第十四年及第十五ノ條例法第百章頒布以來死
 亡ノ原因ヲ精密ニ術語ヲ以テ記載スルノ緊要ハ廢止サレタリ而テ現
 今ハ審問書ニ於ルト同一ノ言語ヲ以テ告訴狀ニ罪ヲ記載スヘキカ故
 ニ尙續テ重複ノ手續ヲ爲スノ何タル理由モ今ハ完クアラサルカ如シ
 一被告人ニ對シテ檢屍官ノ審問ニ依テ有罪ノ斷定カ下サレ而テ大陪
 審官モ亦之ニ對シテ眞^{トルーベ}ノ告訴狀ヲ見出シタルモノニシテ其被告人カ
 何レカ一方ニ於テ放免サレタル場合ニ於テハ他ノ一方ニ依テ逮捕セ
 ラル、ヲ得然レモ其被告人ハ之ニ對シテ充分ニ最前ノ放免^{第五節}

ナニ詳)ヲ辨論スルヲ得

檢屍官ハ火災ノ原因ニ付テ審問ヲ開ク權ヲ有セス
 謀殺故殺ノ事件ニ於テ審問ヲ開ク檢屍官ノ權及職務、一何人ト雖モ殺
 害サレ又ハ頓死シタル場合ニ於ル檢屍官ノ職務ハ第一世エドワード
 帝即位第四年ノ條例法ヲ以テ詳細ニ指示サレタリ然レモ此條例法ハ
 只指令法ニシテ習慣法ノ認定ニ過キサルノニ通例檢屍官職務條例法
 トシテ知ラレタル條例法ニ制定シテ云ク檢屍官申報ヲ得レハ何レノ
 人カ殺害サレ又ハ頓死シ又ハ負傷シタル場所ニ行クヘシ而テ即時ニ
 近隣ノ市人四名又ハ五名又ハ六名ニ命令シテ斯ノ如キ場所ニ於テ檢
 屍官ノ前ニ來ラシムヘシ而テ此者ノ此所ニ來リシ時之ニ宣誓セシメ
 テ左ノ方法ヲ以テ審問スヘシ即チ此者等ハ何レノ所ニ該人ハ殺害サ
 レシ乎何レノ家屋、郊野、寢床、酒舖、人ノ聚合所ニ於テ殺害サレシ乎何人

カ其處ニ在リシ乎ヲ知ル乎ヲ審問スヘシ亦何人カ所爲又ハ腕力ニ付テ罪アル者ナル乎及男女ノ何人カ其場所ニアリシ乎而テ其男女ハ何歳ナル(若シ其男女ハ談話シ得ハ又ハ何レハ裁量ヲ有セハ)乎ヲモ審問セサル可ラス而テ斯ノ如キ方法ノ何レニ於ル審問ニ依テ幾多ノ人カ罪アル者ト見出サル、ト雖モ其者ハ皆捕ヘラレ而テ郡長ニ交付セラレ而テ収監セラレヘシ而テ有罪ト見出サレタル及見出サレサル如キ者ハ治安判事ノ來着アルマテ拘留セラレヘシ而テ其姓名ハ檢屍官ノ記録ニ登記セラレヘシ若シ斯ノ如キ殺害サレタル者カ郊野又ハ森林ニ於テ發見サル、トアラハ其者ハ此場所ニ於テ殺害サレシ乎否ヲ先第一ニ審問セサル可ラス而テ若シ其者カ運搬サレ而テ此場所ニ置カレダレハ其死體ハ馬又ハ馬車ヲ以テ運搬サレタルニ拘ハラヌ之ヲ此所ニ運搬シタル道路ヲ可成的能ク追跡セサルヘカラス亦死者ハ知ラ

レタリシ者ナル乎又ハ否ヲサレハ知ラレサル者ナリシ乎而テ其者ハ前夜何レノ所ニ宿泊セシ乎ヲモ審問スヘシ而テ若シ何レノ人カ有罪ト見出サレダレハ檢屍官ハ直チニ其家ニ行クヘシ而テ其如何ノ物品ヲ所有スル乎及如何ノ穀物ヲ其穀倉等ノ中ニ所有スル乎ヲ檢査スヘシ而テ此等ノ事ノ審問ノ上直チニ該死亡人又ハ被殺人ノ身體ハ埋葬セラレヘシ之ト同様ニ死者ハ溺死セシ者ナル乎又ハ頓死セシ者ナル乎ヲ審問セサル可ラス而テ其後死體ヲ檢査シ其溺死シタル者ナリシ乎又ハ殺害サレシ者ナリシ乎又ハ其頸又ハ四肢ノ何レノ周圍ニ固結シタル繩ノ徵候アルヲ以テ絞殺サレシ者ナル乎ニ付テ又ハ其身體ニ見出サレタル何レノ疵傷ニ付テ審問ノ手續ヲ上文所陳ノ方法ヲ以テ爲スヘシ而テ若シ殺害サレサリセハ然ル時ハ檢屍官ハ發見者及之ニ同伴スル總テ他ノ者ヲ拘留セサル可ラス又創傷ハ總テ檢査サレサル

ヘカラス而テ其長サ廣サ深サ及如何ノ兇器ニ依レル乎身體ノ何レノ部分ニアル乎及幾何ノ人カ罪アルヘキ者ナル乎及幾何ノ創傷アル乎及何人カ創傷ヲ被フヲシメタル乎ヲ審問セサル可ラス總テ此等ノ事ハ檢屍官ノ記録ニ記載サレサル可ラスト

前文ノ條例法中ノ檢屍官ノ審問ニ依テ有罪ト見出サレタル者ノ物品ヲ檢屍官ニ於テ差押ヘル事ニ關スル正條ハ第三世リチャード帝即位第一年ノ條例法第三章ニ依テ廢止サレタリ而テ又第一世エドワード帝即位第四年ノ條例法ニ依テ規定サレタル沒收物（此沒收物ハ動産ニテ人ヲ殺セハ其馬車ヲ沒收スルヲ云フ）ニ關スル檢屍官ノ職務ハ此沒收ヲ廢止スルヅサトリヤ女帝即位第九年及第十年ノ條例法第六十二章ニ依テ停止サレタリ

第一世エドワード帝即位第四年ノ檢屍官職務條例法ノ解釋上檢屍官

ハ死體ヲ檢査シテ審問ヲ爲スヘキ義務アル者ニシテ否ラサレハ其爲シタル審問ハ無効ナリ且檢屍官ハ實ノ謀殺人又ハ故殺人ニ關シテ審問スルヲ得ルカ如クニ謀殺ノ事實前ノ從犯人又ハ謀殺又ハ故殺ヲ加功幫助スル第二等正犯人ニ付テモ亦審問スルヲ得然レモ事實後ノ從犯人ニ付テ審問スル權ヲ有セス若シ審問ヲ爲サル可ラサリジ死體カ檢屍官ノ之ヲ檢査セシ前ニ埋メラレ又ハ腐敗セシメラレダレハ市廳又ハ若シ死亡カ監獄内ニアリセハ典獄ハ罰金ヲ科セラルヘシト決定サレタリキ且變死シタル人ノ身體ニ付テ檢屍官ノ審問ヲ爲セシ前ニ之ヲ埋葬スルハ輕罪トシテ告訴スヘキ罪ト做サレタリキ之ト同様ニ檢屍官ト雖モ若シ審問ヲ爲スハ其職務タル場合ニ於テ之ヲ爲スヲ惡弊ニ誘ハレテ自ラ制止セハ告訴セラル、ヲ得之ニ反シテ不緊要ナル審問ヲ爲スヲ判事長ロルドエレンボローハ最モ嚴シク非

難セリ而テ第四世ウヰリヤム帝即位第六年及第七年ノ條例法第八十
 九章ニ依リ四季裁判期ノ判事ハ若シ檢屍官ノ審問カ判事ノ意見ニテ
 ハ不緊要ニ開カレタリセハ之ニ報酬金ヲ渡サ、ルノ權ヲ有シタリキ
 然レモ現今ハ檢屍官ハ俸給ニ定メテ而テ報酬金ヲ以テ支給サレサ
 ルナリ(少キト)リヤ女帝即位二十三年及第二十四年ノ條例法第百
 十六章第四條又檢屍官ハ未タ審問アラサリシ場合ニ於テ之ヲ爲シ又
 ハ最前不充ナル審問カ爲サレタル場合ニ於テ善良ナル審問ヲ爲ス
 目的ヲ以テ死體ヲ檢査センカ爲ニ死亡ノ後便宜ノ時限中ハ之ヲ掘出
 スヲ正當ニ命令スルヲ得ト決定サレタリ如何トナレハ最初ノ審問
 ハ死體ヲ檢査シテ爲シタルニアラサリシ場合又ハ最初ノ審問ハ後ニ
 クインスペンチ裁判所ニ於テ廢滅サレタル場合ニ於テハ檢屍官ハ更
 ニ之ヲ爲スヲ得レハナリ然レモ審問カ死體ヲ檢査シテ爲サレ而テ

斷定カ記録サレタリシ場合ニ於テハ檢屍官ハ隨意ニ第二ノ審問ヲ爲
 スヲ得ス又謀殺又ハ故殺ヲ以テ告訴サレタル何レノ人カ逃走シタ
 ル時ハ檢屍官ノ前ニフユীগム、フエシツト(彼ノ人ハ逃走シタリト云
 中ニ記入スル時ハ其逃走人ニ付テ申告カ爲サル、ヲ得此場合ニ於
 ノ財産ヲ没收スルヲ得)テハ檢屍官ハ第三世リチャード帝即位第一年ノ條例法第三章頒布前
 ノ如ク逃走人ノ物品及土地ヲ差押ヘルヲ得ト云ハレタリ爰ニ尙一
 言スヘキハ若シ檢屍官カ審問ヲ爲スヲ怠ラハ巡回判事又ハ治安判
 事ニ於テ之ヲ爲スヲ得ルナリ
 犯罪人ノ告訴ニ關シ其有罪斷定後ノ檢屍官ノ職務ハ第七世ヘンリー
 帝即位第三年ノ條例法第一章ニ依テ左ノ如ク布告サレタリ即チ重罪
 カ見出サレタル後檢屍官ハ其審問ヲ爲シタル郡ノ次回ノ巡回ノ判事
 ニ其審問書ヲ交付スヘシ其判事ハ若シ斯ノ如キ謀殺人カ監獄内ニア

ラハ之ニ對シテ手續ヲ爲シ或ハ若シ監獄ニアラサレハ該審問書ヲキ
 ノグスベシテ裁判所(クイーンズベシ)ニ於ル國帝ニ呈スヘシト
 檢屍官ハ他ノ場合ニ於ルカ如ク相當ノ官吏ヨリ變死ノ報知ヲ受クレ
 ハ其死體ノ存在スル寺院區又ハ場所ノ警察官及治安官吏ニ向テ陪審
 官ヲ徵集スルヲ要シ且該陪審官ノ檢屍官ト會合スヘキ特別ノ時及場
 所ヲ指示スル命令狀ヲ發遣ス陪審官ハ法律上正當ナル者十二名ヨリ
 少キ數ヲ以テ組織スルヲ得而テ或ル場合ニ於テ二十三名ノ陪審員
 ナ以テ之ヲ組織ス陪審官ハ死體ノ檢査ニ付宣誓セサル可ラス而テ之
 ナ檢査スル後證人カ宣誓ノ上訊問セラル、ナリ檢屍官ハ各事件ノ實
 事ヲ探究スル爲ニ要用ナリト思量スル如キ證人ノ臨場ヲ要求スル權
 ナ有ス而テゾサトリヤ女帝即位第七年及第八年ノ條例法第九十六
 章第十七條ニ依テ若シ郡府及市區并郡稅ヲ出スリベルテ(特許ア)及

フランチャイス(上全)ノ何レノ檢屍官ノ審問上陪審員トシテ又ハ證據ヲ
 呈スル證人トシテ正當ニ召喚サレタル者カ公然三回召喚サル、後斯
 ノ如キ陪審員トシテ臨場シ而テ職務ヲ盡サス又ハ斯ノ如キ審問上臨
 場シ而シテ證據ヲ呈サ、レハ各ノ斯ノ如キ檢屍官ハ斯ク怠慢ヲ爲シ
 タル各人ニ該官ノ適當ト思量スヘキカ如キ四十シルングニ超過セ
 サル罰金ヲ科スル權ヲ委任サレヘシト制定サレタリ近時ノ一事件ニ
 於テ若シ檢屍官カ審問上其目前ニ於テ陳述ヲ爲ス、ナリ何レノ人ニ許
 サハ宣誓ノ上之ヲ爲サ、ル可ラス而テ若シ其陳述カ適用シカタキモ
 ノトナラハ然ル時ハ檢屍官之ヲ棄却セサル可ラス如何トナレハ檢屍
 官ハ宣誓ノ上爲サレサル何レノ陳述ヲ受ル權利ヲ有セサレハナリト
 ポルロツク(名人)ハ定メタリ而テ此手續法ハ其後エクスエツカ、裁判
 所ニ於テ維持サレタリキ第四世ウサリヤム帝即位第六年及第七年ノ

條例法第八十九章ニ依テ檢屍官ハ死者ノ死亡ノ際又ハ其最後ノ疾病中之ニ待候シタルヘキ何レノ正當ニ資格ヲ具ヘタル醫員ニ又ハ若シ其死者カ斯ク醫員ノ待候セシ者ニ在ラサリセハ然ル時ハ其者ノ死亡セシ場所ニ於テ又ハ之ニ接近スル地ニ於テ實際營業ノ何レノ斯ノ如キ醫員ニ證人トシテ臨場ヲ命令スル權ヲ附與サレタリ檢屍官ハ亦死スト、モルテム後ノ檢査死ノ原因ヲ檢査セシムルヲ其ヲ命令スル權ヲモ有シ且斯ノ如キ醫員ニ其證人トシテ臨場シタル報酬金トシテ一ギニ（金貨）ヲ拂フ權ヲ有ス死後ノ檢査ヲ爲シ而テ其檢査上證據ヲ呈スル爲ニ臨場シタル醫員ニ拂フヘキ報酬金ハ二ギニナリ而テ死亡ノ原因カ醫員又ハ最初ニ審問サレヘキ他ノ證人ノ證據ニ依テ充分ニ説明セラレサリシ事カ何レノ檢屍官審問ニ着席スル陪審員ノ多數ニ顯著ナル時ハ毎ニ該多數ノ陪審員ハ同條例法同章第二條ニ依リ檢屍官ニ向テ書面ヲ

以テ何レノ他ノ正當ニ資格ヲ具ヘタル醫員ヲ指名シ而テ證人トシテ其臨場ノ命令狀ヲ發スルヲ檢屍官ニ要求スルヲ許可サレ及權ヲ附與サレタリ而テ檢屍官ハ斯ノ如キ請求書ニ應スルヲ拒ム場合ニ於テハ輕罪ニ對スル如ク罰セラレヘキ者ト布告サレタリ
證人ノ口供ヲ取ルルニ關スル檢屍官ノ職務ハ現今第四世ジョーシ帝即位第七年ノ條例法第六十四章第四條（フヒリツプ帝及メーレー女帝即位第一年及第二年ノ條例法第十三章第五條ヲ修正擴張スル）ニ依テ規定サレタリ其條ニ制定シテ云ク各檢屍官ハ何レノ人カ故殺又ハ謀殺ノ爲ニ或ハ謀殺ノ事實前ノ從犯トシテ告訴サレヘキ審問書ヲ其目前ニ於テ取レハ之ニ其陪審官ニ呈セラレタル證據又ハ其緊切タルヘキモノヲ記載スヘシ而テ斯ノ如キ故殺又ハ謀殺又ハ謀殺ノ從犯タル罪ニ關スル何レノ緊切ナル事件ヲ知り又ハ告知スル如キ總テノ人ヲ該

犯ノ訊問アルヘキ次回ノ巡回裁判所又ハカウンテーパーチン(判別ノ有
カスルヲ)ノ高等刑事裁判所或ハ大裁判期ニ出廷シ而テ該被告人ニ對シ
テ該時該所ニ於テ告訴シ又ハ證據ヲ呈スル爲ニ承諾書ヲ以テ束縛ス
ル權ヲ有スヘシ而テ各ノ斯ノ如キ檢屍官ハ斯ノ如キ證據及總テノ承
諾書ヲ保證シ之ニ署名スヘシ且其目前ニ於テ爲シタル審問書モ亦保
證シ署名スヘシ而テ之ヲ其訊問アルヘキ裁判所ノ相當ノ官吏ニ其開
廳前又ハ開廳ノ時交付スヘシト(檢屍官ノ前ニ取ラレタル口供ヲ證據
トシテ是認スル事ニ付テハ第二編ヲ見ルシ)
謀殺及故殺ノ事件ニ於ル審問書ノ必要事件及書式、一審問書ハ冒頭即
チ起文、陪審官ノ斷定、及證明ナル三部ヨリ成立ス抑告訴狀ニ必要ナル
ト同等ノ確實カ檢屍官ノ審問書ニ於テモ亦必要ニシテ總テ告訴狀ノ
場合ニ於テ罪ノ記載ニ關スル規則ハ其適用サレヘキ的ハ審問書ニモ

亦之ヲ適用スト、概言スルヲ得(前章告訴狀書式ノ第二項ヲ見ルヘシ)
グエニユー(犯罪ノ場所ニシテ陪審
官ノ出ヘキ地ヲ云フ)ハ紙端又ハ冒頭文中ニ挿入サレサ
ル可ラスト雖モ通例雙方ニ挿入サル、ナリグエニユーハ死者ノ死亡
セシ而テ審問ノ爲サレタル郡又ハ管轄内ニ定メラレサル可ラス海軍
裁判所ノ檢屍官ニテ審問カ爲サレタル時ハ紙端ニグエニユートシテ
郡ヲ記ルサスシテ英國海軍裁判所ナル言語ヲ挿入ス一郡又ハ一管轄
内ニ死亡ノ原因ヲ生シ而テ死體ハ他ノ郡又ハ管轄内ニアリシ場合ニ
於テ困難ヲ避ケンカ爲ニジキトリヤ女帝即位第六年及第七年ノ條
例法第十二章第一條ヲ以テ檢屍官ノ管轄内ニ死亡ノ審問ヲ爲サ、ル
可ラサル死體カ存在スヘキ時ハ其死亡ノ原因ハ該官ノ管轄内ニ於テ
生セシニ在ラサルニ關ハラス該官ハ審問ヲ爲スヘシ而テ英國海軍裁
判所ノ管轄ノ爲ノ副檢屍官アラサルヘキ海又ハ何レノ小川、川又ハ海

水ノ流通スル堀割内ニ死體ノ發見サレタル場合ニ於テハ其死體カ始テ陸地ニ揚ケラレヘキ場所ノ管轄ヲ有スル検屍官カ審問ヲ爲スヘシト制定サンタリキ而テ同章第二條ヲ以テ検屍官ノ審問ヲ爲ス目的ノ爲ニ郡、ライオング又ハジグイシユンノ何レノ分離セル部分ハ其全ク圍繞サレタル郡、ライオング又ハジグイシユン内ニ存スルモノト思量シ或ハ其分離セル部分カ二以上ノ郡、ライオング又ハジグイシユンニ依テ幾分カ圍繞サレタル場合ニ於テハ其相接スル境界ノ最モ長キモノ、内ニ存スルモノト思量セラルヘシト定メラレタリジグイシユンニヤ女帝即位第十四年及第十五ノ條例法第百章第二十四條ニ依テ告訴狀(此言語ハ審問書ヲ含有スヘシト其第三十條ニ制定サレタリ)ハ適當ナル又ハ完全ナルヴエニユノ缺乏ノ爲ニ無効ト爲サルヘシト布告サレタリ審問書ノ紙面ニハ如何ノ場所ニ於テ審問カ爲サレシ乎カ顯著

ナラサル可ラス然レモ審問ハ必スシモ死體ノ存スル場所ニ於テ爲サレサルヘカラサルハ緊要ニアラス甲ノ地ニ於テ死體ヲ檢査シ乙ノ地ニ於テ審問ヲ爲シテ妨ケナカルヘシト決定サレタリキ審問書ハ亦審問ヲ爲セシ日ヲ特記セサルヘカラス若シ之ヲ日曜日ニ爲サハ無効タルヘシト云フ然レモ現今ハジグイシユンニヤ女帝即位第十四年及第十五ノ條例法第百章第二十四條ニ依テ審問書ハ罪ノ犯サレタリシ時ヲ記スルヲ遺漏セシ事(時カ罪ノ本質ニアラサル場合ニ於テ)又ハ時ヲ不完全ニ記ルセシ事又ハ罪ヲ審問後ニ犯サレタリト記シ又ハ出來スヘカラサル日ニ於テ又ハ決シテ在ラサリシ日ニ於テ犯サレタリト記セシ事ノ爲ニ無効ト爲サレ能ハサルナリ審問書ハ之ヲ取リシ者ハ如何ノ場所ノ検屍官ナリシ乎ヲ示シ且其者ハ適當ナル管轄權ヲ有セシト示サ、ル可ラス審問ハ身體ヲ檢査シテ爲サルヘキハ緊要ナリ検屍官

ハ死體ヲ検査シテノニ審問書ヲ取ルコトヲ得ルナリ是レ檢屍官ニ管轄
 權ヲ附與スル爲ニ検査ハ全ク緊要タル所以ナリ若シ死者ノ身體カ相
 違ナキ者ト認メラレ而テ其宗教名及附加名カ知ラレハ或ハ其者カ
 通例其名ニテ知ラレタル名カ確知セラルレハ之ヲ正シク記載セサル
 可ラス然レモ若シ死者ノ名カ知ラレサレハ之ヲ陪審官ニハ其名ノ知
 ラレサル或ル人トシテ記サ、ル可ラス何レノ審問ト雖モ少クモ十二
 名ノ陪審員ニテ爲サレ其審問書ハ其宣誓ノ上呈出セラル、ハ緊要ナ
 リ而テ若シ何レノ陪審員カ宣誓ノ代リニ確言ヲ爲シタリト雖モ其事
 實ヲ記ルスハ緊要ニアラサルナリト爰ニ陳述スヘシ(ヅキクトリヤ女
 帝即位第六年及第七年ノ條例法第八十三章陪審官ハ審問カ爲サレシ
 郡又ハ管轄内ヨリ出タル正當ノ人ナル事カ亦顯著ナラサル可ラス其
 姓名ハ審問書ノ本文中ニ挿入サレサル可ラス而テ審問書ハ陪審官ニ

於テ其完全ナル姓名ヲ以テ之ニ署名セサル可ラス
 然レモ審問書ハ一陪審員カ其宗教名ノ頭字ヲ署シ又ハ署名スル代リ
 ニ之ニ其記號ヲ書シタリシ故ヲ以テ無効ト(若シ斯ノ如キ陪審員ノ姓
 名カ著ハサルレハ爲サレサルヘシ)ヅキクトリヤ女帝即位第六年及第
 七年ノ條例法第八十三章第三條(従前謀殺及故殺ノ場合ニ於テハ其罪
 ハ必ラス告訴狀ニ於ルト同一ノ合法ノ確實及精密ヲ以テ告訴サレ而
 テ死亡ノ原因及各ノ狀況ハ最大ノ詳細ヲ以テ記ルサル、カ故ニ審問
 書ヲ書記スルニ最大ノ注意カ緊要ナリキ然レモ現今ハヅキクトリヤ
 女帝即位第十四年及第十五年ノ條例法第百章第四條ニ依テ謀殺又ハ
 故殺ノ何レノ告訴狀又ハ審問書ニハ死者ノ死亡ヲ生セシ方法又ハ手
 段ヲ記ルスハ緊要ニアラサルヘシ然レモ謀殺ノ各告訴狀ニハ被告人
 カ惡意ヲ以テ故意ヲ以テ及其豫謀シタル害心ヨリ死者ヲ殺害セリト

告訴スルハ効力アルモノタルヘシ而テ故殺ノ各告訴狀ニハ被告人カ
惡意ヲ以テ死者ヲ殺害セリト告訴スルハ効力アルモノタルヘシト制
定サレタリ

檢屍官(其姓名及官名ヲ以テ)并陪審官ハ審問書ニ署名シ及捺印セサル
ヘカラス(第四世ジョージ帝即位第七年ノ條例法第六十四章第四條)審
問書ハ捺印サレサル可ラサルハ全ク緊要ナル乎ハ疑ハレタリキ然レ
モゾ井ストリヤ女帝即位第六年及第七年ノ條例法第三十八章ハ審問
書ハ其正當ニ捺印サレ又ハ羊皮紙ニ書記サレサル理由ヲ以テ無効ト
ナサレサルヘシト云フ條中ヨリ謀殺及故殺ノ場合ヲ明白ニ除キタリ
而テ其條例法頒布以來ハ羊皮紙ニアラスシテ紙ニ書記サレタル謀殺又
ハ故殺ノ審問書ハ廢棄サレサルヘカラスト爲サレタリキ審問カ副檢
屍官ノ前ニ爲サレタル場合ニ於テハ證明文ニ署名スルノ適當ナル方

法ハ左ノ如シ

正當ニ任セラレタル副檢屍官何某ニ依テ檢屍官何某(印)

左ノ審問書ノ書式ハ現今謀殺又ハ故殺ノ各ノ場合ニ於テ適用スヘキ
モノタルヘシ

即チミッドルセクス郡 ミッドルセクス郡内何々寺院區ニ於ルレ
ッドライオンノ標號ヲ以テ知ラレタル何某ノ家(何々街ニアル)ニ於
テ我國君女帝陛下ノ治世第二十五年五月一日ニ於テ該郡ノ爲ノ我
女帝陛下ノ檢屍官ノ一人ナルゼントルマン(貴稱)何某ノ目前ニ於テ今
爰ニ死亡シタルジョン、スミスノ身體ヲ檢査シテ何某カ何年何月何
日ニ於テ我女帝陛下ノ治安帝權及威權ニ反シテ惡意ヲ以テ故意ヲ
以テ及其豫謀シタル害心ヨリ該ジョン、スミスヲ殺害セリ(或ハ若シ
故殺ノ場合ナレハ惡意ヲ以テ殺害セリ)ト宣誓ノ上陳述スル該郡ノ

善良正當ナル人ニシテ何時如何ニ及如何ノ手段ニ由テ該シヨ、ス
 ミスカ其死亡ニ至リシ乎チ我女帝陛下ノ爲ニ吟味スル爲ニ正當ニ
 選舉サレ宣誓シタル陪審員ノ姓名ヲ掲クノ宣誓ノ上我國君女帝陛下
 某何某宣誓シタル陪審員ノ姓名ヲ掲クノ宣誓ノ上我國君女帝陛下
 ノ爲ニ取ラレタル審問書、其證トシテ該檢屍官并上文所陳ノ陪審
 官ハ上文ニ記載シタル日及年ニ是レニ署名捺印シタリキ

〔檢屍官及各陪審員ノ署名及捺印〕

若シ陪審官カ何レノ人ハ現ニ其場ニ在テ謀殺又ハ故殺チ加功幫助シ
 タルチ以テ第二等正犯トシテ罪アル者タリシト見出スヘケレハ第二
 編第四部ノ書式ニ於ルカ如ク證明文ノ前ニ一告示カ附加セラレサル
 可ラス若シ何レノ人カ謀殺ノ事實前ノ從犯トシテ罪アル者タリシチ
 見出スヘケレハ上文ト同様ニ審問書ニ一告示チ附加セサル可ラス(第

二編第四部ヲ見ルヘシ)

檢屍官ノ審問上ノ令狀、陪審官カ何レノ人ニ對シ謀殺又ハ故殺ノ斷
 定チ回報シタル時ハ若シ其人カ現ニ其場ニ在ラハ訊問ノ爲メ即時之
 チ収監スルハ檢屍官ノ職務ナリ若シ斯ノ如キ斷定カ下サレタル者カ
 拘留サレタルニアラサレハ檢屍官ハ之チ斯ク収監センカ爲ニ其逮捕
 及該官ノ前ニ其引致又ハ管轄内ノ治安判事ノ前ニ其拘引ノ爲メ令狀
 チ發スルヲ得若シ其者カ既ニ拘留サレダレハ檢屍官ハ其者チ監守
 スル典獄ニ向ケ其拘留令狀チ發セサル可ラス檢屍官ノ審問カ巡回判
 事ニ回報サレタル時若シ檢屍官ノ陪審官カ有罪ノ斷定チ下シタル者
 カ引致サレタレハ其者ハ該判事ノ前ニ於テ訊問セラレ、ナリ然レモ
 若シ引致サレサレハ其審問書、該判事保證チナシテクインズベシチ
 裁判所ニ送致サレサル可ラス而テ然ル時ノ手續カ告訴狀ニ對スルカ

如ク爲サル、コトヲ得第一章第八節ヲ見ルヘシ」
 検屍官カ被告人ヲ収監シタル場合ノ保釋、一ヴヰクトリヤ女帝即位第十一年及第十二年ノ條例法第四十二章第二十三條第一章第九節被告人収監サレタル場合ニ於テ保釋ヲ許ス方法ノ部ハ審問ノ上検屍官ノ令狀ヲ以テノ収監ノ場合ニ適用セサリキ而テ尙後ノヴヰクトリヤ女帝即位第二十二年ノ條例法第三十三章頒布マテハ保釋サレサル可カラサルヲ忠告サレタル被告人ノ救助ハ只開期中ハクインスベントナリ判所ニ閉期中ハ其私局ニ於ル判事ニ請願スルノ一方アリシノミナリキ然ルニ現今ハ該條例法(第二十二年ノ第三十三章)ニ依テ検屍官ハ其陪審官カ故殺ノ斷定ヲ下シタル被告人ニ自ラ保釋ヲ許スコトヲ得然レハ該陪審官カ謀殺ノ斷定ヲ下シタル場合又ハ検屍官カ保釋ヲ拒ム場合ニ於テハ尙クインスベントナリ裁判所又ハ其判事ニ請願ヲ爲サル可ラス審査令狀

ハクインスベントナリ裁判所ニ向テ口供書及審問書ヲ保證スルヲ検屍官ニ要求シテ之ニ宛テ發セラレサル可ラス而テ囚人ハ規則ヲ履ミ保身令狀ヲ以テクインスベントナリ裁判所ニ移サレサル可ラス然レハ囚人ノ貧困或ハ倫敦府ヨリ遠隔ノ如キ他ノ事情ヲ熟慮シテ該裁判所又ハ判事ハ保身令狀ヲ止ムヘシ而テ若シ囚人ヲ保釋セサルヘカラサル場合ナレハ其囚人ノ収監サレタル郡又ハ管轄ノ治安官吏ニ於テ保釋ヲ爲スヲ許可スヘシ該裁判所ハ其裁量ヲ定ムルニハ陪審官ノ發見ニ由テコアラズ亦収監ニ由ルニモアラズ但シ口供書ニ明白ナルカ如キ事件ノ事實及狀況ニ由テ指揮セラル、ナリ而テ罪カ故殺ヨリ以上ノモノトナラサルコト顯著ナル場合ニ於テハ裁判所ハ請願ヲ許可スヘシ而テ假令ハ検屍官ノ陪審官ハ謀殺ノ斷定ヲ下シタリシ時ト雖モ裁判所ハ口供書ヲ調査シ而テ罪カ謀殺トナルカ又ハ故殺トナルカヲ鑑定シ而

テ之ニ從テ保釋ヲ拒ミ又ハ許スヘシ(第一章第九節ノインスベンチ裁判所ノ保釋ヲ看ルヘシ)

第四章 答辨(被告ノ答辨) (被告ノ答辨ニ對スル原告ノ答辨ニ對スル原告ノ答辨)

第一節 答辨ノ順序及時

民事ノ訴訟ニ於テハ第一ニ數種ノ事項ヲ辨論スルヲ被告人ニ許セシ
アン女帝即位第四年ノ條例法第十六章第四條第五條ハ此條例法中ノ
如何ノ事ト雖モ反逆重罪又ハ謀殺又ハ何レノ他ノ事件ノ何レノ告訴
又ハ申告或ハ刑事條例法上ノ何レノ訴訟ニ及ホサ、ルヘシトノ一條
ヲ含有ス是故ニ刑事ノ手續ハ習慣法ニ於ル總テノ事件ニ關シテ成立
セシト同一ノ制限内ニ存留シ而テ一答辨ヨリ以上ハ何レノ告訴狀又
ハ告發書ニ對シテ答辨スルヲ得サルナリ然レモ重罪ニ於テハ若シ被
告人カ錯誤ニ對シテ答辨セハ其被告人ハ其後若シ該答辨カ自己ニ反

シテ判決サルレハ重罪ニ對シテ制限ヲ越ヘテ答辨セサル可ラス若シ
其被告人カ特別ナル拒否ノ答辨ヲ爲サハ其被告人ハ亦同時ニ重罪ニ
對シテ制限ヲ越ヘテ答辨スルヲ得及必ラス答辨セサル可ラス(此章
ノ第五節ノ部ヲ見ルヘシ)
被告人カ法廷ニ引致サレ及呼出サレタル(第五章ヲ見ルヘシ)時ハ罪ヲ
白狀シ或ハ惡意ヲ以テ沈黙シ或ハ告訴ニ對シテ直接ニ答辨セス(是ハ無
罪ノ答辨トシテ記入サル、ヲ得第四條ヨリシ帝即位第七年及第
八年ノ條例法第二十八章第二條)或ハ管轄ニ對シテ答辨シ又ハ錯誤ニ
對シテ答辨シ或ハ止訴答辨ヲ爲シ又ハ特別ナル拒否ノ答辨ヲナシ或
ハ一般ニ其無罪者ナルヲ答辨ス此等ノ數種ノ答辨方法ニ加フルニ
從前ハ聖場(プリ、ホフ、サンクチュアリー)ノ答辨及ヒ僧徒(プリ、ホフ、クラーシー)ノ答辨ノ如キ抗拒答辨ト稱セラレシモノ
アリキ此聖場ノ特權ハ第一世シエームス帝即位二十一年ノ條例法